

**AICHI
TRIENNALE
2010**

2010.8.21→10.31



**あいちトリエンナーレ2010
開催報告書**

目 次

I 主催者あいさつ	3	(8) 県民参加の状況	58
II 芸術監督報告	4	①ボランティアの状況	58
III 開催概要	7	②サポーターズクラブの状況	59
(1) 開催概要	9	(9) 会場運営・案内サイン	60
(2) 企画体制	11	(10) 広報の状況	62
(3) 主な会場	12	(11) グッズの作製・販売	66
(4) 実行委員会組織図	13	(12) 出版物(ガイドブック・カタログ等)	68
(5) 開催までの経緯	14	(13) 実行委員会の収支状況	70
IV 開催記録	17	(14) 企業等からの協賛・協力の状況	72
(1) 企画内容	19	(15) 県・名古屋市による補完事業(緊急雇用創出事業基金事業)	73
①主催事業	19	(参考) 県・名古屋市によるトリエンナーレ補完事業の内容	74
②共催事業	23	V アンケート結果等	79
③普及・教育	24	(1) アンケート調査の対象	81
(2) 参加アーティスト	27	(2) 来場者アンケート結果	82
(3) 主な特徴	30	(3) 関係者アンケート結果	94
(4) 会期中のイベント・プログラム	33	(4) 文化芸術関係機関等アンケート結果	101
(5) 来場者の状況	40	(5) 経済波及効果及びパブリシティ効果	109
(6) チケットの販売状況	43	(6) 専門家意見	110
(7) 地域との連携	47		
①共催事業	47		
②芸術系大学等との連携	50		
③並行企画(パラレルイベント)	51		
④パートナーシップ事業	52		

I 主催者あいさつ

II 芸術監督報告

I 主催者あいさつ

ごあいさつ

2010年8月から10月にかけて、愛知・名古屋から世界の先端的な現代アートを紹介する国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2010」を開催しました。72日間の会期中には、57万人を超える多くの皆様にご来場いただき、愛知で開催した初めてのトリエンナーレは盛況のうちに無事終了することができました。

あいちトリエンナーレは、経済面において、日本と世界をリードする一大拠点であるこの地域から、文化芸術面でも日本や世界に貢献していこうと、2008年3月に基本構想を発表し、以来、地元の自治体、経済界、報道機関、学識経験者による実行委員会を組織し、地域をあげて準備を進めてまいりました。

第1回目となる今回は、「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、世界24の国と地域から131組のアーティストの作品が愛知に集まりました。中心となる現代美術展では、愛知県美術館、名古屋市美術館といった美術館の中だけでなく、歴史のある繊維問屋街の空きビル等を会場とした長者町会場や、旧ボウリング場を活用した納屋橋会場など、まちなかの様々な場所を会場としつつ、愛知・名古屋を代表するシンボリックな場所であるオアシス21や名古屋城では、街ゆく人にも楽しんでいただける大規模な作品展示を行いました。

また、こうした現代美術作品の展示だけではなく、愛知芸術文化センターのホール、ギャラリーなどやまちなかの空間を利用して、多彩な舞台芸術公演やパフォーマンスも数多く実施いたしました。更には、愛知芸術文化センターでは、次代を担う子どもたちを対象とした「キッズトリエンナーレ」も開催し、多くの子どもたちが会場のあちらこちらでトリエンナーレを楽しみました。

あいちトリエンナーレは、今回を初回として、以降3年ごとの開催を目指しています。このたび、初回の開催記録や来場者の皆様、関係者の方々へのアンケート結果などを内容とする報告書を取りまとめました。今回の成果や課題をきちんと踏まえ、回を重ねるごとに、皆様により一層親しんでいただけるトリエンナーレとしていきたいと考えております。

最後になりましたが、あいちトリエンナーレ 2010 の開催にあたり、ご支援とご協力を賜りました全ての関係機関、並びに関係者の皆様方に対して深く感謝申し上げますとともに、今後ともあいちトリエンナーレへのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 3 月

あいちトリエンナーレ実行委員会

Ⅱ 芸術監督報告

あいちトリエンナーレ報告

—皆様への感謝をこめて—

国際展における芸術監督の主たる役割には、基本コンセプトをたてること、それに基づいて参加アーティストと作品を選択すること、また会場を決定し展示や公演までの責任を持つこと、プロジェクトの内容について、スタッフや参加アーティストは当然ながら、市民、行政、議会、企業、ジャーナリズムや専門家の理解を得ること、カタログを始めとする様々な印刷物や広報媒体に対応することなどがある。その任をよく果たし得たかどうかは世の評価に委ねるしかないが、正直なところを言えば、芸術監督の二年余りは、上記の仕事にまつわって不可避免的に発生する大小のトラブルの処理に明け暮れる日々であった。綱渡りをしながらも無事に会期を終えられたことを、多くの関係者の方々に感謝したい。

私が就任する以前のこのプロジェクトは「あいち国際芸術祭」と仮称されていたが、正式名を「あいちトリエンナーレ」とすることにしたのは、愛知を国際的な発信力、求心力を持ったアートの基地として位置付けるためには、何よりもまず継続的なプロジェクトであることを鮮明にすべきであると考えたからである。トリエンナーレと称するからには、何としても一回目を成功させなければならぬし、中途半端な内容では継続に向けての支持も得られないだろうから、私たちは重い責務を自らに課して出発したことになる。

さて「都市の祝祭」を今回のテーマとして掲げたのは、美術館などのアートの専用施設ばかりではなく、都市そのものを会場とし、斬新なアートとの触れ合いによって、日常的生活の場所をわくわくした非日常的な空間に変貌させることを意図したからである。長者町というアンチームな雰囲気を持った繊維問屋街を主会場の一つに選んだのはそのためだが、ある意味では身勝手でもある私たちの申し出に街の方々が快く応じて下さり、全面的に支援していただくことができたのは、何とも幸運なことであった。都市の祝祭とは市民のための祝祭であり、市民による祝祭でもなければならぬからだ。

祝祭性に加えて、私たちは“先端性”と“複合性”をも基本コンセプトに据えることにした。三年に一度開かれるイベントであるからには、先端性、つまりその時々のもっとも新たなアートの息吹を紹介することは自明の理のようなものであろうが、複合性はこのトリエンナーレならではの性格であると言ってよい。

美術ばかりではなく、いわゆるパフォーミング・アーツの分野をも含めようという方針は、まずは愛知芸術文化センターという、ギャラリー以外に三つの劇場をも合わせ持つ施設を最大限に活用するという条件から来ているが、単に美術展と劇場公演を並行して開催するだけでは既存のジャンルの加算に過ぎない。それぞれのアートの領域を専用施設に囲い込むのではなく、より融合的に捉え直すこと、相互的な関係を積極的に切り開くことができないかと私たちは考えたのである。具体的に言えばギャラリーの一部を常時、パフォーマンスが行われているスペースにし、劇場でも美術的な要素を含むイベントを多く取り上げることにしたのだ。またアングラ演劇の時代から前衛的な活動を展開してきた大須の七ツ寺共同スタジオには、美術家と演劇人とのコラボレーションのプロジェクトを組んでいただくことを依頼するなど、リスクを承知で今までにない試みに踏み込んだのである。

もちろん言うは易しで、現実にはさまざまな困難を伴う作業であった。キュレーターとプロデューサーはまったく性質の異なる仕事であることを思い知らされたと言ってもよい。美術では同一の作品を会期中、常時展示し続けることができるが、パフォーマンスではそうはいかない。スケジュール管理の仕方が異なるし、照明や音響の技術も似て非なるものである。いわば空間芸術と時間芸術を成立させる方法の本質的な違いに直面することを余儀なくされたわけである。それでもどうにか当初の意図を実現することができたのは、アーティストやスタッフを始めとする関係者の方々が、こちらの素人的な発想に興味を持ち、創意工夫で無理難題を克服して下さったからで、まさに平身低頭の思いである。

さらに大きなリスクを伴ったのは、壮大な規模のスペクタクル作品の制作と公開であった。草間彌生のオアシス 21 の「水の宇宙船」を使った華麗な屋外インスタレーションは台風などへの備えが必要だったし、蔡國強の“爆発絵画”の制作はぎりぎりのところで関係当局の許可が間に合ったのだが、体育館での火薬の爆発を受け入れ、学生たちもボランティアで参加してくれた名古屋芸術大学の“蛮勇”には、敬意を表するしかない。池田亮司の壮麗な光の柱を夜空に立ち上げる「spectra[nagoya]」は、名古屋城という理想的なロケーションが決まるまで、場所探しが難航し、一時期は開催を断念しかけたほどであった。西野達の巨大な「愛」の字のイルミネーションをクレーン車で吊り下げた作品は、最終案に到るまでアーティストに何度、プランの変更をお願いしたことか。これらのプロジェクトが、危機をはらみながらも、すべて実現に漕ぎ着けられたことは、いま白状すれば、奇跡的のようにすら思える。

それにしても準備と会期のすべてに当たって、ボランティアの働きは大きかった。彼ら、彼女らの情熱によって、むしろ私たちの方が勇気付けられたのである。その他、サポーターズクラブ、ベロタクシーや草間カーの活躍、協賛して下さった企業や団体、議員の方々など、多くの力の支えがなければ、あいちトリエンナーレの成功はなかったであろう。

詳細な報告は本書の各記事に譲ることにするが、この二年余りの関係者の奮闘の記録は、まさに“トリエンナーレ戦記”ともいうべきものになるはずである。その戦友たちに、また温かく見守って下さった神田真秋前知事に、そして何よりも市民の皆様に、改めて心からの御礼を申し上げなければならない。

あいちトリエンナーレ 2010 芸術監督
建畠 哲

Ⅲ 開催概要

Ⅲ-(1) 開催概要

■名称

あいちトリエンナーレ2010／Aichi Triennale 2010

■テーマ

都市の祝祭 Arts and Cities

■開催目的

- ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する
- ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る
- ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る

■芸術監督

建畠 哲(国立国際美術館館長)

(※2011年1月から京都市立芸術大学学長)

■会期

2010年(平成22年)8月21日(土)－10月31日(日) [72日間]

■会場

愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場

その他、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど

■主催

あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館

■特別協力

国際交流基金

■後援

文化庁 / オーストラリア大使館 / ベルギー王国大使館 / ベルギーフランドル交流センター / 東京日仏学院

■助成

財団法人地域創造 / 芸術文化振興基金 / Australia Council for the Arts / CULTURESFRANCE / Bundesministerium für Unterricht, Kunst und Kultur / オーストリア大使館(オーストリア文化フォーラム) / State Corporation For Spanish Cultural Action Abroad (SEACEX) / ブリティッシュ・カウンシル / 社団法人私的録音補償金管理協会(sarah) / フランス大使館 / 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / Mexico Conaculta / Goethe-Institut Japan in Kyoto(ドイツ文化センター(京都)) / 財団法人東海テレビ国際基金 / Arts Council England / 関西日仏交流会館 ヴィラ九条山 / La République et Canton de Genève / La Ville de Genève / Pro Helvetia / Ville de Lille / La Fondazione del Collegio Artistico Venturoli di Bologna

■協賛

社団法人愛知県医師会 / トヨタ自動車株式会社 / イオン株式会社 / 社団法人愛知県歯科医師会 /
愛知県私学協会 / 東海旅客鉄道株式会社 / 株式会社ナゴヤキャッスル / 社団法人愛知県宅地建物取引業協会 /
中部電力株式会社 / 東和不動産株式会社 / 長澤順子 / 社団法人愛知県私立幼稚園連盟 / キリックスグループ /
社団法人愛知県薬剤師会 / 名港海運株式会社 / 名古屋南ロータリークラブ / 株式会社 JTB 中部 /
株式会社宇佐美鉱油 / 岡谷鋼機株式会社 / 株式会社資生堂 / 東邦ガス株式会社 / 株式会社ニッショー /
愛知県美容業生活衛生同業組合 / 愛知県農業土木研究会 / 社団法人愛知県土木研究会 /
愛知県地域婦人団体連絡協議会 / 社団法人愛知県建設業協会 / 株式会社安部日鋼工業中部支店 /
アイシン精機株式会社 / 稲沢建設株式会社 / 愛知県女性団体連盟 / 社団法人愛知建築士会 /
株式会社伊藤建築設計事務所 / 黒金化成株式会社 / 光源舎オートプロダクツ株式会社 / 中部アイティ協同組合 /
戸田建設株式会社 / 豊田通商株式会社 / 株式会社名古屋銀行 / 株式会社日建設 /
社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 / 社団法人愛知ビルメンテナンス協会 /
名古屋ファッション専門学校 / 株式会社両口屋是清 / 株式会社デンソー / ウルフギャング・バック /
三和テクノ株式会社 / 医療法人大雄会 / 小島プレス工業株式会社 / JA グループ愛知 /
株式会社グローバルキャピタルマネジメント / 愛知県行政書士会 / 中部土木株式会社 / 竹田印刷株式会社 /
名古屋高速道路公社 / 財団法人中部電気保安協会 / 修文女子高等学校 / 愛知県住宅関連産業協議会 /
社団法人名古屋薬業倶楽部 / 学校法人専門学校日本デザイナー芸術学院 / 社団法人愛知県鍼灸マッサージ師会 /
鹿島建設株式会社中部支店 / 社団法人ガールスカウト日本連盟愛知県支部 / ホーユー株式会社 /
愛知県商店街振興組合連合会 / 社団法人愛知県建築士事務所協会 / 株式会社浦野設計 / 株式会社コングレ /
株式会社ジェイテクト / 住田建設株式会社 / 有限会社津島ロックサービス / 東海労働金庫 /
トーテックアメニティ株式会社 / 株式会社トリックス / 一般社団法人名古屋建築設計研究会 /
日本空調システム株式会社 / 山崎拓史 / ワンピース倶楽部 / ユニー株式会社 / セクダム株式会社 /
愛知県住宅供給公社 / 愛知県弁護士会 / 愛知県農業土木測量設計技術研究会 / 愛知県政功労者協会 /
中部国際空港株式会社 / 愛知県道路公社 / 社団法人愛知県造園建設業協会 /
財団法人愛知県健康づくり振興事業団 / 財団法人愛知県労働協会 / 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 /
愛知県モロロジー協議会 / 郵便事業株式会社東海支社 / 社会福祉法人愛知県厚生事業団 /
株式会社三菱東京 UFJ 銀行 / 愛知県土地改良事業団体連合会 / 愛知県中華料理生活衛生同業組合 /
愛知製鋼株式会社 / 株式会社 NHK ブラネット中部支社 / 川北電気工業株式会社 /
特定非営利活動法人世界劇場会議名古屋 / 大成株式会社 / 泰生商事株式会社 / 大同メタル工業株式会社 /
株式会社ダスキングリーングループ東海北陸地域本部 / 中部ガス株式会社 / 株式会社中部経済新聞社 /
中部広島県人会 / 津島ロータリークラブ / 東海島根県人会 / 東海和歌山県人会 / 豊田合成株式会社 /
名古屋テレビ塔株式会社 / 社団法人名古屋東法学会女性部会 / 阪和興業株式会社 / フジパン株式会社 /
山下隆義会計事務所 / LA PENSEE / 財団法人あいち産業振興機構 / 大治町文化協会 /
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 / 愛知県森林組合連合会 / 名古屋ホストライオンズクラブ / 椋山女学園大学 /
東海福島県人会 / 愛知県ビルメンテナンス協同組合 / 朝日電気工業株式会社 /
小俣シャッター工業株式会社名古屋支店 / 三金会・東海圏開発プロジェクト分科会 / 三精輸送機株式会社 /
株式会社東畑建築事務所名古屋事務所 / トステム鈴木シャッター株式会社名古屋支店 /
株式会社トロンマネージメント / 富士防災設備株式会社名古屋支店 / 株式会社松村電機製作所中部支店 /
株式会社山武 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社ヤマハミュージック東海 / 有限会社緑樹苑

■協力

カリモク家具株式会社 / セントラル画材株式会社 / 株式会社竹中工務店 / 名古屋鉄道株式会社 /
株式会社リボンワールド / 積水ハウス株式会社 / 三菱地所株式会社 / 株式会社東海インタービジョン /
株式会社ウィルコム / 株式会社サクラクレパス / 株式会社アクアテック / キリンビール株式会社 /
ぺんてる株式会社

■会場提供

株式会社アサヒ ファシリティズ / NTT都市開発株式会社 / 料亭河文 / 喫茶クラウン /
スターネットジャパン株式会社 / 株式会社セントラルパーク / 瀧定名古屋株式会社 /
株式会社多湖不動産コンサルタント / 中愛株式会社 / 東陽倉庫株式会社 / 豊島株式会社 /
名古屋市立富士中学校 / 丹羽幸株式会社 / 林八百吉株式会社 / 株式会社二葉 / 堀田商事株式会社 /
八木兵株式会社 / 山本洋品雑貨株式会社 / 吉田商事株式会社 / 株式会社綿寛商店 / ゑびすビル

■認定

社団法人企業メセナ協議会

Ⅲ-(2) 企画体制 (平成 22 年 8 月 21 日時点)

■芸術監督

建畠 哲(国立国際美術館館長)

1947年京都府生まれ。早稲田大学文学部仏文学科卒業後、文化庁、国立国際美術館研究官、多摩美術大学教授を経て、2005年から国立国際美術館館長。1990年と93年に、ヴェネツィア・ビエンナーレ日本コミッショナーを務めたほか、2001年横浜トリエンナーレアーティスティック・ディレクター。その他、釜山ビエンナーレエキジビション・ディレクティングを務めるなど、国際的な芸術祭の経験多数。(※2011年1月から京都市立芸術大学学長)

■キュレーター

ピエル・ルイジ・タッツィ(美術評論家、インディペンデント・キュレーター、イタリア在住) /
 ヨヘン・フォルツ(インオティム現代美術センターディレクター、ブラジル在住) /
 拝戸雅彦(愛知県美術館主任学芸員) / 笠木日南子(名古屋市美術館学芸員) /
 越後谷卓司[映像担当](愛知県文化情報センター主任学芸員) /
 唐津絵理[パフォーミング・アーツ担当](愛知県文化情報センター主任学芸員)

■ゲストキュレーター

エマニュエル・ドゥ・モンガソン(インディペンデント・キュレーター、フランス在住)

■アソシエイトキュレーター

波岡冬見(インディペンデント・キュレーター、スイス在住) / 原 久子(大阪電気通信大学教授)

■プロデューサー

大脇可子[オペラ担当](財団法人愛知県文化振興事業団主査)

■コーディネーター

藤井明子[パフォーミング・アーツ担当](愛知県文化情報センター主任学芸員) /
 水野 学[音楽担当](財団法人愛知県文化振興事業団主任)

■エデュケーター

伊藤優子[美術担当](フリーランス・エデュケーター)

■アーキテクト

武藤 隆(大同大学准教授)

■アシスタントキュレーター(現代美術)

林 育正(インディペンデント・キュレーター) / 吉田有里(インディペンデント・キュレーター) /
 岡村知子(インディペンデント・キュレーター) / 副田一穂(愛知県美術館学芸員) /
 野口絵里子(愛知県国際芸術祭推進室主事) / 小澤京子(インディペンデント・キュレーター) /
 赤井あずみ(愛知県国際芸術祭推進室主事)

■アシスタントキュレーター(パフォーミング・アーツ)

山口佳子(NPO法人アルファルファ代表) / 本多康紀(愛知県国際芸術祭推進室主事) /
 岩佐暁子(愛知県国際芸術祭推進室主事)

■企画コンペコーディネーター

野田路子(愛知県国際芸術祭推進室主事) / 田中由紀子(フリーランス・コーディネーター)

■アシスタントエデュケーター

鵜飼幸代(中学校非常勤講師) / 一柳初恵(小学校造形講師) /
 松村淳子(フリーランス・エデュケーター) / 近藤令子(愛知県国際芸術祭推進室主事) /
 徳重道朗(フリーランス・エデュケーター)

■アシスタント・アーキテクト

赤坂知也(アーキテクト)

■エディター

中西園子(愛知県国際芸術祭推進室主事) / かないみき(フリーランス・エディター)

Ⅲ-(3) 主な会場

■愛知芸術文化センター

愛知県美術館と本格的なオペラを上演可能な大ホール、小ホールやコンサートホールなどが複合した日本屈指の大規模公立文化施設。1992年開館。
 名古屋市東区東桜1-13-2
 9:00~22:00(会期中の美術館開館時間：火・水・日10:00~18:00 木・金・土10:00~20:00)
 月休(月曜日が祝日の場合は翌日休館、9/21、10/18、10/25は臨時開館)
 地下鉄東山線／名城線「栄」徒歩2分、名鉄瀬戸線「栄町」徒歩2分



■名古屋市美術館

名古屋市中心の緑豊かな白川公園の中にある美術館。黒川紀章の代表作として名高い。1988年開館。
 名古屋市中区栄2-17-25 火~木・土・日9:30~17:00 金9:30~20:00
 月休(月曜日が祝日の場合は翌日休館、10/18、10/25は臨時開館)
 地下鉄東山線／鶴舞線「伏見」徒歩8分、地下鉄鶴舞線「大須観音」徒歩7分、
 地下鉄名城線「矢場町」徒歩10分



■長者町会場

江戸時代中期から昭和初期までは花街として賑わい、戦後は日本三大繊維問屋街の一つとして発展。空きビルや駐車場用地等をトリエンナーレのスペースに活用する。サポーターズクラブ(LOVEトリーズ)によるカフェもオープン。
 名古屋市中区錦2 11:00~19:00(金のみ11:00~20:00) 無休
 地下鉄東山線／鶴舞線「伏見」徒歩5分、地下鉄桜通線／鶴舞線「丸の内」徒歩5分



■納屋橋会場

堀川沿い、納屋橋の南に位置する施設。ボウリング場などとして使用されてきたユニークな建物。
 名古屋市中区栄1-2-45 11:00~19:00(金のみ11:00~20:00) 無休
 地下鉄東山線／鶴舞線「伏見」徒歩5分



※その他、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、セツ寺共同スタジオ等の都市空間で展開するほか、様々な文化芸術施設等と連携して開催。

○会場周辺図

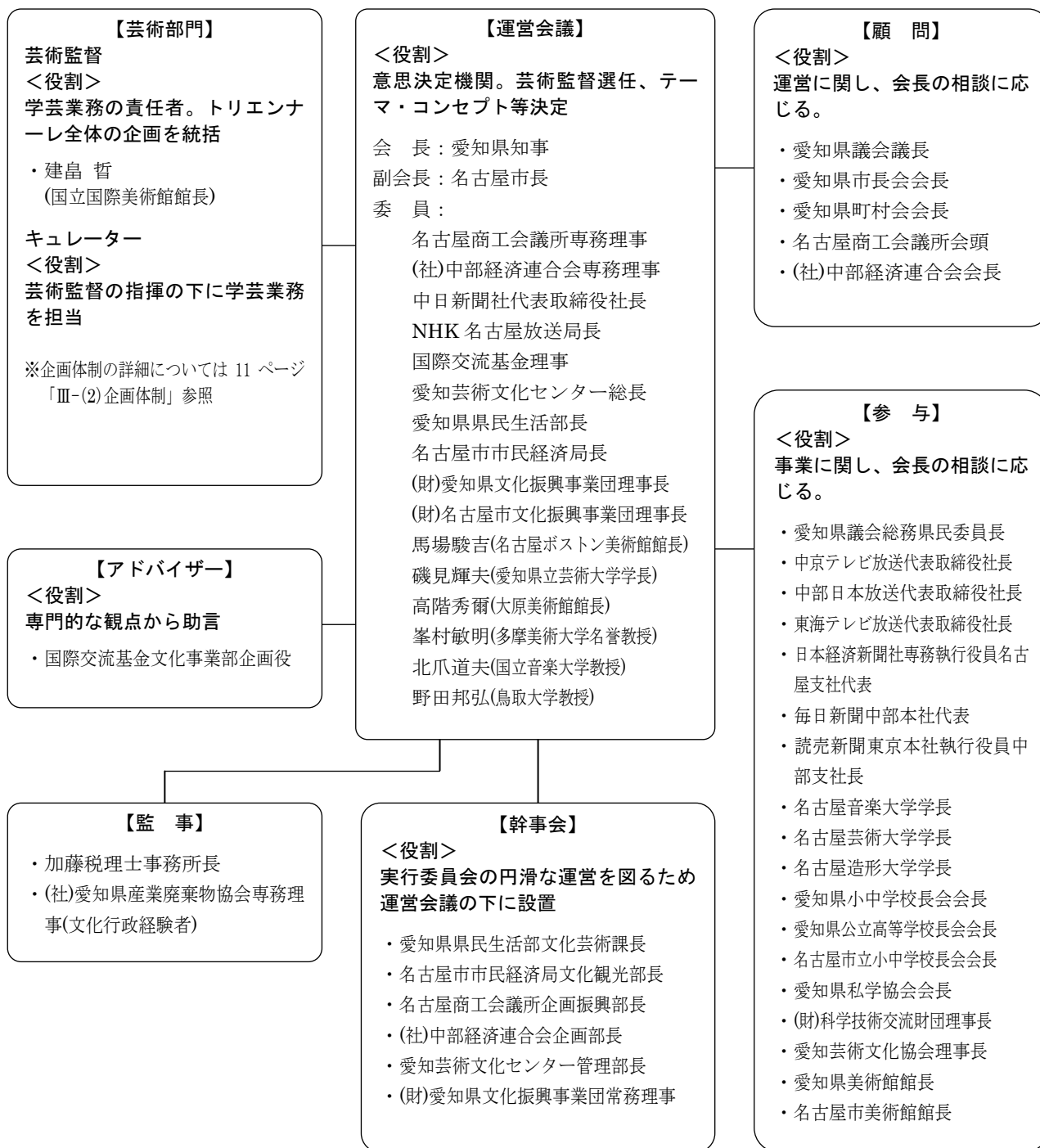


○展示面積(現代美術の国際展)

会場	展示面積
愛知芸術文化センター	7,449 m ²
名古屋市美術館	1,960 m ²
長者町会場	4,098 m ²
納屋橋会場	2,500 m ²
オアシス 21	1,760 m ²
中央広小路ビル	360 m ²
合計	18,127 m ²

※常設的な展示を行った会場の面積を計上した。

Ⅲ-(4) あいちトリエンナーレ実行委員会組織図 (平成 22 年 8 月 21 日現在)



Ⅲ-(5) 開催までの経緯

<平成 17 年度(2005 年度)>

平成 18 年 3 月	・「新しい政策の指針」公表
-------------	---------------

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、平成 18 年 3 月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」とこととした。

<平成 18 年度(2006 年度)>

平成 18 年 12 月 25 日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～
-------------------	--

平成 18 年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

<平成 19 年度(2007 年度)>

平成 19 年 12 月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定
--------------	-----------------------

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

平成 20 年 3 月 21 日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表
------------------	-----------------------

初回となる 2010 年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	・ 創造・発信：初回(2010 年)は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・ 普及・教育：美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・ 祝祭的展開：美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

<平成 20 年度(2008 年度)>

平成 20 年 6 月 28 日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第 1 回運営会議】 ・平成 20 年度事業計画及び収支予算等決定
平成 20 年 7 月 22 日	・芸術監督選任（平成 20 年 8 月 1 日芸術監督就任）
平成 20 年 10 月 14 日	【第 2 回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表

○正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表

- ・正式名称
あいちトリエンナーレ 2010 / Aichi Triennale 2010
- ・テーマ
都市の祝祭 Arts and Cities
- ・基本方針（要約）
あいちトリエンナーレ 2010 を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
 - 方針① 美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
 - 方針② 美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
 - 方針③ 現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーミング・アートをも積極的に取り込む。

▽シンポジウム：「今、国際トリエンナーレとは」

開催日：平成 20 年 10 月 14 日

場所：愛知芸術文化センター

▽プレイベント：アニマルズ in AAC ～三沢厚彦の世界～

会期：平成 21 年 3 月 24 日～平成 21 年 5 月 24 日

場所：愛知芸術文化センター

▽プレイベント：「ニブロール」公演「no direction。」

公演日：平成 21 年 3 月 25 日・26 日

場所：愛知芸術文化センター

平成 21 年 3 月 25 日	【第 3 回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成 21 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

○ロゴマークの公表

《ロゴマークデザインのコンセプト》

- ・あいちトリエンナーレの頭文字、A と T を組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
- ・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
- ・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。

デザイナー：山本 誠（愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業）



<平成 21 年度(2009 年度)>

平成 21 年 8 月 21 日	【第 4 回運営会議】 ・企画概要公表
------------------	------------------------

▽プレイベント：うしろの正面 ～アーティストたちの誠実な遊戯～
会期：平成 21 年 8 月 8 日～平成 21 年 9 月 23 日
場所：愛知芸術文化センター

▽プレイベント：放課後のはらっぱ ～櫃田伸也とその教え子たち～
会期：平成 21 年 8 月 22 日～平成 21 年 10 月 25 日
場所：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館

▽プレイベント：長者町プロジェクト 2009
会期：平成 21 年 10 月 10 日～平成 21 年 11 月 15 日
場所：長者町

平成 21 年 12 月 3 日	・東京での記者会見開催
------------------	-------------

▽プレイベント（関連イベント）：あいちアートの森＝アートが開くあいちの未来＝
会期：平成 21 年 12 月 4 日～平成 22 年 3 月 14 日
場所：名古屋市街地(広小路/堀川)、奥三河地区(東栄町)、常滑地区、
豊田地区、佐久島(一色町)で順次開催

▽プレイベント：キッズトリエンナーレ 2010 プレイベント
会期：平成 22 年 1 月 9 日～平成 22 年 3 月 14 日の間で 3 つのプロ
グラムを順次開催、
場所：愛知芸術文化センター、愛知県児童総合センター

平成 22 年 3 月 25 日	【第 5 回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 22 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	--

<平成 22 年度(2010 年度)>

平成 22 年 4 月～5 月	・台北(4 月 30 日)、北京(5 月 5 日)での記者会見開催
-----------------	-----------------------------------

平成 22 年 7 月	・記者会見開催 (愛知(7 月 6 日)、ソウル(7 月 7 日)、東京(7 月 14 日)、大阪(7 月 15 日))
-------------	---

平成 22 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2010 開催(8 月 21 日～10 月 31 日)
------------------	---

IV 開催記録

IV-(1) 企画内容 ①主催事業

■現代美術(ヴィジュアル・アーツ)の国際展

- ・世界各国から75組のアーティストが参加した日本最大規模の国際的な展覧会。
- ・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場を主な会場としつつ、まちなかにも展開。
- ・愛知・名古屋を象徴するオアシス21や名古屋城などでも、スペクタクルな作品を展示。
- ・日本で初めて紹介されるアーティストが多く、あいちトリエンナーレでしか見ることができない新作を数多く展示。

■パフォーミング・アーツ

- ・21組の気鋭のアーティストが集結。国内外の最先端かつジャンルを超えた先鋭的・複合的なパフォーミング・アーツをほぼ毎週末開催。
- ・これまで日本でほとんど紹介されていなかったヴィジュアル・アーツとパフォーミング・アーツの境界領域に位置する作品を多数紹介。
- ・愛知芸術文化センターのフォーラム(吹き抜け空間)や搬入口、長者町会場などの都市空間などにおいて、ダンス、音楽などのパフォーマンスを実施。

■あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ

- ・あいちトリエンナーレ2010プロデュースによる、新制作のオペラ オッフェンバック作曲「ホフマン物語」を上演。愛知芸術文化センター大ホールの機構を使ったオペラ公演。

■映像プログラム

- ・「映像の第二世紀に向けて」をテーマに、世界各国の12名の映像作家による先端的な長短編映像70作品を愛知芸術文化センター小ホールで9月28日(火)から10月10日(日)まで上映。また、長者町会場においても3名の若手映像作家による9作品を8月21日(土)から10月31日(日)まで上映。

■企画コンペによる展覧会

- ・公募によって選ばれた、他の国際展等には見られない多角的でユニークな視点による企画展を実施。
愛知芸術文化センター展示：応募総数204企画(国内139企画、海外24カ国65企画)から9企画を選定。
長者町会場展示：応募総数300企画(国内271企画、海外11カ国29企画)から12企画を選定。

■普及・教育

- ・8月21日(土)から10月31日(日)まで、子どもたちがいつ来ても創作活動ができる専用の場「デンスタジオ」を愛知芸術文化センター8階に設置し、「キッズトリエンナーレ」を開催。
- ・授業や部活動等でのトリエンナーレへの来場を促すため、学校向け教育プログラムを実施。また、県内の学校にアーティストを派遣。
- ・一般の方にも現代アートに親しんでもらえるよう、ボランティアによるガイドツアーを実施。

主催事業の開催日程

○現代美術の国際展

会 場	内 容	開催日
愛知芸術文化センター (愛知県美術館、アーツスペース)	国際美術展、企画コンペ	8/21(土)～10/31(日) 〔企画コンペ A日程：8/21(土)～9/12(日) B日程：9/15(水)～10/3(日) C日程：10/6(水)～10/31(日)〕
名古屋市美術館	国際美術展	
長者町会場	国際美術展、企画コンペ	
納屋橋会場	国際美術展	
名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、 七ツ寺共同スタジオ、トリエンナーレ会場 周辺の都市空間など	国際美術展	8/21(土)～10/31(日) ※会場により異なる

○パフォーミング・アーツ(愛知芸術文化センター大ホールでの公演)

団体名等	演 目	開催日
アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル＋ ジェローム・ベル＋アンサンブル・イクト ウス	『3Abschied ドライアップシート(3 つの別れ)』(日本初演)	10/30(土)、31(日)

○パフォーミング・アーツ(愛知芸術文化センター小ホールでの公演)

団体名等	演 目	開催日
平田オリザ＋石黒浩研究室(大阪大学)	ロボット版『森の奥』(世界初演)	8/21(土)～24(火)
デルガド・フッシュ	『桃色のズボンと赤いヌバックの先 の尖ったハイヒールをはいて、襟ぐり が緩んだセーターの上に着た空色の ウールのロングコート』(日本初演)	9/3(金)、4(土)
梅田宏明	『Adapting for Distortion (日本初 演) / Haptic』	9/11(土)、12(日)
ヤン・ファール	『Another Sleepy Dusty Delta Day ～ またもけだるい灰色のデルタデー』 (日本初演)	9/18(土)～20(月・祝)
チェルフィッチュ	『わたしたちは無傷な別人である』 (世界初演)	9/24(金)～26(日)
平田オリザ＋石黒浩研究室(大阪大学＆ ATR知能ロボティクス研究所)	アンドロイド演劇『さようなら』 (世界初演)	9/30(木)
ニブロール	『THIS IS WEATHER NEWS』(世界初演)	10/22(金)～24(日)
ローザス	『ローザス・ダンス・ローザス Rosas danst Rosas』(愛知単独公演)	10/26(火)～28(木)

○パフォーミング・アーツ(愛知芸術文化センター8階 ギャラリーGでの公演)

団体名等	演 目	開催日
ラ・リボット	①『Laughing Hole』 ②『PARAichi-Distinguida』	①8/21(土) ②8/28(土)～29(日)
ソニア・クーラナ	『Lying-down-on-the-ground: additional notes』	9/4(土)

フォースド・エンターテイメント	『Quizoola!』	9/18(土)
ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ	『Over the Table』	9/22(水)～26(日)
アントニア・ベアー	①『Over The Shoulder』 ②『Laugh』	①9/25(土)～26(日) ②10/1(金)～2(土)
スティーヴン・コーヘン	①『The Wandering Jew』－彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐー ②『Chandelier』	①10/18(月)～24(日) ②10/23(土)～24(日)
山川冬樹	『Pneumonia』	10/30(土)～31(日)

○パフォーミング・アーツ(まちなかでの公演)

団体名等	演 目	開催日・開催場所
野村誠	『プールの音楽会』	8/28(土) 名古屋市立富士中学校プール
まことクラヴ	『長者町繊維街の日常』	9/4(土)、5(日) 愛知芸術文化センター(フォーラム)～長者町会場(丹羽幸(株)ミクス館)
ボリス・シャルマツ	①『héâtre-élévision』 (体験型映像インスタレーション) ②『Quintette Cercle』(日本初演)	①8/21(土)～10/31(日) 納屋橋会場(東陽倉庫テナントビル) ②9/4(土)、9/5(日) 名城公園
コンタクト・ゴンゾ	『non titled』	9/18(土)、19(日)、20(月・祝) 愛知芸術文化センター(搬入口B)
平山素子	『Carp with wings, me』	10/3(日) 長者町会場(料亭河文)
Open Reel Ensemble	『オープンリールアンサンブル ライブ』	10/16(土)、17(日) 長者町会場(旧モリリン名古屋支店ビル)

○プロデュースオペラ(愛知芸術文化センター大ホールでの公演)

団体名等	演 目	開催日
指揮＝アッシャー・フィッシュ 演出＝粟國淳	あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ「ホフマン物語」(新制作)	9/18(土)、20(月・祝)

○映像プログラム

会 場	内 容	開催日
愛知芸術文化センター 小ホール	映像の第二世紀に向けて	9/28(火)～10/10(日)
長者町会場		8/21(土)～10/31(日)

○その他(シンポジウム等)

会 場	内 容	開催日時
愛知芸術文化センター アールスペースA	オープニングシンポジウムⅡ 「クロストーク～国際展の現場」 ○コーディネーター ・ 藤川 哲(山口大学人文学部准教授) ○パネリスト ・ 建畠 哲(あいちトリエンナーレ2010芸術監督) ・ ピエル・ルイジ・タッツィ(あいちトリエンナーレ2010キュレーター) ・ ヨヘン・フォルツ(あいちトリエンナーレ2010キュレーター) ・ エマニュエル・ドゥ・モンガソン(あいちトリエンナーレ2010ゲストキュレーター)	8/22(日) 13:30～
愛知芸術文化センター 小ホール	オープニングシンポジウムⅢ 「劇場における国際芸術祭の可能性」 ○パネリスト ・ 平田オリザ(劇作家、演出家、劇団「青年団」主宰、大阪大学教授) ・ 宮城聡(演出家、SPAC(静岡県舞台芸術センター)芸術総監督) ・ 下山久(キジムナーフェスタく国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ)プロデューサー) ・ 久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団プログラム・ディレクター) ・ 唐津絵理(あいちトリエンナーレ2010キュレーター) ○司会 ・ 藤井明子(あいちトリエンナーレ2010コーディネーター)	8/22(日) 16:30～
名古屋市美術館 講堂	ファイナルシンポジウム 「みんなで話そうあいちトリエンナーレ！」 ○参加者 ・ 建畠 哲(あいちトリエンナーレ 2010 芸術監督) ・ 笠木日南子(あいちトリエンナーレ 2010 キュレーター) ・ 山本高之(あいちトリエンナーレ 2010 参加アーティスト) ・ 長者町関係者、ボランティア従事者など ○司会 ・ 副田一穂(あいちトリエンナーレ2010アシスタントキュレーター)	10/29(金) 18:00～
愛知芸術文化センター アールスペースA	【連携事業】 第13回アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟(AAPPAC)総会 あいちトリエンナーレ2010開催にあわせ、アジア太平洋地域の劇場関係者約50名が一堂に会し、年次総会を行うとともに、パフォーミングアーツに関する情報交換や意見交換を行った。 ○主催:アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟 ■基調講演 「アジア太平洋地域における文化交流圏の形成について」 (講師:青木保(青山学院大学特任教授、第18代文化庁長官)) ■年次総会 ■ディスカッション「先進的・先端的な作品へのアプローチ」 など ※アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟(AAPPAC) アジア太平洋地域の芸術・文化を発展させるため、作品、ノウハウ、スタッフの情報交換を行うための非政府的、非政治的、非営利的な国際団体。愛知芸術文化センターは設立当初メンバー。(平成23年2月現在、正会員10か国1地域33団体)	9/15(水) ～17(金)

IV-(1) 企画内容 ②共催事業

■国際交流基金との共催事業

国際交流基金との共催により、「国際展シンポジウム」及び「西京人(さいきょうじん)による作品展示」を行った。

○国際展シンポジウム「国際展のミッションー東アジアからの展望」(オープニングシンポジウムⅠ)

- ・開催日時 平成 22 年 8 月 21 日(土) 午後 1 時から 3 時 30 分
- ・会場 愛知芸術文化センター アートスペース A
- ・内容 日中韓 3 カ国の国際展の主催者代表により、それぞれの国際展のミッションと活動状況、主な成果等について、意見交換を行った。
 - ・基調講演 福原義春(株)資生堂名誉会長、東京都写真美術館館長)
 - ・パネルディスカッション
 - モデレーター 建畠 哲 (あいちトリエンナーレ 2010 芸術監督)
 - パネリスト 李 尚燮 / Lee Sang Sub (釜山ビエンナーレ事務局長)
 - 李 龍雨 / Lee Yongwoo (光州ビエンナーレ財団 CEO)
 - 邵 珊 / Shao Shan (広州トリエンナーレ事務局長、広東美術館副館長)
 - 張 晴 / Zhang Qing (上海ビエンナーレ事務局長、上海美術館副館長)
 - 伊東 正伸(横浜トリエンナーレ 2008 事務局長)

- ・入場者数 120 人

○西京人による作品展示

西京人(小沢剛(日本)、チェン・シャオション(中国)、ギムホンソック(韓国)の 3 人の現代美術作家から成るユニット)による人形劇「第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ(あいちヴァージョン)」の映像作品を上映。また、会期中の週末を中心に、パペットシアターゆめみトラノクにより実際の人形劇の上演も行われた。

- ・上演回数 会期中(8/21～10/31)に 10 日間(各日 4 回公演)
- ・会場 愛知芸術文化センター地下 2 階 フォーラムⅡ
- ・入場者数 計 4,363 人



西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ(あいちヴァージョン)》撮影：怡土鉄夫

■地元文化芸術団体等との共催事業 (あいちトリエンナーレ 2010 祝祭ウィーク共催事業)

平成 22 年 10 月 11 日(月・祝)～17 日(日)の一週間を「祝祭ウィーク」と位置づけ、公募選考により決定した地元文化芸術団体等と実行委員会、愛知芸術文化センターの 3 者による共催で、伝統芸能、舞踊、音楽、演劇などの公演を行った。 ※公演日、主催者名、公演名等は、「IV(7)地域との連携①共催事業」(47 ページ)に掲載

■セツ寺共同スタジオとの共催事業

前衛芸術の拠点として古くから知られるセツ寺共同スタジオとの共催で、現代美術と演劇のコラボレーション企画を実施した。 ※企画内容等の概要は、「IV(7)地域との連携①共催事業」(48 ページ)に掲載

■東海テレビとの共催事業

東海テレビとの共催で、地元バレエ界が横断的に参加するバレエの祭典「グラン・ドリーム・バレエ・フェス」を実施した。 ※企画内容等の概要は、「IV(7)地域との連携①共催事業」(48 ページ)に掲載

■その他の共催事業

長者町青長会やサポーターズクラブと共催し、アーティストパーティーやトリエンナーレスクールを実施した。 ※企画内容等の概要は、「IV(7)地域との連携①共催事業」(49 ページ)に掲載

IV-(1) 企画内容 ③普及・教育

■キッズトリエンナーレ

- ・キッズトリエンナーレは、国内のトリエンナーレとして初めての試みであり、平成 22 年 8 月 21 日(土)から 10 月 31 日(日)までの期間中に 22,328 人の子どもとその保護者らが参加した。
- ・子どもたちは、愛知芸術文化センター8 階に設置された「デンスタジオ」で自由に創作活動を楽しんだ。※「デンスタジオ」の「デン」とは、英語で子どもたちの秘密の遊び場、隠れ家の意味。
- ・週末を中心に地元愛知の瓦や布等の素材を取り上げたプログラムやアーティストと子供たちが一緒に創作するプログラムを延べ 52 回行った。



【デンスタジオの様子】



【プログラムの様子】

○キッズトリエンナーレプログラム

◇鑑賞プログラム

タイトル	実施日	参加者数(人)
子どもツアーみでみる隊	8/24、26、27、9/4、5、11、19、26、10/2、10、31	195
いっしょに見よう！楽しもう！感じよう！1・2	10/17、23	68
高校生とトリエンナーレでみてしるトーク	10/23	96

◇やってみるプログラム ※子どもとアーティストと一緒に創作を行ったもの。

タイトル	実施日	参加者数(人)
ダイナミックなお絵描き	8/21	21
素材のぼうけん1 シンブン・マウンテン	8/22	19
ガーデン・カーテンまちなかの小さな緑	8/24	14
素材のぼうけん2 さわる・きる・だきしめる	8/25	19
リズムと言葉・ラップで遊ぼう	8/25、26、27 (3 日間の講座)	24
素材のぼうけん3 カケラ・ラ・ツナグ	8/28	17
グルグルワークショップ	8/29	14
フィジカル・ドローイング	9/11、12 (2 日間の講座)	34
ふしぎのくにへ、ようこそ1 そらはふしぎ	9/12	14
禁断の惑星これもアートか？現代美術入門	9/18	21
木炭デッサンでグレーの世界を体験しよう豊かな中間は美術の基本	9/25、10/2 (2 日間の講座)	15
ふしぎのくにへ、ようこそ2 ふしぎなどうぶつえん	10/3	21
音のワークショップ科学×音楽＝アート！	10/9	25
大きな人の絵	10/16、17	44
ふしぎのくにへ、ようこそ3 とんねるのむこうは？	10/24	20

◇あいちワークショップ ※県内各地域のものづくりや素材等をキーワードにしたワークショップ

タイトル	実施日	参加者数(人)
つなげてならべて凸凹ロード	8/22	17
くるくるまきまき繭玉をつくろう	8/26	18
いぶし瓦で打楽器づくり	8/29	22
感じたままにクレイワーク	9/5	11
キラキラ☆モンスター	9/19	18
現代を生きるわたしの継色紙	9/20	11
マイ・文字・オブジェ	9/23	16
布のしゃぼん玉をとばそう	9/26	17
ヒラヒラ開く染めの世界	10/10	18
わっしょい！ぼくらの鯛みこし	10/11	25
ビリ・クシャアートなぼうし	10/17	13

ふしぎアンテナ	10/30	17
ナンデモ絵筆で描こう	10/31	18

◇その他 ※マーガレット一家の紙芝居は自由参加

タイトル	実施日	参加者数（人）
マーガレット一家たっちゃんの紙芝居	8/29、9/23、10/11	1,018
消しゴム版画でオリジナル・エコバッグを作ろう	10/2、3	130

■学校向け教育プログラム

- ・授業や部活動、遠足等でトリエンナーレに来てもらえるよう、学校団体向けの鑑賞プログラムを 8 月 24 日(火)から 10 月 31 日(日)まで、愛知芸術文化センター及び名古屋市美術館で実施した。
- ・最終的に県内外から 124 校、9,111 人の児童・生徒が来場した。

※学校向け教育プログラム…学校団体向けにトリエンナーレの見所や現代アートの楽しみ方のガイダンスを行うとともに、鑑賞に際し、児童・生徒が現代アートに向き合いやすくなるようワークシートを配付。さらに、希望する学校には、ガイドボランティアによる作品ガイドも実施。

区分	校数	人数
小 学 校	42 校 (33.9%)	3,421 人 (37.5%)
中 学 校	55 校 (44.4%)	2,594 人 (28.5%)
高等学校	20 校 (16.1%)	2,970 人 (32.6%)
特別支援学校	5 校 (4.0%)	83 人 (0.9%)
専門学校等	2 校 (1.6%)	43 人 (0.5%)
合 計	124 校 (100.0%)	9,111 人 (100.0%)



- ・学校の地域別参加状況は、名古屋市内の学校が約 3 割、県内の名古屋市を除く学校が約 6 割、県外の学校が約 1 割であった。※県外の学校は、三重県(8)、岐阜県(3)、静岡県(2)、石川県(1)、京都府(1)、滋賀県(1)の 16 校。

■学校へのアーティスト派遣事業

- ・トリエンナーレ開幕前から期間中にかけ、トリエンナーレ出品作家を含む 6 組のアーティストを県内 7 つの学校に派遣した。
- ・アーティストがアートとはどんなものかをレクチャーしたり、子どもたちと一緒に作品制作をする授業を行い、出来上がった作品や授業の様子等については、トリエンナーレのメイン会場である愛知芸術文化センター会場に展示したり、パネル等で紹介したりした。



【篠島小学校】



【飛島学園飛島中学校】

派遣先	実施日	アーティスト
知多郡南知多町立篠島小学校 / 中学校	6/22、23、28、30	島袋道浩※
愛知県立岩倉総合高等学校	7/13、8/18～31、9/13	森北伸
飛島村立小中一貫教育校飛島学園飛島中学校	6/16、7/2、15	フジイフランソワ
東栄町立東栄小学校	6/24、7/16	ジュー・チュンリン※
豊田市立則定小学校	5/31、6/14、9/6、22	北山美那子
名古屋市立御園小学校	6/7、9、10/22、23	エレファント

※印は、あいちトリエンナーレ 2010 出品作家

■ボランティアによるガイドツアー

- ・ボランティアが2人一組で、1回あたり約40分のガイドツアーを、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場の3か所で行った(参加無料)。
- ・愛知芸術文化センターでは1日3回、それ以外の会場では週末を中心に1日2回、計530回のガイドツアーを実施した。ガイドツアーへの最終的な参加者数は、7,029人であった。
- ・ガイドツアーボランティアに登録したボランティアは168名であった。



区 分	愛知芸術文化センター	名古屋市美術館	長者町会場	計
ガイドツアー実施回数	426 回	60 回	44 回	530 回
参加者数	5,813 人	918 人	298 人	7,029 人

■音声ガイド

- ・より深く作品を理解し、現代美術を楽しんでいただけるよう、会場での画面付き音声ガイド機の貸し出しと、iPhone アプリ配信による音声ガイドを実施した(いずれも有料)。

○音声ガイド機貸出					
貸出会場	ガイド作品数等	言 語	所要時間	貸出価格	貸出台数
愛知芸術文化センター8階・10階、名古屋市美術館	3会場合計26作品、芸術監督プロローグ、作家動画メッセージ	日本語版、英語版	3会場合計約40分	3会場共通券500円(税込)	5,142台
○iPhone アプリ配信による音声ガイド					
ガイド作品数等		言 語	所要時間	配信価格	購入件数
名古屋の街中に展示される作品のうち、長者町会場、納屋橋会場、中央広小路ビル、オアシス21(草間彌生)、愛知芸術文化センター(松井紫朗)の14作品、芸術監督プロローグ		日本語版、英語版	約25分	230円(税込)	253件

※いずれも、企画・制作：あいちトリエンナーレ実行委員会、(株)A&D オーディオガイド、協力：東海ケーブルチャンネル

IV-(2) 参加アーティスト

- ・24 の国と地域から 131 組のアーティストが参加し、現代美術、ダンスや演劇等のパフォーマンス・アーツやオペラなどの世界最先端の現代アートを紹介した。

○参加アーティスト一覧（すべてアルファベット順）

参加アーティスト(現代美術)					展示会場								
	アーティスト名	生年	在住都市	ジャンル	芸文	市美	長者	納屋	名城	オア	中央	七ツ	周辺
1	アデル・アブデスメッド	Adel Abdessemed	1971	パリ	インスタレーション	○		○					
2	秋吉風人	Futo Akiyoshi	1977	大阪	絵画	○							
3	青田真也	Shinya Aota	1982	愛知	彫刻/インスタレーション			○					
4	フアン・アラウホ	Juan Araujo	1971	カラカス(ベネズエラ)	絵画	○							
5	浅井裕介	Yusuke Asai	1981	東京	インスタレーション			○					
6	メルヴェ・ベルクマン	Merve Berkman	1977	イスタンブール	写真			○					
7	マーク・ボスウィック	Mark Borthwick	1962	ニューヨーク	写真/インスタレーション			○					
8	ズリカ・ブアブデラ	Zoulikha Bouabdellah	1977	パリ	インスタレーション	○							
9	蔡國強(ツァイ・グオチャン)	Cai Guo-Qiang	1957	ニューヨーク	絵画	○							
10	ミケランジェロ・コンサーニ	Michelangelo Consani	1971	リヴォルノ(イタリア)	インスタレーション	○							
11	フィロズ・マハムド	Firoz Mahmud	1974	東京、ニューヨーク	インスタレーション	○							
12	トム・フリードマン	Tom Friedman	1965	ルヴァレット(アメリカ)	絵画/彫刻/映像		○						
13	シブリアン・ガイヤール	Cyprien Gaillard	1980	ベルリン	映像	○							
14	ジェラティン	Gelitin	Ali Janka 1971 Florian Reither 1967 Tobias Urban 1967 Wolfgang Gantner 1970	ウィーン	インスタレーション		○						
15	オリヴァー・ヘリング	Oliver Herring	1964	ニューヨーク	映像	○							
16	黄世傑(ホアン・スー・チエ)	Huang Shih Chieh	1975	ニューヨーク	インスタレーション		○						
17	市川武史	Takefumi Ichikawa	1971	愛知	インスタレーション			○					
18	池田亮司	Ryoji Ikeda	1966	パリ	インスタレーション				○				
19	石田達郎	Tatsuo Ishida	1974	愛知	パフォーマンス/ インスタレーション			○					
20	泉孝昭	Takaaki Izumi	1975	愛知	インスタレーション				○				
21	ジュー・チュンリン	Joo Choon Lin	1984	シンガポール	アニメーション/ インスタレーション			○					
22	アマル・カンワル	Amar Kanwar	1963	ニューデリー	映像	○							
23	川見俊	Shun Kawami	1981	愛知	絵画/インスタレーション			○					
24	ソニア・クーラナ (ギャラリーGでの公演もあり)	Sonia Khurana	1968	ニューデリー	インスタレーション	○							
25	ヤコブ・キルケゴール	Jacob Kirkegaard	1975	ベルリン	映像インスタレーション	○							
26	木村崇人	Takahito Kimura	1971	山梨	ワークショップ/ インスタレーション				○		○		
27	ルシア・コッホ	Lucia Koch	1966	サンパウロ	インスタレーション			○					
28	小金沢健人	Takehito Koganezawa	1974	ベルリン	映像インスタレーション				○				
29	小泉明郎	Meiro Koizumi	1976	神奈川	映像				○				
30	クー・ジュンガ	Koo Jeong A	1967	ロンドン、ベルリン	インスタレーション		○						
31	KOSUGE1-16	コスゲイチ/ジュウロク	土谷享 1977 車田智志 1977	東京	ワークインプログレス/ インスタレーション			○					
32	草間彌生	Yayoi Kusama	1929	東京	インスタレーション/彫刻	○				○			
33	松井紫朗	Shiro Matsui	1960	京都	インスタレーション	○							
34	三沢厚彦 + 豊嶋秀樹	Atsuhiko Misawa Hideki Toyoshima	1961 1971	神奈川 神奈川	彫刻/インスタレーション	○							
35	宮永愛子	Aiko Miyahara	1974	京都	インスタレーション	○			○				
36	村田峰紀	Mineki Murata	1979	埼玉	パフォーマンス/ インスタレーション			○					
37	西野達	Tatzu Nishi	1960	東京、ベルリン	インスタレーション			○					○
38	小栗沙弥子	Sayako Oguri	1978	岐阜	インスタレーション			○					
39	オー・インファン	Inhwan Oh	1964	ソウル	インスタレーション		○						
40	ハンス・オブ・デ・ビーグ	Hans Op de Beeck	1969	ブリュッセル(ベルギー)	映像	○							
41	ラクウェル・オーメラ	Raquel Ormella	1969	シドニー	映像		○						
42	ジム・オヴェルメン	Jim Ovelmen	1970	ロサンゼルス	アニメーション/ パフォーマンス						○		
43	アマリア・ピカ	Amalia Pica	1978	ロンドン	インスタレーション	○							
44	ピップ&ポップ	Pip & Pop	Tanya Schultz 1972 Nicole Andrijevic 1981	バース(オーストラリア)	インスタレーション						○		
45	ナウィン・ラワンチャイクン	Navin Rawanchaikul	1971	チェンマイ(タイ)、福岡	インスタレーション/ パフォーマンス			○					
46	ジラユ・ルアンジャラス	Jirayu Rengjara	1980	カラシン(タイ)	絵画/彫刻	○	○	○					

47	ナタリヤ・リボヴィッチ&藤田央	Natalija Ribovic	1976	東京	ワークショップ				○								
		Toru Fujita	1972														
48	ダヴィデ・リヴァルタ	Davide Rivalta	1974	ボローニャ(イタリア)	絵画/彫刻				○	○							
49	斉と公平太	Kouheita Saito	1972	愛知	インスタレーション				○								
50	志賀理江子	Lieko Shiga	1980	宮城	写真/インスタレーション	○											
51	島袋道浩	Shimabuku	1969	ベルリン	インスタレーション			○									
52	志村信裕	Nobuhiro Shimura	1982	神奈川	映像インスタレーション				○								
53	塩田千春	Chiharu Shiota	1972	ベルリン	インスタレーション			○									
54	サンティアゴ・シエラ	Santiago Sierra	1966	マドリード、 ルッカ(イタリア)	インスタレーション												○
55	アーヒム・シュティアーマン & ローランド・ラウシュマイアー	Achim Stiermann	1975	アウグスブルク(ドイツ)	映像インスタレーション										○		
		Roland Rauschmeier	1974	ウィーン						○							
56	カーメン・ストヤノフ	Kamen Stoyanov	1977	ウィーン	映像/インスタレーション					○							
57	高嶺格	Tadasu Takamine	1968	滋賀	インスタレーション											○	
58	トーチカ	TOCHKA	ナガタケシ 1978	奈良	インスタレーション				○								
			モノノカヅエ 1978														
59	登山博文	Hirofumi Toyama	1967	愛知	絵画	○											
60	タチアナ・トゥルーヴェ	Tatiana Trouvé	1968	パリ	インスタレーション	○											
61	蔡明亮(ツァイ・ミンリャン)	Tsai Ming Liang	1957	台北	映像インスタレーション	○	○										
62	曾達華(ツァン・キンワ)	Tsang Kin Wah	1976	香港	映像インスタレーション	○											
63	梅田宏明(舞台公演もあり)	Hiroaki Umeda	1977	東京	映像インスタレーション					○							
64	梅田哲也	Tetsuya Umeda	1980	大阪	インスタレーション				○								
65	ヘマ・ウパディヤイ	Hema Upadhyay	1972	ムンバイ(インド)	インスタレーション	○											
66	渡辺英司	Eiji Watanabe	1961	愛知	インスタレーション	○			○								
67	フランツ・ヴェスト	Franz West	1947	ウィーン	彫刻			○									
68	ケリス・ウィン・エヴァンス	Cerith Wyn Evans	1958	ロンドン	インスタレーション				○								
69	山本高之	Takayuki Yamamoto	1974	愛知	映像/インスタレーション				○								
70	山下麻衣+小林直人	Mai Yamashita	1976	ベルリン	映像インスタレーション						○						
		Naoto Kobayashi	1974														
71	楊福東(ヤン・フードン)	Yang Fudong	1971	上海	フィルム/ インスタレーション						○						
72	ジンミ・ユーン	Jin-me Yoon	1960	バンクーバー	映像インスタレーション				○								
73	孫原+彭禹 (スン・ユアン + ポン・ユウ)	Sun Yuan	1972	北京	インスタレーション						○						
		Peng Yu	1974														
74	エクトール・サモラ	Héctor Zamora	1974	サンパウロ	インスタレーション	○	○										
75	張涓(ジャン・ホァン)	Zhang Huan	1965	上海、ニューヨーク	彫刻	○											

参加アーティスト (パフォーミング・アーツ)									
	アーティスト名		生年 (又は結成年)	在住都市 (又は活動拠点)		新作	公演会場		
76	アントニア・ベアー	Antonia Baehr	1970	在住都市：ベルリン		日本初演	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
77	ボリス・シャルマツ	Boris Charmatz	1973	在住都市：レンヌ(フランス)		日本初演	納屋橋会場(東陽倉庫テナントビル)等		
78	チェルフィツチュ	chelfitsch	1997 結成	活動拠点：神奈川		世界初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
79	スティーヴン・コーヘン	Steven Cohen	1962	在住都市：リール(フランス)		世界初演	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
80	コンタクト・ゴンゾ	contact Gonzo	2006 結成	活動拠点：大阪		世界初演	愛知芸術文化センター(搬入口B)		
81	アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトウス	Anne Teresa De Keersmaeker	1960	在住都市：ブリュッセル(ベルギー)		日本初演	愛知芸術文化センター(大ホール)		
		Jérôme Bel	1964	在住都市：パリ					
		Ictus	1994 結成	活動拠点：ブリュッセル(ベルギー)					
82	デルガド・フッシュ	Delgado Fuchs	2002 結成	活動拠点：ベルン(スイス)		日本初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
83	ティム・エッチェルス & ヴラトウカ・ホルヴァ	Tim Etchells	1962	在住都市：シェフィールド(イギリス)		世界初演	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
		Vlatka Horvat	1974	在住都市：ニューヨーク					
84	ヤン・ファープル	Jan Fabre	1958	在住都市：アントワープ (ベルギー)		日本初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
85	フォースド・エンターテイメント	Forced Entertainment	1984 結成	活動拠点：シェフィールド(イギリス)		—	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
86	平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)	Oriza Hirata + Ishiguro Laboratory (Osaka University)	平田オリザ 1962	在住都市：東京		世界初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
			石黒浩 1963	在住都市：大阪					
87	平山素子	Motoko Hirayama	1967	在住都市：東京		世界初演	長者町会場(料亭河文)		
88	ソニア・クーラナ (国際美術展での展示もあり)	Sonia Khurana	1968	在住都市：ニューデリー		日本初演	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
89	ラ・リボット	La Ribot	1962	在住都市：ジュネーヴ		世界初演	愛知芸術文化センター(ギャラリーG)		
90	まことクラヴ	Makotocluv	2001 結成	活動拠点：東京		世界初演	愛知芸術文化センター(フォーラム) 長者町会場(丹羽幸(株))		
91	ニブロール	Nibroll	1997 結成	活動拠点：東京、神奈川		世界初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
92	野村誠	Makoto Nomura	1968	在住都市：京都		世界初演	名古屋市立富士中学校プール		
93	Open Reel Ensemble	オープンリールアンサンブル	2009 結成	活動拠点：東京		—	長者町会場(旧モリリン名古屋支店ビル)		
94	ローザス	Rosas	1983 結成	活動拠点：ブリュッセル(ベルギー)		愛知単独公演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
95	梅田宏明 (国際美術展での展示もあり)	Hiroaki Umeda	1977	在住都市：東京		日本初演	愛知芸術文化センター(小ホール)		
96	山川冬樹	Fuyuki Yamakawa	1973	在住都市：神奈川		世界初演	愛知県芸術文化センター(ギャラリーG)		

参加アーティスト(プロデュースオペラ)					
	アーティスト名		生年	出身地	新作 公演場所
97	アッシャー・フィッシュ (指揮)	Asher Fisch (Conductor)	1958	エルサレム(イスラエル)	新制作 愛知芸術文化センター(大ホール)
	栗園淳 (演出)	Jun Aguni (Stage Director)	1967	東京	

参加アーティスト(映像プログラム)					
	アーティスト名		生年	活動拠点	上映場所
98	有吉達宏	Tatsuhiro Ariyoshi	1984	東京	長者町会場(中愛ビル)
99	石田尚志	Takashi Ishida	1972	東京	愛知芸術文化センター(小ホール)
100	金東薫	Donghoon Kim	1977	京都	愛知芸術文化センター(小ホール)
101	倉田愛実	Ami Kurata	1985	京都	長者町会場(中愛ビル)
102	牧野貴	Takashi Makino	1978	東京	愛知芸術文化センター(小ホール)
103	ジョナス・メカス	Jonas Mekas	1922	ニューヨーク	愛知芸術文化センター(小ホール)
104	アリアンヌ・ミシェル	Ariane Michel	1973	パリ	愛知芸術文化センター(小ホール)
105	岡田昭憲	Akinori Okada	1979	愛知	長者町会場(中愛ビル)
106	奥山順市	Jun'ichi Okuyama	1947	東京	愛知芸術文化センター(小ホール)
107	ニコラス・プロヴオスト	Nicolas Provost	1969	ブリュッセル(ベルギー)	愛知芸術文化センター(小ホール)
108	ベン・ラッセル	Ben Russell	1976	シカゴ	愛知芸術文化センター(小ホール)
109	アレクサンドル・ソクーロフ	Alexander N. Sokurov	1951	サンクトペテルブルグ(ロシア)	愛知芸術文化センター(小ホール)
110	ストロブ=ユイレ	Jean-Marie Straub	1933	バリ、トスカナ(イタリア)	愛知芸術文化センター(小ホール)
		Daniel Huillet	1936/2006 没		
111	辻直之	Naoyuki Tsuji	1972	神奈川	愛知芸術文化センター(小ホール)
112	アピチャッポン・ウィーラセタクン	Apichatpong Weerasethakul	1970	チェンマイ(タイ)	愛知芸術文化センター(小ホール)

企画コンペ入選キュレーター・アーティスト					
	キュレーター・アーティスト名		生年	在住都市	展示会場
113	ブライアン・アルフレッド	Brian Alfred	1974	ニューヨーク	愛知芸術文化センター(アトススペースG)
114	ロレン・ベルコヴィッツ	Lauren Berkowitz	1965	メルボルン	愛知芸術文化センター(アトススペースH)
115	長者町デキタテ工房	Choja-machi DEKITATE kobo	鄭萬英(ジョン・マンヨン) 1970	釜山	長者町会場(伏見地下街)
			李旻河(イ・ミンハ) 1979	千葉	
			文谷有佳里 1985	愛知	
116	江幡京子	Kyoko Ebata	1973	東京	愛知芸術文化センター(アトススペースH)
117	上西エリカ	Erica Kaminishi	1979	東京	長者町会場(長者町繊維卸会館)
118	北川貴好	Takayoshi Kitagawa	1974	東京	長者町会場(長者町繊維卸会館)
119	小島千雪	ChiYuki Kojima	1971	東京	長者町会場(長者町繊維卸会館)
120	宮川ひかる	Hikaru Miyakawa	1976	東京	愛知芸術文化センター(アトススペースH)
121	水田紗弥子	Sayako Mizuta	1981	東京	愛知芸術文化センター(アトススペースG)
122	小野友美	Tomomi Ono	1985	愛知	長者町会場(その他長者町地区内)
123	大西治・大西雅子	Osamu Onishi, Masako Onishi	大西治 1962	京都	長者町会場(ART ISAN ビルほか)
			大西雅子 1960		
124	大山エンリコイサム	Oyama Enrico Isamu Letter	1983	東京	長者町会場(ART ISAN ビル)
125	櫻井裕子	Hiroko Sakurai	1984	愛知	長者町会場(ART ISAN ビル)
126	佐藤健博	Takehiro Satow	1978	京都	長者町会場(長者町繊維卸会館ほか)
127	リサ・マレイ・シュミット	Lisa Marei Schmidt	1978	エッセン(ドイツ)	愛知芸術文化センター(アトススペースG)
128	孫遜(スン・シュン)	Sun Xun	1980	北京	愛知芸術文化センター(アトススペースX)
129	タムラサトル	Satoru Tamura	1972	栃木	長者町会場(伏見地下街)
130	陳維輝(タン・ズイチン)	Tan JuiChen	1976	京都	愛知芸術文化センター(アトススペースX)
131	田中由紀子	Yukiko Tanaka	1966	愛知	愛知芸術文化センター(アトススペースX)
132	戸井田雄	Yu Toida	1983	神奈川	長者町会場(伏見地下街ほか)
133	トロロスタジオ+栗本設計所／谷川寛+栗本真巻	Tololo Studio + Kurimoto Design Studio / Hiroshi Tanigawa + Shinichi Kurimoto	谷川寛 1974	愛知	長者町会場(その他長者町地区内)
			栗本真巻 1976		

IV-(3) 主な特徴

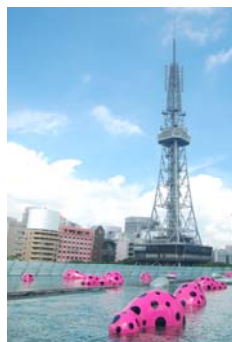
① 祝祭性

■愛知・名古屋のシンボリックな都市空間で、スペクタクルな作品を展開

○オアシス21（草間彌生 《命の足跡》 《求道の輝く宇宙》）

愛知・名古屋の中心・栄地区の都市公園「オアシス21」の屋上にある「水の宇宙船」に、マゼンタ地に黒色の水玉模様の浮島15個を浮かべた《命の足跡(あしあと)》と、大中小3種類のカーブミラー120個を水底に沈めた《求道(きゅうどう)の輝く宇宙》の2つの作品を展示。

風によって漂う浮島、テレビ塔など街の風景や雲などを映し込むカーブミラーが普段とは異なる空間を演出した。昼と夜とでその表情が変わり、時間変化も感じさせる大規模な作品。



左：愛知芸術文化センターとオアシス 21 撮影：怡土鉄夫
中：草間彌生《命の足跡》(2010)と名古屋テレビ塔、オアシス 21(昼)
右：草間彌生《命の足跡》(2010)と名古屋テレビ塔、オアシス 21(夜)

○名古屋城（池田亮司 《spectra[nagoya]》）

成層圏まで到達する64台のサーチライトによる強烈な白色光と、10台のスピーカーから出力される正弦波とを組み合わせたサイトスペシフィック※・インスタレーション《spectra[nagoya]》を、名古屋城二の丸広場にて9月24日(金)、25日(土)の2日間 オールナイトで実施。(※特定の場所に帰属する性質を示すこと。)

この「spectra」シリーズは、2008年にアムステルダムとパリで、2010年6月にスペインのバルセロナで行われ、日本では、あいちトリエンナーレ2010が初公開。

都会の中心に突如出現したこの巨大な光のタワーは、都市のいたるところから視認でき、天候や雲の動きによって常に変化し続けた。その姿は90km以上離れた長野県王滝村からも確認できた。



左：池田亮司《spectra[nagoya]》と名古屋城
右：池田亮司《spectra[nagoya]》の会場の様子

■街や地域に溶け込んだ展示やパフォーマンス

○約30組のアーティストが長者町会場などのまちなかで作品を展示。店先、日よけなど様々な場所で色のグラデーションを見せるルシア・コッホによる作品や、店舗の底をスクリーンにした志村信裕による作品など、街の歴史や風景を取り込んだ展示を実施。

○例年11月に開催される長者町の「ゑびす祭り」が、2010年はあいちトリエンナーレの会期に合わせて10月23日(土)、24日(日)に開催された。祭ではKOSUGE1-16が制作した山車の練り歩きなどを行い、訪れた多くの人々は現代美術の展示やパフォーマンスを楽しむことができた。



左：ルシア・コッホ 《Wave》(2010)



右：長者町ゑびす祭りで曳かれる KOSUGE1-16 の《長者町山車プロジェクト：かたい山車》(2010)、長者町通 撮影：石田亮介

② 先端性

○現代美術の国際展には75組のアーティストが参加し、その作品の多くは世界初または日本初紹介。世界最先端の現代美術作品を鑑賞することで、新鮮で非日常的な感覚を来場者は体験することができた。

○パフォーミング・アーツにおいては、平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)によるロボットと俳優が共演する科学とコラボレーションした舞台を始め、既存ジャンルの枠に収まらない21組のアーティストによる世界初演、日本初演となる最先端の公演を実施。



左上・左下：松井紫朗 《チャンネル》(2010) 撮影：怡土鉄夫
右上：平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》(2010)
撮影：南部辰雄

③ 複合性

○現代美術(ヴィジュアル・アーツ)を中心にパフォーミング・アーツやオペラなども行い、ジャンルを横断した展開を実施。

○ジャンルを超えた出会いの場を創出するパフォーマンスやインスタレーションを展開。特に愛知芸術

文化センター8階のギャラリーGでは、ラ・リボットによる言葉の断片をコラージュする《Laughing Hole》やスティーヴン・コーヘンによるアイデンティティに潜む疑問をテーマとした《Chandelier》など、パフォーミング・アーツとヴィジュアル・アーツとが複合化した境界領域に位置する実験的表現を紹介。



左：ラ・リボット《Laughing Hole》 撮影：福永一夫
右：スティーヴン・コーヘン《Chandelier》



④ 国際性

- 24の国と地域から131組のアーティストが参加し、国際色豊かな日本最大級のトリエンナーレとなった。
- アジアの主要な国際展が幅広く連携したシンポジウムを開催し、それぞれの国際展のミッションと活動状況、主な成果等についての意見交換を実施。

⑤ 普及・教育

- 国内のトリエンナーレでは、初めての試みとなるキッズトリエンナーレを開催した。
- メイン会場の一つである愛知芸術文化センター8階に、子どもの創作意欲をかき立てるため、大きなダンボールタワーなどにより非日常感を演出した創作の場「デンスタジオ」を設置した。

※企画内容等の詳細は、「IV-(1) 企画内容 ③普及・教育」(24ページ)に掲載



左：愛知芸術文化センター8階「デンスタジオ」入口
右：「デンスタジオ」室内



IV-(4) 会期中のイベント・プログラム

8 月

日	時間	イベント名	入場方法	場所	人数
20 日 (金)	10:00-20:00	記者内覧	報道関係者限定	全会場	276
	11:00-19:00	西野達《豆腐の仏陀と、醤油の後光 一極楽浄土》	無料	長者町	—
	13:00、14:30、 16:00、17:30	西京人《第二章 ここは西京ノ旅路は彼方の世界へ(あいちヴァージョン)》	無料	芸文	—
	13:30-14:30	記者会見(監督・キュレーター・作家等)	報道関係者限定	芸文	70
	13:30-20:00	一般内覧会	招待者限定	全会場	2,000
	16:00-17:15	ロボット演劇招待公演 平田オリザ + 石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》	招待者限定	芸文	260
	18:00-20:00	オープニング・レセプション	招待者限定	芸文	1,300
	19:00-22:00	西野達《ころがる愛知》	無料	長者町	—
	21:00-23:00	アフター・パーティー(監督・キュレーター・作家等)	関係者限定	長者町	—
21 日 (土)	10:00-(芸文) 11:00-(長者町)	現代美術展企画コンペ A 日程展示開始(8/21~9/12)	要美術展 チケット	芸文、 長者町	—
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京ノ旅路は彼方の世界へ(あいちヴァージョン)》	無料	芸文	210
	11:00-17:00	渡辺英司《名称の庭-御園小学校》	要美術展 チケット	長者町	—
	11:00-19:00	村田峰紀 パフォーマンス	要美術展 チケット	長者町	—
	(公開中止)	西野達《豆腐の仏陀と、醤油の後光 一極楽浄土》	無料	長者町	—
	12:00-18:00	ラ・リボット《Laughing Hole》	要美術展 チケット	芸文	1,633
	13:00-15:30	オープニングシンポジウム I 《国際展のミッション-東アジアからの展望》	無料	芸文	120
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム《ダイナミックお絵描き》	無料	芸文	21
	14:00-15:15 19:00-20:15	平田オリザ + 石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》	有料	芸文	490
	18:00-21:00	ナウイン・ラワンチャイクン《長者町あびすパーティーwith ナウイン》	無料	長者町	350
	19:00-19:45	JUZU a.k.a. MOOCHY (NYS/CROSSPOINT) ライヴ	無料	芸文	—
	19:00-22:00	西野達《ころがる愛知》	無料	長者町	—
	19:00-21:00	マーク・ボスウィック ライヴ	無料	長者町	150
	19:00-21:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《素材のぼうけん1 シンブン・マウンテン》	無料	芸文	19
22 日 (日)	11:00-19:00	村田峰紀 パフォーマンス	無料	長者町	—
	13:30-15:30	オープニングシンポジウム II 《クロストーク - 国際展の現場》	無料	芸文	110
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《つなげてならべて凸凹ロード》	無料	芸文	17
	14:00-15:15	平田オリザ + 石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》	有料	芸文	260
	16:00-18:45	オープニングシンポジウム III 《劇場における国際芸術祭の可能性》	無料	芸文	135
	19:00-21:00	ジム・オヴェルメン ライヴ・パフォーマンス	無料	広小路	120
	19:00-22:00	西野達《ころがる愛知》	無料	長者町	—
	19:00-21:00	カーメン・スタヤノフ 「芸術的ムサカ・パーティー」	無料	長者町	90
23 日 (月)	19:00-20:15	平田オリザ + 石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》	有料	芸文	260
24 日 (火)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	17
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《ガーデン・カーデン まちなかの小さな緑》	無料	芸文	14
	14:00-15:15 19:00-20:15	平田オリザ + 石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版《森の奥》	有料	芸文	482
25 日 (水)	10:00-12:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《素材のぼうけん2 さわる・きる・だきしめる》	無料	芸文	19
	13:00-17:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《リズムと言葉・ラップで遊ぼう》	無料	芸文	※1
	19:30-20:30	トリエンナーレスクール No. 4 (ジム・オヴェルメン出演)	無料	長者町	—
26 日 (木)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	15
	10:00-17:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《リズムと言葉・ラップで遊ぼう》	無料	芸文	※1
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《くるくるまきまき繭玉をつくろう》	無料	芸文	18

27 日 (金)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	15
	10:00-17:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《リズムと言葉・ラップで遊ぼう》	無料	芸文	24※1
	19:00-21:00	木村崇人《木もれ陽プロジェクト『星の回廊』》	無料	名城公園	376
28 日 (土)	10:00-12:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《素材のぼうけん3 カケラ・ラ・ツナグ》	無料	芸文	17
	11:30-、15:30-	野村誠パフォーマンス《プールの音楽会》	無料	富士中学校	240
	14:00-14:30 18:00-18:30	ラ・リボット《PARAichi-Distinguida》	有料	芸文	109
	19:00-21:00	木村崇人《木もれ陽プロジェクト『星の回廊』》	無料	名城公園	489
29 日 (日)	10:00-10:45、 11:15-12:00	キッズトリエンナーレ・イベント 《マーガレット一家 たっちゃん紙芝居》	無料	芸文	217
	10:00-16:30	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《グルグルワークショップ》	無料	芸文	14
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《いぶし瓦で打楽器づくり》	無料	芸文	22
	14:00-14:30 18:00-18:30	ラ・リボット《PARAichi-Distinguida》	有料	芸文	88
	14:00-16:00	名古屋市美術館協会共催事業 島袋道浩《自作を語る》	無料	市美	95
	17:00-17:30	村田峰紀 パフォーマンス	無料	長者町	—
	18:00-20:00	二村利之+海上宏美+建昌哲《1960 年以降のアンダーグラウンド・パフォーミングアーツについて ～セツ寺共同スタジオの活動を通じて～》	無料	長者町	30
	19:00-21:00	木村崇人《木もれ陽プロジェクト『星の回廊』》	無料	名城公園	591

9 月

日	時間	イベント名	入場方法	場所	人数
3 日 (金)	19:00-19:50	デルガド・フッシュ 《桃色のズボンと赤いヌバックの先の尖ったハイヒールをはいて、襟ぐりが緩んだセーターの上に着た空色のウールのロングコート》	有料	芸文	194
4 日 (土)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	11
	14:00-14:50 19:30-20:20	デルガド・フッシュ 《桃色のズボンと赤いヌバックの先の尖ったハイヒールをはいて、襟ぐりが緩んだセーターの上に着た空色のウールのロングコート》	有料	芸文	388
	16:00-20:00	ソニア・クーラナ 《Lying-down-on-the-ground:additional notes》	要美術展 チケット	芸文	466
	16:00-17:30	まことクラヴ《長者町繊維街の日常》	無料	芸文、長 者町等	660
	18:00-18:45	ボリス・シャルマツツ《Quintette Cercle》	無料	名城公園	250
	19:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	長者町	—
5 日 (日)	10:00-18:00	アートホコテン 2010～長者町の祝祭～	無料	長者町	—
	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	13
	14:00-14:45	ボリス・シャルマツツ《Quintette Cercle》	無料	名城公園	210
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・ワークショッププログラム 《感じたままにクレイワーク》	無料	芸文	11
	15:00-15:30	村田峰紀 屋外パフォーマンス《背中で語る》	無料	長者町	250
	15:30-17:00	KOSUGE1-16 《長者町山車プロジェクト『かたい山車』の試走とお披露目》	無料	長者町	
	16:00-17:30	まことクラヴ《長者町繊維街の日常》	無料	芸文、長 者町	763
	18:00-20:00	ボーダレスカフェ／アーティスト編 (出演者：まことクラヴ、デル ガド・フッシュ、ボリス・シャルマツツほか)	無料	長者町	130
10 日 (金)	12:00-19:00	三田村光土里展《青い誘惑》 19:00～20:00 オープニングトーク	無料	七ツ寺	92
11 日 (土)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	11
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	400
	12:00-19:00	三田村光土里展《青い誘惑》	無料	七ツ寺	89
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《フィジカル・ドローイング》	無料	芸文	※2
	19:00-20:15	梅田宏明《Adapting for Distortion/Haptic》	有料	芸文	264

12 日 (日)	12:00-19:00	三田村光土里展《青い誘惑》	無料	七ツ寺	163
	13:00-15:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《ふしぎのくにへ、ようこそ1 そらはふしぎ》	無料	芸文	14
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《フィジカル・ドローイング》	無料	芸文	34※2
	14:00-15:15	梅田宏明《Adapting for Distortion/Haptic》	有料	芸文	264
	17:00-19:00	ボーダレスカフェ 出演者：梅田宏明、乗越たかお（作家・舞踊評論家）	無料	長者町	88
15 日 (水)	13:00-17:00	米山和子展《こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ》 （公開制作）	無料	七ツ寺	30
	10:00-（芸文） 11:00-（長者町）	現代美術展企画コンペ B 日程展示開始（9/15~10/3）	要美術展 チケット	芸文、 長者町	—
16 日 (木)	12:00-16:00	ヤン・ファール公演関連企画 《カンパニーメンバーによる身体表現ワークショップ》	有料	芸文	16
	13:00-17:00	米山和子展《こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ》 （公開制作）	無料	七ツ寺	44
	17:00-20:30	あいちトリエンナーレ 2010 プロデュースオペラ《ホフマン物語》 中・高校生のためのゲネプロ公開	無料	芸文	93
17 日 (金)	11:00-19:00	米山和子展《こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ》 19:00~20:00 オープニングトーク	無料	七ツ寺	173
	18:30-20:30	シリーズ・トーク オペラ《ホフマン物語》 第3回 （第1回 6/16 19:00~20:30、第2回 7/15 19:00~20:30）	有料	芸文	494※3
18 日 (土)	11:00-19:00	米山和子展《こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ》	無料	七ツ寺	235
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ（あいちヴァー ジョン）》	無料	芸文	283
	12:00-18:00	フォースド・エンターテイメント《Quizoola!》	有料	芸文	109
	14:00-17:15	あいちトリエンナーレ 2010 プロデュースオペラ 《ホフマン物語》	有料	芸文	2,164
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・ワークショッププログラム 《禁断の惑星これもアートか？：現代美術入門》	無料	芸文	21
	16:00-16:30	コンタクト・ゴンゾ《non titled》	無料	芸文	132
	19:00-20:00	ヤン・ファール《Another Sleepy Dusty Delta Day へまたもけ だるい灰色のデルタデー》	有料	芸文	220
19 日 (日)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	19
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ（あいちヴァー ジョン）》	無料	芸文	513
	11:00-19:00	米山和子展《こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ》	無料	七ツ寺	283
	14:00-15:30	ワクワク、オペラ体験—オペラ《ホフマン物語》	無料	芸文	189
	14:00-15:00	ヤン・ファール《Another Sleepy Dusty Delta Day へまたもけ だるい灰色のデルタデー》	有料	芸文	234
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《キラキラ☆モンスター》	無料	芸文	18
	17:00-17:30	コンタクト・ゴンゾ《non titled》	無料	芸文	183
	18:30-20:00	ボーダレスカフェ/アーティスト編 出演者：コンタクト・ゴンゾ、ヤン・ファールカンパニーメンバ ー、ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァほか	無料	長者町	108
20 日 (月・祝)	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ（あいちヴァー ジョン）》	無料	芸文	509
	14:00-17:15	あいちトリエンナーレ 2010 プロデュースオペラ 《ホフマン物語》	有料	芸文	2,179
	14:00-15:00	ヤン・ファール《Another Sleepy Dusty Delta Day へまたもけ だるい灰色のデルタデー》	有料	芸文	234
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《現代を生きるわたしの継色紙》	無料	芸文	11
	17:30-18:00	コンタクト・ゴンゾ《non titled》	無料	芸文	156
22 日 (水)	13:00-18:00	ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ 《Over the Table》	要美術展 チケット	芸文	654
23 日 (木・祝)	10:00-10:45 11:15-12:00	キッズトリエンナーレ・イベントプログラム 《マーガレット一家 たっちゃん紙芝居》	無料	芸文	312
	13:00-18:00	ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ 《Over the Table》	要美術展 チケット	芸文	2,379
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《マイ・文字・オブジェ》	無料	芸文	16
	18:00-19:30	トリエンナーレスクール No.5 （トーチカ出演）	無料	長者町	140

24 日 (金)	11:00-19:00	栗本百合子展《the lighting》 オープニングトークあり	無料	七ツ寺	102
	13:00-18:00	ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ 《Over the Table》	要美術展 チケット	芸文	1,122
	19:00-21:00	チェルフィッチュ《わたしたちは無傷な別人である》	有料	芸文	204
	オールナイト	池田亮司《spectra[nagoya]》 (開場時間 17:30~23:30)	要美術展 チケット	名古屋城	7,512
25 日 (土)	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京ノ旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	612
	11:00-19:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	158
	11:00-16:00	ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ 《Over the Table》	要美術展 チケット	芸文	2,074
	14:00-16:00 19:00-21:00	チェルフィッチュ《わたしたちは無傷な別人である》	有料	芸文	408
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《木炭デッサンでグレーの世界を体験しよう豊かな中間は美術の基本》	無料	芸文	※4
	14:00-16:30	グラン・ドリーム・パレエ・フェス	有料	芸文	1,548
	17:00-17:30	アントニア・ペアー《Over The Shoulder》	有料	芸文	76
	オールナイト	池田亮司《spectra[nagoya]》 (開場時間 17:30~23:30)	要美術展 チケット	名古屋城	18,241
26 日 (日)	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京ノ旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	543
	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	27
	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	156
	11:00-16:00	ティム・エッチェルス&ヴラトゥカ・ホルヴァ 《Over the Table》	要美術展 チケット	芸文	2,313
	14:00-16:00	チェルフィッチュ《わたしたちは無傷な別人である》	有料	芸文	204
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《布のしゃぼん玉をとばそう》	無料	芸文	17
	16:00-19:30	グラン・ドリーム・パレエ・フェス	有料	芸文	2,130
	17:00-17:30	アントニア・ペアー《Over The Shoulder》	有料	芸文	56
27 日 (月)	18:30-20:00	トリエンナーレスクール No.6 ゲスト：岡田利規(チェルフィッチュ主宰)	無料	長者町	40
	10:30-17:37	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 ストローブ=ユイレ、牧野貴	要美術展 チケット	芸文	169
28 日 (火)	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	43
	10:30-17:31	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 アリアヌ・ミシェル、石田尚志、ニコラス・プロヴォスト	要美術展 チケット	芸文	154
29 日 (水)	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	115
	19:30-20:20	栗本百合子展+演劇《4 時 48 分サイコシスノ渴望》	有料	七ツ寺	
30 日 (木)	10:30-19:30	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 石田尚志、金東薫、牧野貴、ベン・ラッセル	要美術展 チケット	芸文	191
	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	117
	19:30-20:20	栗本百合子展+演劇《4 時 48 分サイコシスノ渴望》	有料	七ツ寺	
	20:30-21:40	平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学&ATR 知能ロボティクス研究 所) アンドロイド演劇「さようなら」	有料	芸文	245

10 月

日	時間	イベント名	入場方法	場所	人数
1 日 (金)	10:30-19:37	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 辻直之、奥山順市、ベン・ラッセル	要美術展 チケット	芸文	161
	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	165
	19:30-20:20	栗本百合子展+演劇《4 時 48 分サイコシスノ渴望》	有料	七ツ寺	
	19:00-19:50	アントニア・ペアー《Laugh》	有料	芸文	49
2 日 (土)	10:00、11:30、 13:00、14:30	キッズトリエンナーレ・イベントプログラム 《消しゴム版画でオリジナル・エコバッグを作ろう》	無料	芸文	64
	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	23
	10:30-19:52	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 アレクサンドル・ソクーロフ、アリアヌ・ミシェル	要美術展 チケット	芸文	313
	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	194
	19:30-20:20	栗本百合子展+演劇《4 時 48 分サイコシスノ渴望》	有料	七ツ寺	
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《木炭デッサンでグレーの世界を体験しよう豊かな中間は美術の基本》	無料	芸文	15※4
	14:00-18:00	オリヴァー・ヘリング《TASK パーティール》	無料	長者町	102
	19:00-19:50	アントニア・ペアー《Laugh》	有料	芸文	66

3 日 (日)	10:00、11:30、 13:00、14:30	キッズトリエンナーレ・イベントプログラム 《消しゴム版画でオリジナル・エコバッグを作ろう》	無料	芸文	66
	10:00-12:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《ふしぎのくにへ、ようこそ2 ふしぎなどうぶつえん》	無料	芸文	21
	10:30-17:09	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 ジョナス・メカス	要美術展 チケット	芸文	214
	11:00-18:00	栗本百合子展《the lighting》	無料	七ツ寺	236
	19:30-20:20	栗本百合子展+演劇《4時48分サイコシス/渴望》	無料	七ツ寺	
	14:00-16:30	オー・インファン アーティストトーク《自作について語る》	無料	市美	105
	15:00-16:45	平山素子《Carp with wings, me》	有料	長者町	123
5 日 (火)	10:30-17:47	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 ニコラス・プロヴォスト、ベン・ラッセル、辻直之	要美術展 チケット	芸文	134
6 日 (水)	10:30-18:00	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 アリアヌ・ミシェル、辻直之、金東薫、牧野貴 牧野貴トーク	要美術展 チケット	芸文	297
	10:00-(芸文) 11:00-(長者町)	現代美術展企画コンペ C日程展示開始(10/6~10/31)	要美術展 チケット	芸文、 長者町	—
7 日 (木)	10:30-20:00	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 アレクサンドル・ソクーロフ、石田尚志 石田尚志トーク	要美術展 チケット	芸文	298
8 日 (金)	10:30-19:37	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 ジョナス・メカス、アリアヌ・ミシェル	要美術展 チケット	芸文	206
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	214
	18:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	名古屋大学	—
9 日 (土)	10:30-19:43	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 ストローブ=ユイレ、アビチャップン・ウィーラセタクン、金東薫	要美術展 チケット	芸文	472
	13:00-14:30	トリエンナーレスクール No.7 ゲスト:渡辺英司	無料	長者町	85
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《音のワークショップ 科学×音楽=アート!》	無料	芸文	25
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	282
	17:30-19:00	梅田哲也パフォーマンス	無料	長者町	150
	18:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	名古屋大学	—
10 日 (日)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	20
	10:30-17:50	映像プログラム《映像の第二世紀に向けて》 アビチャップン・ウィーラセタクン、ストローブ=ユイレ	要美術展 チケット	芸文	519
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《ヒラヒラ開く染めの世界》	無料	芸文	18
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	601
11 日 (月・ 祝)	10:00-10:45 11:15-12:00	キッズトリエンナーレ・イベントプログラム 《マーガレット一家 たっちゃんの紙芝居》	無料	芸文	489
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《わっしょい!ぼくらの鯛みこし》	無料	芸文	25
	14:00-16:00	狂言共同社《Macbeth(マクベス)》	有料	芸文	809
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	608
	14:30-21:00	森祥子《森祥子ピアノコンサート ゲスト:新澤隆志氏(左手のピアニスト)》	無料	芸文	400
	17:30-19:40	大治太鼓《大祭 2010》	有料	芸文	1,656
12 日 (火)	18:30-21:00	吉田文 名古屋オルガンの秋 《パイプオルガンと2本のトランペットの華麗なる祭典~ブラヴィッシモ Bravissimo! アイチッシモ Aichissimo!!~》	有料	芸文	896
13 日 (水)	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	351
	18:30-21:00	川口節子バレエ団 《BALLET SELECTIONS 2010》	有料	芸文	1,260
	18:30-20:30	afterimage《F・J・J・S》	有料	芸文	50
	19:00-20:30	グループクリエイティブ K 倉知可英&児玉たまみ 《光の記憶~HIKARI》	有料	芸文	2,244 ※5
14 日 (木)	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	309
	15:00-17:00	蒲郡市シニア吹奏楽団 《Powerful Senior フェスティバルコンサート》	無料	芸文	1,234
	19:00-20:45	社団法人現代舞踊協会中部支部 《躍動の祭典 コンテンポラリーダンス 2010》	有料	芸文	1,628

15 日 (金)	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	471
	18:00-19:30	ままと《あゆみ》	有料	芸文	232
	18:30-21:00	コール・フロイデ《矢野としゑ指揮による合唱音楽と美術の共演》	有料	芸文	1,266
16 日 (土)	13:00-15:00	地域における芸術祭-アートのある日常- (柴幸男×平松隆之×唐津絵理)	有料	長者町	-
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《大きな人の絵》	無料	芸文	※6
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	657
	15:00-18:00	日本舞踊名花撰制作実行委員会《日本舞踊名花撰》	有料	芸文	1,307
	18:00-20:30	ナゴヤディレクターズバンド《あいちトリエンナーレ特別演奏会 〜吹く、奏でる、楽しむ そして 歌い踊る〜》	有料	芸文	920
	18:30-20:30	Art and the cities -アート、オルタナティブな視座- (雨森信×杉田敦×MUZZ×毛利嘉考×山本高之)	無料	長者町	-
	19:00-20:30	彩・祀・祭 制作実行委員会《彩・祀・祭〜SAI〜》	有料	芸文	240
	19:00-20:00	オープンリアルアンサンブル ライブ	無料	長者町	530
17 日 (日)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《いっしょに見よう! 楽しもう! 感じよう! 1》	無料	芸文	54
	13:00-14:30 17:00-18:30	彩・祀・祭 制作実行委員会《彩・祀・祭〜SAI〜》	有料	芸文	442
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム《大きな人の絵》	無料	芸文	44※6
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《ビリ・クシャ アートなぼうし》	無料	芸文	13
	14:00-20:00	高嶺格《いかに考えないか?》	要美術展 チケット	七ツ寺	755
	15:00-16:00	オープンリアルアンサンブル ライブ	無料	長者町	874
	17:30-20:00	名古屋三曲連盟 《和・洋・楽・驚・響 〜和洋協演の響き〜》	有料	芸文	1,608
	18:00-20:10	パブロフ・ニジンスキー記念 越智インターナショナルバレエ 《「ジゼル」全幕》	有料	芸文	1,775
18 日 (月)	10:00-18:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
19 日 (火)	10:00-18:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
20 日 (水)	10:00-18:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
21 日 (木)	10:00-20:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
	19:30-21:40	演劇《りすん》(演出=天野天街/原作=諏訪哲史)	有料	七ツ寺	128
22 日 (金)	10:00-20:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
	19:00-20:15	ニブロール《THIS IS WEATHER NEWS》	有料	芸文	146
	19:30-21:40	演劇《りすん》(演出=天野天街/原作=諏訪哲史)	有料	七ツ寺	108
23 日 (土)	10:00-20:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《いっしょに見よう! 楽しもう! 感じよう! 2》	無料	芸文	14
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京/旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	389
	13:30-16:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《高校生とトリエンナーレでみてしるトーク》	無料	芸文	96
	14:00-15:15 19:00-20:15	ニブロール《THIS IS WEATHER NEWS》	有料	芸文	310
	14:00-16:10 19:30-21:40	演劇《りすん》(演出=天野天街/原作=諏訪哲史)	有料	七ツ寺	241
	17:00-17:45	スティーヴン・コーヘン《Chandelier》	有料	芸文	126
	10:00-17:00	長者町ゑびす祭り (以下、ゑびす祭り関連のあいちトリエンナーレ 2010 イベント)	無料	長者町	-
	11:00-12:00	KOSUGE1-16《かたい山車》試走	無料	長者町	-
	12:00-14:00	ナタリヤ・リボヴィッチ&藤田央《紙芝居&ワークショップ》	無料	長者町	-
	13:00-16:00	トーチカ《PiKAPiKA 体験ワークショップ》	無料	長者町	-
	14:30-15:00	村田峰紀 パフォーマンス	無料	長者町	-
	15:00-17:00	KOSUGE1-16《かたい山車》練り歩き	無料	長者町	-
	19:30-20:30	聞き耳(浅井裕介+斉藤祐平) ライブペインティング	無料	長者町	300
	18:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	長者町	-

24 日 (日)	10:00-18:00	スティーヴン・コーヘン《The Wandering Jew》-彷徨えるユダヤ人 杉原千畝の崇高なる記憶に捧ぐ-	要美術展 チケット	芸文	-
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	310
	10:00-12:00	キッズトリエンナーレ・アーティストプログラム 《ふしぎのくにへ、ようこそ3 とんねるのむこうは?》	無料	芸文	20
	13:30-15:00	ナタリア・リボヴィッチ&藤田央 《2 万人からのメッセージ・Everyone is An EARTHIST》	無料	市美	-
	14:00-15:15	ニブロール《THIS IS WEATHER NEWS》	有料	芸文	155
	14:00-16:10	演劇《りすん》(演出=天野天街／原作=諏訪哲史)	有料	七ツ寺	143
	16:00-16:45	あいちトリエンナーレ 2010 芸術監督 建畠哲によるギャラリートーク	要美術展 チケット	芸文	-
	17:00-17:45	スティーヴン・コーヘン《Chandelier》	有料	芸文	138
	10:00-16:00	長者町ゑびす祭り (以下、ゑびす祭り関連のあいちトリエンナーレ 2010 イベント)	無料	長者町	-
	10:30-12:30	KOSUGE1-16《かたい山車》練り歩き	無料	長者町	-
	13:00-16:00	トーチカ《PiKaPiKa 体験ワークショップ》	無料	長者町	-
	15:00-15:30	村田峰紀 パフォーマンス	無料	長者町	-
	18:00-21:50	石田達郎 a.k.a. ジェット達 プロデュース・イベント 《心と体のゴーサイン／BODY, MIND, GO AHEAD》	無料	長者町	191
	18:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	長者町	-
25 日 (月)	19:30-21:40	演劇《りすん》(演出=天野天街／原作=諏訪哲史)	有料	七ツ寺	144
26 日 (火)	19:00-20:40	ローザス《ローザス・ダンス・ローザス》	有料	芸文	192
27 日 (水)	18:30-20:10	ローザス《ローザス・ダンス・ローザス》	有料	芸文	192
	19:00-20:30	トリエンナーレスクール No.8 ゲスト: ナタリア・リボヴィッチ&藤田央	無料	長者町	60
28 日 (木)	19:00-20:40	ローザス《ローザス・ダンス・ローザス》	有料	芸文	192
29 日 (金)	18:00-19:45	ファイナルシンポジウム 「みんなで話そうあいちトリエンナーレ!」	無料	市美	60
	19:30-21:00	テニスコーツ+梅田哲也 in 名古屋	有料	長者町	110
	19:20-19:30	SKE48 トークイベント	無料	芸文	125
30 日 (土)	12:00-15:00	ローザス ダンスワークショップ 《ローザス・ダンス・ローザスを踊る》	有料	芸文	20
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・追加プログラム 《ふしぎアンテナ》	無料	芸文	17
	17:00-18:30	アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサ ンブル・イクトウス 《3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)》	有料	芸文	799
	(公開中止)	西野達《転がる愛知》	無料	長者町	-
	19:00-20:00	山川冬樹《Pneumonia》	有料	芸文	137
31 日 (日)	10:30-12:00	キッズトリエンナーレ・鑑賞プログラム 《子どもツアーみてる隊》	無料	芸文	24
	11:00、13:00、 15:00、17:00	西京人《第二章 ここは西京／旅路は彼方の世界へ(あいちヴァー ジョン)》	無料	芸文	594
	14:00-16:00	キッズトリエンナーレ・あいちワークショッププログラム 《ナンデモ絵筆で描こう》	無料	芸文	18
	14:00-15:30	アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサ ンブル・イクトウス 《3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)》	有料	芸文	815
	16:00-17:00	山川冬樹《Pneumonia》	有料	芸文	150
	18:00-22:00	西野達《転がる愛知》	無料	長者町	-

※1: 3 日間の講座参加者の延べ人数

※2: 2 日間の講座参加者の延べ人数

※3: 第 1 回から第 3 回の延べ人数は 1,115 人

※4: 2 日間の講座参加者の延べ人数

※5: 公開ゲネプロを含む人数

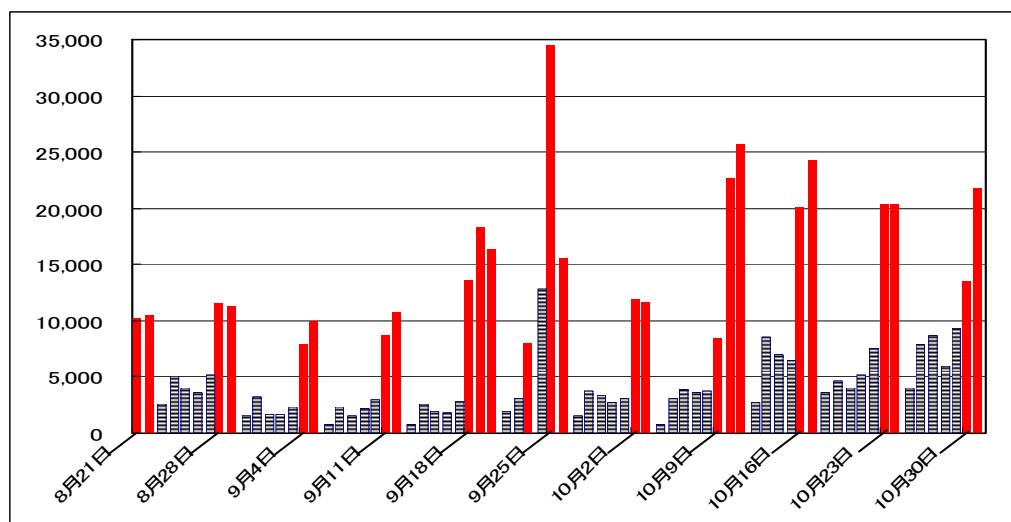
※6: 2 日連続の講座参加者の延べ人数

IV-(5) 来場者の状況

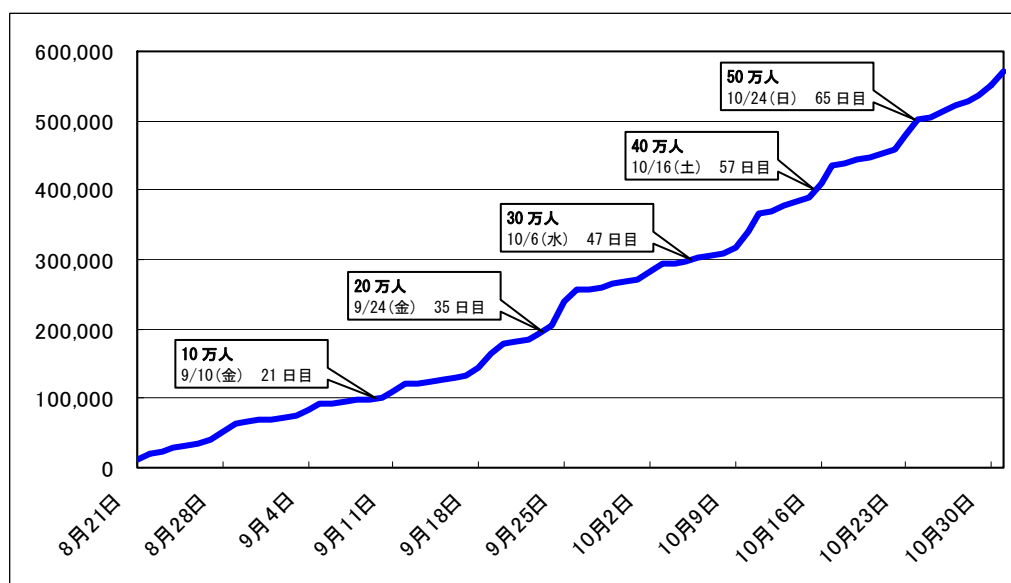
■来場者数

- ・最終的な来場者数は、当初想定した 30 万人の 2 倍近い 572,023 人となった。
- ・1 日当たりの平均来場者数は約 8 千人で、会期末に向かって増加した。会期後半の 10 月の土日には 2 万人を超える日も多くあった。会期中で来場者が最も多かったのは spectra[nagoya]を開催した 9 月 25 日(土)で、34,511 人の来場があった。
- ・プログラム別では、国際美術展の来場者が 497,053 人と最も多く、全体の約 87%を占めた。
- ・国際美術展の来場者数(497,053 人)を会場別で比較すると、展示作品数が多く、アクセスも良い愛知芸術文化センターが全体の 29.7%(147,821 人)と最も多くなっている。
- ・来場者の内訳をカウントした国際美術展の主要 4 会場(愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場)では、中学生以下の来場者の割合が 14.3%と非常に高かった。

○開催日別来場者数



○来場者数の推移



○プログラム別の来場者数

プログラム	来場者数	割合	内 訳
国際美術展	497,053 人	86.9%	愛知芸術文化センター147,821 人 名古屋市美術館 74,033 人 長者町会場 85,709 人 納屋橋会場 34,384 人 名古屋城・名城公園 27,209 人 オアシス 21 95,429 人 中央広小路ビル 28,220 人 七ツ寺共同スタジオ 4,248 人
キッズトリエンナーレ	22,328 人	3.9%	
パフォーミング・アーツ	17,038 人	3.0%	ホール 11,813 人、その他 5,225 人
映像プログラム	3,128 人	0.5%	
その他	2,329 人	0.4%	シンポジウム、美術展作家講演会・パフォーマンス等
共催事業	30,147 人	5.3%	祝祭ウィーク 17,967 人、西京人 4,363 人等
合計	572,023 人	100%	

○国際美術展の会場別来場者数とその割合

会 場	来場者数	割合
愛知芸術文化センター	147,821 人	29.7%
名古屋市美術館	74,033 人	14.9%
長者町会場	85,709 人	17.2%
納屋橋会場	34,384 人	6.9%
名古屋城・名城公園	27,209 人	5.5%
オアシス 21	95,429 人	19.2%
中央広小路ビル	28,220 人	5.7%
七ツ寺共同スタジオ	4,248 人	0.9%
合計	497,053 人	100%

○国際美術展（主要 4 会場）の来場者内訳

会 場	一 般	大学生	高校生	中学生以下	招待者	合 計※
主要 4 会場合計	262,752 人 (72.1%)	29,266 人 (8.0%)	8,603 人 (2.4%)	51,981 人 (14.3%)	11,673 人 (3.2%)	364,275 人 (100.0%)
愛知芸術文化センター	112,200 人 (66.0%)	10,922 人 (6.4%)	5,215 人 (3.1%)	37,333 人 (21.9%)	4,479 人 (2.6%)	170,149 人 (100.0%)
名古屋市美術館	55,876 人 (75.5%)	6,865 人 (9.3%)	1,787 人 (2.4%)	6,856 人 (9.2%)	2,649 人 (3.6%)	74,033 人 (100.0%)
長者町会場	67,145 人 (78.3%)	8,131 人 (9.5%)	1,263 人 (1.5%)	5,984 人 (7.0%)	3,186 人 (3.7%)	85,709 人 (100.0%)
納屋橋会場	27,531 人 (80.1%)	3,348 人 (9.7%)	338 人 (1.0%)	1,808 人 (5.3%)	1,359 人 (3.9%)	34,384 人 (100.0%)

※国際美術展及びキッズトリエンナーレを合計した人数

■来場者の傾向

- ・来場者を対象に実施したアンケート調査に基づく来場者の傾向は次のとおり。

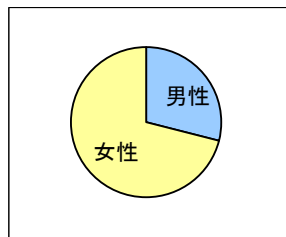
<アンケート実施概要>

- ・主要 4 会場において調査員がアンケート用紙を配布し、回収ボックス及び郵送で回収した。また、同内容のアンケートをウェブに掲載した。(回答数 3,781)

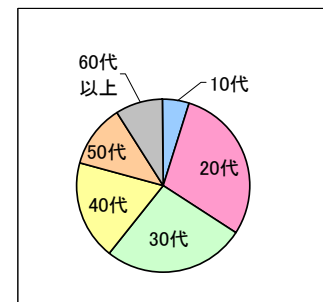
○来場者の属性

- ・男女別では、女性が 7 割、男性が 3 割となっている。
- ・子どもを除く一般来場者の年齢別では、10 代～30 代の比較的若い世代が約 6 割を占めている。
- ・名古屋市内、名古屋市を除く県内、県外からの来場者がそれぞれ約 3 割となっている。
- ・アンケートの回答の中では、43 都道府県からの来場があった。
- ・地域別では、県外からの来場者のうち、首都圏及び京阪神からが 5 割となっている。

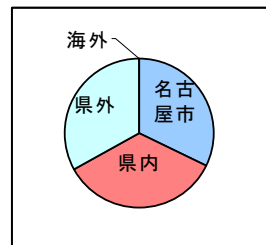
性別	比率
男	29.1%
女	70.9%
回答数	3,410



年齢	比率
10 代	4.9%
20 代	29.3%
30 代	26.3%
40 代	18.6%
50 代	12.1%
60 代以上	8.8%
回答数	3,409



お住まい	比率
名古屋市	32.2%
県内 (名古屋市外)	34.8%
県外	32.9%
海外	0.1%
回答数	3,308



圏域	内訳	割合(%)
首都圏	東京都	32.7
	神奈川県	
	埼玉県	
	千葉県	
京阪神	大阪府	17.4
	京都府	
	兵庫県	
東海	岐阜県	33.5
	三重県	
	静岡県	
その他		16.4
計		100.0

※割合は、合計人数を県外と回答した全体の人数(1,087 人)で割ったもの。

IV-(6) チケットの販売状況

①国際美術展

■国際美術展の券種について

- ・チケットの早期購入を呼びかけるため、廉価な特別先行前売券を4月限定で販売した。
- ・高校生の来場を促すため、高校生チケットの価格設定を特に廉価とした。
- ・何度も入場する来場者を想定してフリーパスを用意した。

券種		特別先行前売券 [22. 4. 1~4. 30]	前売券 [22. 5. 1~8. 20]	当日券 [22. 8. 21~10. 31]	備考
普通チケット	一般	1,000 円	1,400 円	1,800 円	全会場に1回ずつ入場可 (当日に限り再入場可)
	大学生	700 円	1,000 円	1,300 円	
	高校生	300 円	500 円	700 円	
割引チケット	ペアチケット	一般	2,600 円		2枚綴り、切り離して利用可
	団体割引チケット	一般	1,100 円	1,400 円	20人以上
		大学生	800 円	1,000 円	
		高校生	300 円	400 円	
	フリーパス	一般	3,000 円	3,500 円	実券に記名の本人に限り何度でも入場可
		大学生	2,000 円	2,500 円	
		高校生	1,000 円	1,200 円	

※中学生以下は無料。

※身体等に障がいのある方、及び付き添いの方2名までは、当日料金の半額。

■販売実績について

- ・国際美術展全体では、販売目標枚数の10万枚を大きく超え、最終的には176,228枚に達した。
- ・特別先行前売券は、販売期間の1か月で7万枚を超える販売枚数となり、トリエンナーレのPRにもつながる効果があった。

券種		特別先行前売券 [22. 4. 1～4. 30]	前売券 [22. 5. 1～8. 20]	当日券 [22. 8. 21～10. 31]	合計	
普通チケット ※団体割引を含む		一般	66,688 枚	6,870 枚	54,461 枚	128,019 枚
		大学生	2,676 枚	1,030 枚	8,793 枚	12,499 枚
		高校生	7,601 枚	931 枚	3,345 枚	11,877 枚
割引 チケ ット	ペアチケット	一般			3,378 枚	3,378 枚
	フリーパス	一般		2,746 枚	2,872 枚	5,618 枚
		大学生		490 枚	605 枚	1,095 枚
		高校生		100 枚	87 枚	187 枚
spectra[nagoya]単独券				13,555 枚	13,555 枚	
合計		76,965 枚	15,545 枚	83,718 枚	176,228 枚	
販売金額					217,791,240 円	

②パフォーミング・アーツ（劇場公演）

- ・劇場公演(6 企画 19 公演)とワークショップ(2 回)で 4,537 枚のチケットを販売し、その金額は合計で 18,486,660 円となった。
- ・小ホール公演はすべての公演でほぼ完売となったが、大ホール公演は販売予定枚数の 7 割程度となった。
- ・平成 22 年 5 月 21 日から前売チケットを販売したところ、ヤン・ファーブルとローザスは短期間で完売し、追加公演の有無に関する問い合わせが多数あった。

No.	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	金額 (円)
1	平田オリザ＋石黒浩研究室(大阪大学) ロボット版『森の奥』 【小ホール/4公演＋追加2公演】	1,075	前売	683	3,000	2,049,000
			当日	175	3,500	612,500
			学生(前売)	73.5	2,000	147,000
			割引	143	2,700	386,100
2	デルガド・フッシュ 『桃色のスポンと赤いヌバックの先の尖ったハイヒールをはいて、襟ぐりが緩んだセーターの上に着た空色のウールのロングコート』 【小ホール/3公演】	469	前売	254	3,000	762,000
			当日	130	3,500	455,000
			学生(前売)	39	2,000	78,000
			割引	46	2,700	124,200
3	梅田宏明 『Adapting for Distortion / Haptic』 【小ホール/2公演】	451	前売	284	3,000	852,000
			当日	91	3,500	318,500
			学生(前売)	45	2,000	90,000
			割引	31	2,700	83,700
4	ヤン・ファーブル 『Another Sleepy Dusty Delta Day ～またもけだるい灰色のデルタデー』 【小ホール/3公演】	534	前売	408	5,000	2,040,000
			当日	49	5,500	269,500
			学生(前売)	63	3,000	189,000
			割引	14	4,500	63,000
5	ローザス 『ローザス・ダンス・ローザス Rosas danst Rosas』 【小ホール/3公演】	475	前売	296	5,000	1,480,000
			当日	124	5,500	682,000
			学生(前売)	30	3,000	90,000
			割引	25	4,500	112,500
6	アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル ＋ジェローム・ベル＋アンサンブル・イクトウス 『3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)』 【大ホール/2公演】	1,306	前売(S席)	609	6,000	3,654,000
			前売(S席/ペア)	244	5,500	1,342,000
			前売(S席/団体)	30	5,400	162,000
			前売(S席/生協)	3	5,220	15,660
			前売(A席)	96	5,000	480,000
			前売(B席)	67	4,000	268,000
			前売(A席/学生)	153	2,000	306,000
			当日(S席)	57	6,500	370,500
			当日(A席)	16	5,500	88,000
			当日(B席)	31	4,500	139,500
-	通し券(8公演の通し券を24組売上)	(24組) 192	通し券	(24組) 192	(28,000) 3,500	672,000
a	ヤン・ファーブルワークショップ	15	当日	15	3,000	45,000
b	ローザスワークショップ	20	当日	20	3,000	60,000
	合 計	4,537				18,486,660

※実行委員会の収入となる公演のみを計上しており、実演団体等の収入となる公演（小ホールの 3 企画 9 公演、ロボット版『森の奥』の追加 2 公演の半額）は計上していない。

③パフォーミング・アーツ（ギャラリーG 等公演）

- ・ギャラリーG(5 企画 13 公演)で 894 枚、納屋橋会場(1 企画 514 公演)で 432 枚のチケットを販売し、その金額は合計で 2,127,000 円となった。
- ・ギャラリーG(美術館の展示スペース)でパフォーミング・アーツを上演するという新たな試みではあったが、スティーヴン・コーヘンと山川冬樹は前売で全チケットを完売するなど、会期後半に向けて浸透していった。

	No.	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	金額 (円)
○ギャラリーG							
	1	ラ・リボット『PARAichi-Distinguida』 【4公演】	150	前売	46	2,000	92,000
				当日	104	2,000	208,000
	2	フォースド・エンターテイメント『Quizoola!』 【1公演】	93	前売	37	1,000	37,000
				当日	56	1,000	56,000
	3	アントニア・ベアー『Over The Shoulder』 / 『Laugh』 【4公演】	165	前売	71	2,000	142,000
				当日	94	2,000	188,000
	4	スティーヴン・コーヘン『Chandelier』 【2公演】	246	前売	246	2,000	492,000
				当日	販売なし		
	5	山川冬樹『Pneumonia』 【2公演】	240	前売	240	2,000	480,000
				当日	販売なし		
	小 計	894				1,695,000	
○納屋橋会場							
	1	ボリス・シャルマツ『héâtre-élévision』 【514公演(1日7~8公演、1公演につき1名のみ鑑賞可)】	432	前売	199	1,000	199,000
				当日	233	1,000	233,000
		小 計	432				432,000
		合 計	1,326				2,127,000

④パフォーミング・アーツ（まちなか公演）

- ・まちなかで行うパフォーミング・アーツのうち、唯一の有料公演である「平山素子『Carp with wings, me』」については、日本のコンテンポラリーダンス界をリードする平山素子が名古屋を代表する老舗料亭「河文」で公演を行うことや、ダンスの上演前に茶菓を呈上し、そこからパフォーマンスを開始するという企画の斬新さなどが注目され、販売した 99 枚のチケットは短期間で完売となった。

	No.	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	金額 (円)
○料亭 河文							
	1	平山素子 『Carp with wings, me』 【1公演】	99	前売	99	4,000	396,000
				当日	販売なし		
		合 計	99				396,000

⑤プロデュースオペラ

- ・2公演で4,310枚のチケットを販売し、その金額は35,430,930円となった。
- ・公演日が近づくにつれてメディアでの露出が増え、これに伴ってチケットの販売が急伸した。公演日の数日前にはすべてのチケットが完売となった。

No.	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	金額 (円)
1	あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ 『ホフマン物語』 【大ホール/2公演】	4,310	前売(S席)	522	13,000	6,754,800
			前売(S席/ペア)	1,594	11,500	18,063,480
			前売(A席)	114	9,000	1,020,960
			前売(A席/ペア)	314	8,100	2,509,600
			前売(B席)	112	7,000	777,840
			前売(B席/ペア)	276	6,300	1,719,610
			前売(C席)	154	5,000	764,800
			前売(C席/ペア)	338	4,500	1,503,000
			前売(D席)	559	3,000	1,662,840
			前売(D席/学生)	327	2,000	654,000
	合 計	4,310				35,430,930

※先行予約等の割引があるため、枚数×単価は金額と一致しない。

IV-(7) 地域との連携 ①共催事業

■あいちトリエンナーレ 2010 祝祭ウィーク共催事業

- ・「祝祭ウィーク」(平成 22 年 10 月 11 日(月・祝)～17 日(日))期間中に、愛知芸術文化センターの大ホール、コンサートホール及び小ホールにおいて、企画公募(平成 21 年 4 月 16 日～6 月 30 日募集)により決定した地元文化芸術団体等と実行委員会、愛知芸術文化センターの 3 者による共催で舞台公演を行った。
- ・公募には 54 の団体・個人が応募し、①祝祭性に富むか、②愛知県芸術劇場(各ホール)の持つ機能を十分活かした企画か、③優れた活動実績を有するか、等を基準に審査・選考を行い、最終的に 16 の団体・個人が選定された。
- ・公演分野は日本舞踊、狂言、邦楽、和太鼓などの伝統芸能のほか、バレエ、合唱、演劇など。全 19 公演の総入場者数は 17,967 人であった。

【祝祭ウィークプログラム一覧】

○愛知芸術文化センター大ホール

公演日	主催者名	公演名	分野	入場者数(人)
10/11(月・祝)	大治太鼓	大祭 2010	伝統芸能 (和太鼓)	1,656
10/13(水)	川口節子バレエ団	BALLET SELECTIONS 2010	舞踊 (バレエ)	1,260
10/14(木)	社団法人現代舞踊協会 中部支部	躍動の祭典 コンテンポラリーダンス 2010	舞踊 (現代舞踊)	1,628
10/16(土)	日本舞踊名花撰 制作実行委員会	日本舞踊名花撰	伝統芸能 (日本舞踊)	1,307
10/17(日)	越智インターナショナル バレエ	「ジゼル」全幕	舞踊 (バレエ)	1,775

○愛知芸術文化センターコンサートホール

公演日	主催者名	公演名	分野	入場者数(人)
10/11(月・祝)	狂言共同社	Macbeth(マクベス)	伝統芸能、オペラ	809
10/12(火)	吉田 文	パイプオルガンと 2 本のトランペットの華麗なる祭典 ～ブラヴィッシモ Bravissimo! アイチッシモ Aichissimo!!～	音楽(オルガン、 トランペット)	896
10/13(水)	グループクリエイティブK 倉知可英 & 児玉たまみ	光の記憶～HIKARI	音楽、コンテン ポラリーダンス	2,244 (2 公演)
10/14(木)	蒲郡市シニア吹奏楽団	Powerful Senior フェスティバルコンサート	音楽 (吹奏楽)	1,234
10/15(金)	コール・フロイデ	矢野としゑ指揮による合唱音楽と美術の共演	音楽 (合唱)他	1,266
10/16(土)	ナゴヤディレクターズ バンド	あいちトリエンナーレ特別演奏会 ～吹く、奏でる、楽しむ そして 歌い踊る～	音楽 (吹奏楽)	920
10/17(日)	名古屋三曲連盟	和・洋・楽・驚・響～和洋協演の響き～	音楽(邦楽、オー ケストラ)	1,608

○愛知芸術文化センター小ホール

公演日	主催者名	公演名	分野	入場者数(人)
10/11(月・祝)	森 祥子	森祥子ピアノコンサート ゲスト：新澤隆志氏(左手のピアニスト)	音楽 (ピアノ)	400
10/13(水)	afterimage	F・J・J・S	舞踊(コンテン ポラリーダンス)	50
10/15(金)	ままごと	あゆみ	演劇	232
10/16(土)・ 17(日)	彩・祀・祭 制作実行委 員会	彩・祀・祭～SAI～	音楽、舞踊、 伝統芸能他	682 (3 公演)

■七ツ寺共同スタジオとの共催事業

- ・前衛芸術の拠点として古くから知られる七ツ寺共同スタジオとの共催により、現代美術と演劇のコラボレーション企画「七ツ寺共同スタジオプロジェクト『往還―地熱の荒野から―』」を七ツ寺共同スタジオにおいて実施した。(総入場者：3,224 人)

○七ツ寺共同スタジオプロジェクト「往還―地熱の荒野から―」プログラム

プログラム名	開催日	入場者数(人)
三田村光土里展『青い誘惑』	9/10(金)～9/12(日)	344
米山和子展『こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ』公開制作	9/15(水)～9/16(木)	74
米山和子展『こめのゆめ 2010 七ツ寺共同スタジオ』	9/17(金)～9/19(日)	691
栗本百合子展『the lighting』	9/24(金)～10/3(日) ※9/27(月)を除く	1,286
栗本百合子展＋演劇『4時48分サイコシス/渴望』 (作：サラ・ケイン 演出：にへいたかひろ)	9/29(水)～10/3(日)	
ポエトリー・リーディングのタベ (出演：野村喜和夫、馬場駿吉、建畠哲、市川武史、来島里奈)	9/26(日)	65
演劇『りすん』 (演出：天野天街 原作：諏訪哲史)	10/21(木)～10/25(月)	764

■東海テレビとの共催事業

- ・バレエに高い関心を有するこの地域において、地元バレエ界が従来のバレエ団の枠を超え、横断的に参加するバレエの祭典「グラン・ドリーム・バレエ・フェス」を東海テレビとの共催により愛知芸術文化センター大ホールにおいて実施した。(総入場者：3,678 人、出演団体：60 バレエ団体)

○「グラン・ドリーム・バレエ・フェス」プログラム

プログラム名	公演日	入場者数(人)
“バレエ・フェスティバル” (地元振付家4人による創作作品)	9/25(土)	1,548
“スペシャル・ガラ・コンサート” (海外招聘も含めた4組の一流ダンサーによるグラン・パ・ド・ドウ及び 吉田都出演「オーロラ姫の結婚」ハイライト版)	9/26(日)	2,130

■その他の共催事業

- ・長者町会場において、長者町青長会(長者町地区にある企業の若手経営者の会)やサポーターズクラブとの共催でアーティストパーティやトリエンナーレスクールを開催した。(総入場者：765人)

○その他の共催事業プログラム

No.	プログラム名	開催日	開催場所	共催者	参加者数
1	長者町糸びすパーティー with ナウイン	8/21(土)	長者町 (堀田商事北側駐車場)	長者町青長会	350人
2	芸術的ムサカ・パーティー	8/22(日)	長者町 (万勝S館1階ATカフェ)	サポーターズクラブ	90人
3	トリエンナーレスクール				325人
No.5	ゲスト： トーチカ	9/23(木)	長者町 (万勝S館1階ATカフェ)	サポーターズクラブ	(140人)
No.6	ゲスト： 岡田利規	9/27(月)	長者町 (万勝S館1階ATカフェ)	サポーターズクラブ	(40人)
No.7	ゲスト： 渡辺英司	10/9(土)	長者町 (万勝S館1階ATカフェ)	サポーターズクラブ	(85人)
No.8	ゲスト： ナタリア・リボヴィ ッチ+藤田央	10/27(水)	長者町 (万勝S館1階ATカフェ)	サポーターズクラブ	(60人)

IV-(7) 地域との連携 ②芸術系大学等との連携

- ・地元の芸術系大学等とは、並行企画(パラレルイベント)の開催や作家の作品制作のサポート等で協力を得るとともに、普及・教育プログラムの実施などで連携した。

■並行企画の開催

- ・あいちトリエンナーレ 2010 関連企画として現代美術展を開催し、相互広報を実施した。

主催者	企画名	開催場所	開催期間	内 容
愛知県立芸術大学	アイチ・ジーン AICHI GENE -some floating affairs-	同大学芸術資料館	9/14(火)～10/3(日)	愛知県ゆかりの若手作家を中心とした現代美術展

■作品制作のサポート・場所提供等

- ・出品作家の作品制作に際して、制作場所の提供や作業スタッフの派遣などで協力を得た。

大学名	協力内容
名古屋芸術大学	・蔡國強氏の火薬絵画の制作場所の提供、学生の協力 ・ジュー・チュンリン氏の作品制作道具の貸与、場所の提供、学生の協力 ・マーク・ボスウィック氏の作品展示の補助 ・島袋道浩氏の作品の制作
愛知県立芸術大学	・シブリアン・ガイヤール氏の作品制作の場所の提供 ・ジラユ・ルアンジャラス氏の彫像の制作協力 ・ミケランジェロ・コンサーニ氏の彫像の制作協力 ・ダヴィデ・リヴァルタ氏の制作補助(学生の協力) ・ジンミ・ユーン氏の制作補助(学生の協力) ・斉と公平太氏の記録映像撮影の補助(学生の協力)
名古屋大学	・オリヴァー・ヘリング氏の学内レクチャーの設定、制作の補助、場所の提供、学生の紹介 ・宮永愛子氏の学内レクチャーの設定、学生の協力

■事業実施のサポート

- ・各種イベント等の事業実施に際し、サポートを受けた。

大学名	協力内容
愛知県立芸術大学	・ナウイン・ラワンチャイクン氏のパーティー開催に際しての学内レクチャー手配、サポート ・ジム・オヴェルメン氏のパフォーマンス開催に際してのコーラス指揮者の卒業生手配
名古屋大学	・西野達氏の作品展示場所の提供

■普及・教育プログラムの実施支援

- ・学校へのアーティスト派遣事業の実施に際して、講師を派遣するなどの協力を得た。

大学名	協力内容
愛知県立芸術大学	・准教授1名を県立岩倉総合高等学校への派遣

- ・キッズトリエンナーレにおける普及・教育プログラムの実施に際して、プログラムの企画や実施などで協力を得た。

大学名	協力内容
愛知県立芸術大学	・「フィジカルドローイング」始め2プログラムの実施
名古屋造形大学	・「大きな人の絵」の実施
名古屋芸術大学	・「消しゴム版画でオリジナル・エコバッグを作ろう」始め2プログラムの実施
愛知教育大学	・「つなげてならべて凸凹ロード」始め3プログラムの実施
名古屋経済大学	・「いぶし瓦で打楽器づくり」の実施
名古屋経営短期大学	・「ナンデモ絵筆で描こう」の実施
名古屋柳城短期大学	・「ふしぎのくにへようこそ1、2、3」の実施
愛知学泉短期大学	・「現代を生きるわたしの継色紙」の実施

IV-(7) 地域との連携 ③並行企画(パラレルイベント)

- ・会期中に開催され、トリエンナーレの開催趣旨に合致した愛知県内の企画展やコンサートを「並行企画(パラレルイベント)」とし、一体的かつ相互に広報展開を図った。

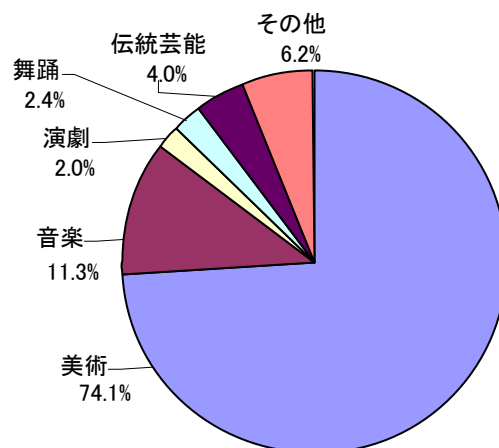
No.	会 場	企画名	開催期間	企画内容
1	名古屋ポストン美術館	ザ・風景-変貌する現代の眼	4/24(土)~9/12(日)	風景をテーマにした当館の現代コレクションを紹介
2		時の遊園地	4/24(土)~6/27(日) 7/3(土)~9/12(日)	櫃田伸也氏を含む名古屋で紹介したい現代作家の展覧会
3	豊田市美術館	森村泰昌-なにものかへのレクイエム	6/26(土)~9/5(日)	日本を代表する現代作家の個展
4		石上純也-建築のあたらしい大きさ	9/18(土)~12/26(日)	若手現代建築家の個展
5	愛知県立芸術大学芸術資料館	アイチ・ジーン AICHI GENE -some floating affairs-	9/14(火)~10/3(日)	愛知県ゆかりの若手作家を中心とした現代美術展
6	電気文化会館	迷宮の愉楽-ヴェネツィアに	10/6(水)	ヴェネツィアにちなむ現代音楽のコンサート
7	中京大学アートギャラリーC・スクエア	富岡奈津江展「陶のいきもの」	9/21(火)~10/23(土)	動物を象る若手現代陶芸作家の展覧会
8	碧南市藤井達吉現代美術館	庄司達展「空間の航行」	8/24(火)~10/3(日)	愛知県を代表する現代造形作家の個展
9	名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」	Fragmentation/フラグメンテーション	9/27(月)~10/8(金)	伏木啓氏によるイメージの断片化と時間をモチーフとする映像作品展
10		ダムタイプ《S/N》アーカイブ	10/25(月)~11/1(月)	ダムタイプの《S/N》に関連した映像アーカイブの展示
11	愛知県陶磁資料館	現代の陶芸-あいちトリエンナーレ2010によせて-	4/1(木) ~2011/3/31(木)	当館所蔵の現代陶芸作品を中心に多様な現代陶芸を紹介
12	アーバンリサーチ名古屋店3階ギャラリー	都市の断片	8/21(土)~10/31(日)	トリエンナーレ出品作家を含む現代アーティスト(映像・立体)による展覧会
13	マルケイ観光ビル	名駅4丁目巨大壁面アート	10/25(月)~	大巻伸嗣氏が巨大な壁面アートを制作

IV-(7) 地域との連携 ④パートナーシップ事業

- ・平成 21 年 6 月から平成 22 年 7 月末まで、民間団体や自治体、文化芸術団体等が原則として県内で実施する文化芸術事業をパートナーシップ事業として募集・決定し、相互の広報協力などによりお互いの事業の盛上げを図った。
- ・応募・決定件数は 498 件。決定した事業はトリエンナーレのホームページに随時掲載したほか、チラシでもその開催を PR した。応募者には、広報用のチラシやホームページなどへの「あいちトリエンナーレ 2010 パートナーシップ事業」の名称とトリエンナーレのロゴマークの掲載を依頼した。
- ・また、平成 22 年 4 月以降、有料で展覧会や公演等を行うパートナーシップ事業の相手方とチケット半券の提示による入場料の相互割引を実施し、お互いの誘客を図った。
- ・応募分野は、全体の 3/4 を占める美術のほか、音楽、伝統芸能、舞踊、演劇など多岐にわたった。

【ジャンル別内訳】

美術	音楽	演劇	舞踊	伝統芸能	その他	合計
369 件	56 件	10 件	12 件	20 件	31 件	498 件



○パートナーシップ事業一覧

※名、尾、西、東はそれぞれ開催された地域を示す。(名＝名古屋、尾＝尾張、西＝西三河、東＝東三河)

【美術 (369 件)】			34	小島由実 個展	名	69	公募みよし美術展	西	104	山田俊彦展	名
No	事業名	地域	35	西日本医科学生写真連盟展	名	70	あいちアートの森＝アートが開く あいちの未来＝	全	105	奥三河名倉高原アートフェスティ バル	東
1	特別企画 輝きの色彩 横山大観 展	尾	36	馬骨子才林蔵れ描展 (ばこつし いりん ざれがきてん)	名	71	小牧アートフェスタ上街道 vol.3	尾	106	STANDING PINE-cube “Very Inner Place”杉山健司展	名
2	所蔵企画展「夢みる女たち」	尾	37	廣中雪江・高橋久仁子 二人展 vol.6 ―帽子に愛を込めて―	名	72	招福・トラ×ねこ展	名	107	社の宮市 (第10回)	尾
3	三河・佐久島アートプラン21「佐久島 体験 2009 祭り」とアートによる島おこ し」	西	38	アートドッグズ 138	尾	73	第13回創春会展	名	108	感動ふたたびパート2 愛と知の ちから こんなにすごいぞ愛知の 美術！展～写真に込められた思い	尾
4	ジャパネスク 2009・いにしえの心 をアート	名	39	ながくてアートフェスティバル開 連企画「美術入門講座・こんなに 楽しい現代美術～戦後から現代ま で～」	尾	74	清流 2010 ―発想×発信―	名	109	瀬戸市美術館特別展 陶芸&陶磁 器デザイン ―愛知県立芸術大学 陶磁専攻の20年―	尾
5	ジャパネスク 2010・いにしえの心 をアート	名	40	丹羽克己写真展	名	75	企画展「名古屋の素焼 ―八事窯 中村道年へのあゆみ―」	尾	110	五色園浅野祥雲作品再生プロジェ クト	尾
6	田村公男個展	名	41	KEI 作品展	名	76	長谷川桃子個展	名	111	所蔵日本画展「静寂なる空間―花 鳥画から静物画へ―」	名
7	所蔵茶道具展「床のよそおい―墨 蹟と花入を中心に」	名	42	第8回私のマチエール展	名	77	磯貝愛貴個展	名	112	所蔵企画「マティスノール展」	尾
8	名古屋イラストレーターズクラブ 展 ―それぞれのアートシーン―	名	43	阿部大介展「かたまりへ」	尾	78	佐藤有紀個展	名	113	加藤真也石彫展 競囃展 (APAコレクション)	名
9	加藤恒一展	尾	44	G・A・M展 Global Artist Movement	西	79	KOBO SATOSHI Solo Exhibition	名	114	井戸を掘る展 藤井敬子展 新海文子・山口恵味・吉田瑞志有展	名
10	マヨネ～S’ 10年突破『2019』	名	45	真島直子展	名	80	渡邊春菜個展	名	115	永坂嘉光展 福井瑞紀展	名
11	桜ヶ丘ミュージアム開館 15 周年 記念特別展 境界なきアート展	東	46	鈴木省三展	名	81	新子個展	名	116	INDIRECT’IOS 展 INDIRECT’IOM 展	名
12	2009 年「視点」第34回写真展名古屋 展	名	47	赤塚祐二展	名	82	MimiRoro 個展	名	117	梶千寿展 矢嶋洋一展 ニシムラマホ展	名
13	古川美術館企画展「人の姿かたち」	名	48	小林亮介展	名	83	伊藤歌奈子個展	名	118	カオリとマリ子展 APAコレクション展 櫻井裕子展	名
14	古川美術館特別展「祈りのこころ」	名	49	吉岡俊直展	名	84	山崎美紀子個展	名	119	柳本美帆・鈴木京展 後藤謙展	名
15	分館為三郎記念館 秋季公開「服 部早苗 日本の美 キルトの華」	名	50	日野田崇展	名	85	今井かおり個展	名	120	松岡徹展 松尾栄太郎展	名
16	あなたの心を元気にする言葉って 何ですか? 「日本人の心に情熱の 火を灯す言葉ネオンプロジェクト」	名	51	戸川英夫展	名	86	邪道個展	名	121	早川知加子・寺岡麻美子・赤井郁 美展 酒向絵美ガラス展	名
17	久保田珠美個展	名	52	長谷川繁展	名	87	磯貝剛個展	名	122	石神則子展 増永七生展	名
18	久保田玲奈個展	名	53	遠藤泉女展	名	88	下本英恵個展	名	123	泉 秀 憲・伊 藤 明 淑・Oh, Kyung Taek・Son, Sungil 展 藤掛幸智ガラス展	名
19	馬場陽子展	名	54	所蔵企画展「四季の彩り」展	尾	89	柴田遼個展	名	124	横地洋司展 清水陽子展	名
20	満洲美穂個展 ―ほうじ茶ミルクプリン―	名	55	森貞人デジタルアート展	名	90	YAO 個展	名	125	横田千明展 吉野公賀展 梅本伸司展	名
21	花井正子のアブストラクト	名	56	新春名品展	名	91	くまたにたかし個展	名	126	葉栗剛木彫展 片山浩展	名
22	百瀬博展	名	57	珠玉の小品 ミニヨン展	名	92	つづく個展	名	127	近藤千鶴展 遠藤美香展	名
23	茶の湯 全国の旅展	名	58	古川美術館 新春企画展「継承の 美～美の系譜」	名	93	天野入華個展	名	128	吉田晴弥展「Atomic Orchesta」	尾
24	島崎弥佳子展・吉田空寛展	名	59	分館為三郎記念館 為三郎生誕 120 年を記念して ～この道～	名	94	伊藤たかを個展	名	129	愛知県立芸術大学芸術資料館 「アイチ・ジーン」	名
25	ながくてアートフェスティバル 2009	尾	60	「チェーンソーアート世界大会」× 「三河の里山だより」コラボ企画 チェーンソーアート・フォトコンテ スト	一	95	杉原悠人個展	名	130	8 るつぽ展	名
26	切り絵俊寛とフィレンツェモザイ ク清水優子	名	61	「おしゃべりな椅子たち」村上京 とアートフルな仲間	名	96	森部英司個展	名	131	第8回 Enjoy あーと大賞展	名
27	とよはしアートユニット 野外美 術企画展	東	62	パティオ・アートプロジェクト 2009 「“超線”を描いた小さな絵師たち」 ―高木正臣+ 巨大なアート― 作品 展	西	97	ChiKa SuzuKi Solo Exhibition	名	132	加藤茜展 生命賛歌	名
28	もうひとつの二科展 NIKA DESIGN ECO ACTION エコかエゴか …「環境へのワタシノキモチ」	名	63	クラフトの風	名	98	特別展「バスキンとバリを愛した 画家たち」展―北海道立近代美術 館コレクションを中心に―	尾	133	片山高行展―face―	名
29	押正徳 切り絵展	名	64	新城ムービングイメージフェス ティバル	東	99	2010 芽菜・ミニアチュール展―作 家・私のしごと、私のあそび―	名	134	打田翠展―full―	名
30	宇都宮豊和 写真展	名	65	鹿野隆大展「毎日写真／花街びと」	尾	100	東栄チェーンソーアート世界大会 2010	東	135	添野郁 Kaoru Soeno stir Exhibition	名
31	6つの視点: ⇄Stage3	名	66	昭和会賞受賞記念 岡本増吉展	名	101	第17回名古屋造形大学卒展	名	136	靉々池アートサロン企画展 「光の情景―印象派から現代 (contemporary) へ―」	西
32	FACE 山形幸子展	名	67	REGION 2010 Part1	名	102	ザ・風景 変貌する現代の眼	名	137	「PEACE CARD 2010 NAGOYA」	名
33	山中美奈子 水彩画展 ―安らぎ と癒しの空間―	名	68	守屋美保 個展	名	103	井上太呂・井上北斗展 (水墨画展) ―吉野桜霞―	名	138	「niku」池本かおり展	名

139	ユリイカ 2010	名	175	ふそう美術展	尾	211	メナード美術館コレクション名作展	尾	247	サカキマンゴーのアフリカの楽器をつくろう！	尾
140	～美の滴（しずく）～三輪修展	名	176	「h220430」展	名	212	PALAIS 展	名	248	<企画展>京都の粋 琳派の継承者 神坂雪佳展	尾
141	顔と響	名	177	安藤裕佳展 “communication”	名	213	FANTASTA 展	名	249	杉本真弓・IWATA 展	名
142	痕跡 林田健・島山友里展	名	178	四季、彩りの版画展’ 10	名	214	Bounding Stones 展	名	250	3vision 展	名
143	大庭寛明・木村徹・佐藤圭司・藤原正則展 vol.2	名	179	名古屋ポストン美術館 展覧会関連イベント ザ・風景 大賞	名	215	自由意志展	名	251	富澤尚美展	名
144	坂本麻貴展 SAKAMOTO MAKI exhibition	名	180	第 6 回次世代の洋画家たち	名	216	あっちこっち de アトリエ - カーク展	東	252	水縹（みずはなだ）展	名
145	恋は灯台 久野静香展	名	181	第 8 回明日への飛翔 日本画展	名	217	田島征三と一緒に絵を描こう！	東	253	NEXT5 展	名
146	森からのメッセージ 2010	名	182	第 11 回それぞれの表現展	名	218	常滑 ART SAFARI 2010	尾	254	石原富夫展	名
147	La Vista	名	183	未来への波濤 Vol.9	名	219	<企画展>心の森の仲間たち 水野政雄の世界	尾	255	ED0×YUMEKA Life Is Trip 展	西
148	加藤美奈子展 リトグラファー	名	184	<所蔵企画展> 一初夏－ 若葉きらめく	尾	220	愛知県陶磁資料館企画展/愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展 「1000 年前のハローワーク-見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学-」 特集陳列「愛知の歴史学-県史編さん室と県立大学の挑戦-」	尾	256	PHOTO-EXHIBITION/Katsuyoshi Yasuura “Notes of Hanoi” ～ All roads lead to Hanoi or new odyssey	名
149	アートフェスタ 2010 in ナゴヤハウジングセンター ー宮会場	尾	185	三河・佐久島アートプラン 21 「佐久島体験 2010 祭りアートによる島おこし」	西	221	第 3 回 PLUS	名	257	CODE : 都市のアイデンティティ ポスターデザイン・コンペティション[名古屋]入賞作品展	名
150	アートフェスタ 2010 in ナゴヤハウジングセンター 半田会場	尾	186	古川美術館特別展「青郁の芸術」	名	222	佐藤克久展 「はじまりのつづき」 「つづきのそれから」	名	258	木綿蔵・ちた作品展 ー織りて遊ぶー	名
151	赤塚一三展	名	187	分館為三郎記念館特別企画「色と光の工芸」工芸煤々会協力	名	223	講座「野外彫刻に触れる！楽しむ！」	尾	259	表現と対話展	西
152	高梨芳美展ー透明な強靱さと風格ー	名	188	ー受け継がれし美ー 金山平三 刑部人 五月女政平展	名	224	ー光を求めてー 小野月世展	名	260	2010 年「視点」第 35 回写真展名古屋展	名
153	時の遊園地	名	189	放浪の天才画家 山下清のすべて	西	225	「どう見る？現代アート～あいちトリエンナーレ 2010 をめぐる～」	名	261	MARCH ON	名
154	清須越四百年事業 スペインの巨匠「ミロ展」	尾	190	広瀬淑子展ー花風ー	名	226	愛知県立南陽高等学校・PTA・同窓会「第 15 回南陽高校一日学校開放講座「アカデミア南陽」」	名	262	1889/コラージュ展	名
155	井上直子展	名	191	安藤知哉陶展ー公園に行こう・picnic teaー	名	227	山里のアート巡り きてみん！奥三河	東	263	紙一重 ～西尾城下町芸術祭～	西
156	3WAY 展	名	192	山下強志展ー見ること、知ることー	名	228	成田郷子木版画展 私の水族館 Part20	名	264	ヒカリの庭 水のコト（小澤章子）	尾
157	「みんなのアート」プロジェクト く集まる ARTS、アツアツ ARTS!>	ー	193	鴨頭みどり陶人形展ー妖精のいる景色ー	名	229	大野昌之個展	名	265	NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS	尾
158	アースデイ尾張・木曾川 2010	尾	194	泉田之也陶展ー積薄陶ー	名	230	関智生展	西	266	桧野晴恵 銅版画展	名
159	西風のグラフィックス	名	195	山川マサミ展 ー小さくて大きな物語ー	名	231	アートイベント もっと黒く ー色・形・線	尾	267	名古屋イラストレーターズクラブ 作品集出版記念展	名
160	「日々のかざむき」降旗芳美展	名	196	柴田節郎陶展ー記憶の隙間ー	名	232	人間展	名	268	名古屋イラストレーターズクラブ 「カレンダー展」	名
161	春の若手日本画展 春宵一刻価千金 齋藤ゆりあ・濱島司・藤城正晴	名	197	愛知県立芸術大学サテライトギャラリーオーピング展ー美術学部教員による作品展ー	名	233	あいち国際女性映画祭 2010	名	269	名古屋イラストレーターズクラブ 展「SEASON」	名
162	ベットボルドデコレーション楠木鉢	名	198	N0yes meets Sprouts	名	234	第 10 回点展「セルフポートレート」展	名	270	具象現代展	名
163	大澤海蔵と「サンサシオン」の画家たち展ー「朗らかな人間的な美術の確立」	尾	199	名古屋港ポートビル回廊ギャラリーー 第 18 回ふしぎな花俱樂部押し花アート作品展	名	235	平成 22 年度長久手町文化の家 絵画コンクール（小学生／中学生の部）受賞・入選作品	尾	271	林裕己写真展「表現と家族」	尾
164	野外彫刻プロムナード展 10 周年記念・知立ライオンズクラブ 45 周年記念・知立市制 40 周年記念・知立市文化会館開館 10 周年記念「X Stages」	西	200	名古屋港ポートビル回廊ギャラリーー 「第 2 回 撮ったクラブ写真展」	名	236	journey junction 展	名	272	針生一郎が選んだ『愛知 60 年代の現代美術展』	名
165	荻野佐和子展 リトグラフ、ドローイング	名	201	名古屋港ポートビル回廊ギャラリーー 名古屋港祭り協賛 港に働くものの作品展	名	237	服と帽の装い展	尾	273	針生一郎が選んだ 60 年代の作家『今の作品展』	名
166	牧絵理子展 ー木版・コラグラファー	名	202	名古屋港ポートビル回廊ギャラリーー 「第 11 回アトリエMK展」	名	238	なごみの木の家具となんてステキな T シャツ！展	尾	274	大隅東也 木版画展	名
167	愛と知のちから 感動みたひバート 3 愛知、現代美術の歩み展 コンテンツラリー1×トリック 2 ×アート 3	尾	203	名古屋港ポートビル回廊ギャラリーー 「第 8 回 岩田昌子ー2010ー」	名	239	春日井まつり・野外造形展	尾	275	ヒロオガワ／個展「夜のかげら」	名
168	「瓦コレクション展ー小川白楊コレクションと井上郷太郎コレクションー」	西	204	写真撮影集団くわっど写真展 「ザ・イルカパフォーマンクスー名古屋港のバンドウィルカたちー」	名	240	ガラス箱の世界 近藤純一	尾	276	poppoppop 展	名
169	吉田佳代子 リトグラフ展	名	205	森の童話読書感想はがきコンクール	名	241	F(エフ)	尾	277	Nagoya Creators Exhibition Day & Night	名
170	名古屋芸術の杜アートギャラリー第 6 回ひまわり展	名	206	第 4 回おもしろこもてんこ森祭	名	242	ARTIST FILE 02	西	278	草間彌生展	名
171	高木絵里奈展	名	207	佐藤杏子展 <銅版画、ドローイング>	名	243	かにえりぶくんナレー 2010	尾	279	Andrew Vorland Route 66 Exhibition	名
172	有賀正季展	名	208	ラファエル ナバス展	名	244	岩井義尚 木彫展 2010	名	280	福岡栄展	名
173	環ー4 人の仕事ー展	名	209	六角尚武 遺作展	名	245	名古屋港アートフェスティバルー船を待つー ー名古屋港でアートを考えるプロジェクト及び若手アーティストの展覧会ー	名	281	拝啓、愛知トリエンナーレ監督 地元彫金作家も頑張ってます 敬具	名
174	庄司達展	西	210	市橋安治展 ー油彩、銅版画ー	名	246	Unique Commons-わたしだけのみんなのもの 名古屋芸術大学洋画卒業生展	尾	282	小澤順一陶展	名

283	伊藤孚展	名	316	Psychedelic ART 堂本清文展	名	349	打樋佐知子銅版画展 「月の匂ひ」	名	12	日進児童合唱団創立 20 周年記念演奏会	尾
284	第 3 回ふれあいアート展	名	317	西澤伊智朗陶展 カンブリアのカンブリアたる理由	尾	350	帽子デザイナー 池田かよ展	名	13	村治佳織 ギター・リサイタル	西
285	櫻井里恵展	名	318	信州陶 小池智久展	尾	351	「北欧のクリスマス」展	名	14	樫本大進 plays パツハ	西
286	庄司達退官記念展「Navigation」	名	319	「穴」	名	352	伊藤秀人新作うつわ展	名	15	MARUWA CHRISTMAS CONCERT 2009	尾
287	福沢サンドフェスタ 2010	尾	320	熊崎勝展 ワンダーランド	名	353	SAMPLE SHOWROOM “the sample” 栗本百合子展	尾	16	宮本文昭レクチャーコンサート「岡崎の若きメンバーによる木管五重奏コンサート」	西
288	第 20 回宮口照明 個展	名	321	常滑フィールド・トリップ 2010	尾	354	macoto saito のひとりトリエンナーレ ～アートは野山を駆け廻る～	名	17	基ベ楽団	尾
289	第 5 回五差路点	名	322	バンブーインステレーション in おおくさ 2010	尾	355	BROOCH 作品展 「たからばこ」	名	18	愛西市市民音楽鑑賞会	尾
290	アメリカ現代美術展	名	323	鶴舞線イベント「アート ECO ステーション」	名	356	hama 作品展 「音と食」	名	19	小牧混声合唱団 第 3 回演奏会	尾
291	辛受麻展 く木版画、コラージュ	名	324	宮本なお美展	名	357	森部英司作品展	名	20	大橋淑恵ソロヴァイオリンリサイタル	名
292	梅田恭子 脚のある池	名	325	空に魚が泳いだ日 展	名	358	でら Art in 鶴々亭+百華庵	名	21	ズーラシアンプラスと弦(つる)うさぎによる「音楽の絵本」	西
293	ラファエル・ナバス×××ファールント	尾	326	ripple 展	名	359	NoBoRDER 写真展	名	22	中部フィルハーモニー交響楽団第 2 回名古屋定期演奏会	名
294	遠山敦ワークショップ。	尾	327	3 つの新芽展	名	360	伴真奈美 書展	尾	23	色彩あふれる祝祭サマーコンサート	名
295	あかいろ。いろいろ。	尾	328	齋藤歩美・松井恵子展	名	361	Space 07	名	24	宗次ホール ランチタイムコンサート『チェコ名曲紀行』	名
296	所蔵茶道具展 「茶道具への視線 一素材・形・文様」	名	329	ここに来るまでの事	名	362	市制 40 周年・開館 15 周年記念特別展 三州瓦と高浜いま・むかし展	西	25	一宮こども音楽文化センター「みんなでつながるコンサート」～みんなでいっしょにおいかけよう、明日の夢を！～	尾
297	松岡徹展	西	330	「CIRCLE2」展	名	363	生誕 90 年 久野真展 一平面と立体の狭間一	名	26	コール・キルシエ第 4 回演奏会	名
298	三景 三輪乙彦×酒井稔×小寺克彦 展	名	331	cameron art exhibition	名	364	松尾藤代展 一窓一瞑想の光と影一	名	27	読売新聞中部発刊 35 周年記念読売日響名曲シリーズ名古屋公演シルヴァン・カンブルラン第 9 代常任指揮者 就任披露演奏会	名
299	浮 森 -floating forest 伊藤正人ー田口健太ー平川祐樹	名	332	佐藤克久・猪狩雅則展「絵の向こう側」-over the painting-	名	365	清水九兵衛展 一幾何学性と有機性一	名	28	新しいうたを創る会 第 7 回 名古屋初演奏会	名
300	版画で旅するー歌川広重「名所江戸百景」と関野準一郎「東海道五十三次」ー	西	333	芸術と科学のハーモニー事業 現代アートの鑑賞 「たけとよの不思議な動物園」	尾	366	Arch 2010 -KTL Concert in Nagoya-	名	29	オペラの魅力 vol.13	名
301	生誕 100 年記念 ハンス・フィッシャーの世界	西	334	四季折々	名	367	名古屋デザイン DO！ 2010／公開審査会	名	30	ナゴヤディレクターズバンド第 41 回定期演奏会	名
302	国際若手デザイナーワークショップ	名	335	西村正幸展 ーいのちの水ー	名	368	JAGDA 新人賞受賞作家作品展 2010	名	31	山中千尋ソロピアノ・ライブ 2010 夏 Chihito Yamanaka Solo Piano Live 2010 Summer	西
303	原田久の公開制作	尾	336	犬山アートプロジェクト「TUNAGARU」 ～里山が繋げる生物多様性	尾	369	公園×アート×生物多様性	名	32	アジア文化芸術祭	名
304	横山豊蘭展	名	337	清須越四百年事業 清須・川フェスティバル	尾	【音楽 (56 件)】			33	市制 40 周年記念 大府市音楽祭「宝くじまちの音楽会」岡村孝子&あみん～未来へのメッセージ～	尾
305	SUPER NATURAL POWER	尾	338	現代の陶芸ーあいちトリエンナーレ 2010 によせてー	尾	1	ゾウ列車が走って 60 年記念音楽会	名	34	親子で楽しむコンサートシリーズともものガラタ音楽会	西
306	高木義昭写真展「犬は家族Ⅱ」	名	339	ほほえみのかたちーやきものの人形展	尾	2	こまき秋の音楽祭 2009	尾	35	Icarus vol.2 阿部早希子×内本久美バリー祭 Duo コンサート	名
307	DEEDS of COLORS. 2010 小林英樹展	名	340	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝ー清風与平・宮川香山から板谷波山までー	尾	3	読売日響名曲シリーズ 名古屋公演	名	36	第 5 回明治大学マンドリン倶楽部コンサート	名
308	土屋敦資展	名	341	Thaicarving Malee 教室作品展 タイ伝統文化 フルーツ&ソーブ カービングとアートコラボ展	名	4	大府市楽友協会管弦楽団名曲コンサート in 知多	尾	37	第 5 回名古屋芸術の杜 姉妹都市フェスタ～名古屋・シドニー姉妹都市提携 30 周年記念イベント～	名
309	ー開館 30 周年記念ー 森岡完介版画展	名	342	DR. K 個展	名	5	Yuji Ohno & Lupintic Five 「LUPINTIC JAZZ LIVE」	西	38	大府トークライブ 水野紗希ヴァイオリンコンサート	尾
310	第 9 回私のマチエール展 ～アート祭典～	名	343	酒井正男 写真展	名	6	金城学院大学ハンドベルクワイア 20th Christmas Concert	名	39	愛知室内オーケストラ 第 9 回定期演奏会～ドイツの英雄	名
311	アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム 2010 [汗かくメディア]受賞作品公開展示	尾	344	新城駅前通りチャレンジ&アート・イベント大作戦	東	7	帷豆町国際ふれあいコンサート 2009～浜風の響宴～	西	40	Choeureclat 第 3 回演奏会	名
312	ーstayー常懐荘にて	尾	345	有賀幹夫写真展 KING OF ROCK'N' ROLL 忌野清志郎 NAUGHTY BOY	名	8	第 70 回蒲郡市吹奏楽団定期演奏会	東	41	徳永二男ヴァイオリン・リサイタル	西
313	倉地比沙支 Hisashi KURACHI ～elegance～	名	346	ラファエル・ナバス展	名	9	アナスタシア&唐澤まゆ子&三浦友理枝 クリスマスコンサート～3 人のミュージズが贈る聖なる調べ～	西	42	音楽が語るコスモロジーー未来の子どもたちへのメッセージ	名
314	A4 スケッチブック～青春 5 年生～	名	347	谷原伸子展	名	10	PRIME ハンドベルクリスマスコンサート 2009	名	43	三浦一馬 バンドネオン・リサイタル	西
315	JAPANESE MODERN PAINTING 1950-1970	名	348	井崎正治 「木のしごと」展	名	11	第 31 回岡崎市民音楽祭 ニューイヤークコンサート 2010	西	44	スカルサクラ 30 周年コンサート Katarzyna Mycka in Nagoya plays Nagoya Marimbas	尾

45	スタッフ・ペンダ・ビリリ ジャパンツアー2010 長久手公演	尾	【舞踊（12件）】			10	日本舞踊瑞鳳流舞踊会	尾	12	錦二丁目”場所の力”A to Zカードづくり	名
46	第 13 回 オーケストラとソリストたちのタベ	名	1	越智インターナショナルバレエ 60 周年記念公演 「ドン・キホーテ」全幕	名	11	平成 22 年度愛西市文化祭	尾	13	新城茶紙製作ワークショップ	東
47	第 28 回 シンフォニックウィングズ定期演奏会	名	2	越智インターナショナルバレエ 60 周年記念公演 「くるみ割り人形 スペシャル」全幕	名	12	第 9 回鬼みちまつり	西	14	昭和・平成に活躍したふるさとの文化人展	尾
48	東別院コンサート “お寺でジャズ” Vol. 3	名	3	CJB 中部日本バレエ団 第 19 回全国バレエコンクール in Nagoya	名	13	中日いけばな協会 35 周年記念 あいちトリエンナーレ 2010 現代いけばなアート展	名	15	Miss Campus 名大 2010	名
49	伊藤ともか＋通藤要一郎 candle Jazz night	尾	4	あのおびたしい数のいらないミサイルたちを、笑いながらシャンパンを飲んで、木っ端微塵に撃ち落とした所だよ	名	14	創流 88 年記念 石田流芸術展 ～COP10 開催によせて「地球・自然といのちの絆」いけばなの伝承と造形	名	16	伝承知多木綿つものき	尾
50	Expresso 2010	名	5	パティオダンス公演 2010 伊藤キムを知ろう！	西	15	草月会愛知県支部いけばな展「茜色に誘われて・・・」	名	17	メルバルク presents トリエンナーレ・スイーツフェア	名
51	愛知県立芸術大学音楽学部第 43 回定期演奏会	名	6	アジア文化芸術国際交流と祭典（仮称）	名	16	第 3 回いけばなスペースいけばな展 ―有松町並み保存地区 町屋にいけるー	名	18	第 11 回「知多から世界へ」講演会 in セントレア	尾
52	バリ・インド・日本 国際共同制作公演 スダマニ & ウロツテナヤチ × Yukie Satoh&インド古典音楽	名	7	CJB 中部日本バレエ団 第 20 回全国バレエコンクール in Nagoya	名	17	秋の特別展「世尊寺流の書」	尾	19	愛フェス 2010	名
53	幡豆町国際ふれあいコンサート 2010～浜風の響宴～	西	8	ハンガリーフェスティバル in 愛知”民俗音楽と踊りを楽しもう！”	名	18	曾山流樹徳吟詠大会 柳昌会第五回吟詠大会	名	20	大童（おおわらわ）～第一章・雨～	名
54	ショパン生誕 200 年特別企画 シブリアン・カツァリス ピアノリサイタル	名	9	市制 40 周年記念 おおぶトークライブ フラガール in おおぶ	尾	19	翔空・香苑展	西	21	車椅子のストリート・ロッカーズ スタッフ・ペンダ・ビリリを語る！～松山晋也トークショー～	尾
55	月見の音	尾	10	ゆかりバレエ創立 20 周年記念公演&定期発表公演 Vol. X	名	20	国際協会、334-A 地 7R1 Z 名古屋緑ライオンズ チャーターナイト（結成）30 周年記念大会	名	22	JOO CHOON LIN 氏特別講演	尾
56	しくう和尚の尺八説法	尾	11	舞工房 壱	名	【その他（31件）】			23	につぼん商店街シンポジウム in 愛知・名古屋	名
【演劇（10件）】			12	第 28 回名古屋クラシックフェスティバル オーストラリア・バレエ団「白鳥の湖」	名	1	丸美屋食品ミュージカル・アニメ（平成 21 年度）	名	24	和紙のあかりーキャンドルナイトー	尾
1	「闇の墓場」	名	【伝統芸能（20件）】			2	丸美屋食品ミュージカル・アニメ（平成 22 年度）	名	25	「あいちトリエンナーレ」を写そう！NPO 情報発信サポート事業 テーマ別講習会	名
2	市民音楽劇「万燈の輝く夜に」	西	1	いちのみや民俗芸能のつどい	尾	3	NAGOYA DESIGNER'S COLLECTION	名	26	空間ディスプレイ	名
3	第 12 回小牧市民舞台芸術祭	尾	2	大治太鼓尾張一座定期公演 2010	名	4	第 2 回いけばなスペースいけばな展 ―有松町並み保存地区町屋にいけるー	名	27	絵本でポエムセラピー	尾
4	第 10 回しみん劇	西	3	名匠狂言会	名	5	長者町えびす祭	名	28	けんちく模型づくり	尾
5	劇団アルクシアター 第 3 回公演 WISH BREATH ―世界は希望を呼吸しているー	名	4	小牧山 薪能	尾	6	文化ボランティアコーディネーター養成講座 in 可児	県	29	START はじめよう！	尾
6	人形のまち北なごやパペットフェスタ 2010	尾	5	人形浄瑠璃の可能性③講談と文楽人形	西	7	明治村トリエンナーレ 2010「第 3 回芸能・芸術祭」	尾	30	芸術と科学のハーモニー事業「ゆめホテル～音と光のシンフォニー」	尾
7	特定非営利活動法人「パンドラの会」設立 10 周年事業 みんなでコラボ&パンドラ 10 演劇公演「スイーツBOX」	西	6	平成 21 年度愛西市文化祭	尾	8	「建築の森」展～建築家のあたまの中～	西	31	Arp ～第 1 弾 Pika Pika Night～	名
8	ボクナナ！舞台	名	7	結城座公演「乱歩・白昼夢」＜江戸糸あやつり人形と江戸写し絵による＞	尾	9	「ひめゆり 平和への折り紙ー沖縄戦から 65 年」	西			
9	劇団 PAO COMPANY VOL. 13 『Φ（ファイ）～菩提樹の下で～』	名	8	市制 40 周年記念 おおぶトークライブ 沖縄民謡とエイサー	尾	10	錦二丁目まち歩きマップづくり	名			
10	即興パフォーマンスまねきねこ ☆第 34 回公演「ジョハリの窓」秘密の窓編・盲点の窓編	名	9	大府トークライブ 立川志の吉・柳家花ん謝 二人会	尾	11	第 35 回記念中日いけばな芸術展	名			

※事業名は、パートナーシップ事業応募用紙に記載された応募時のものによる。

IV-(8) 県民参加の状況 ①ボランティアの状況

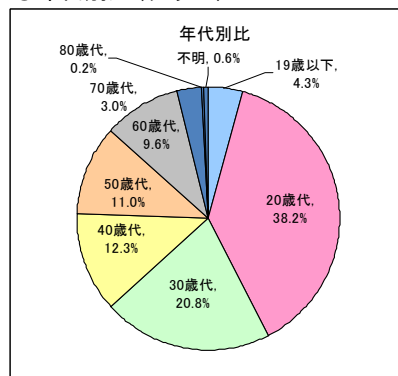
■登録及び活動の状況

- ・ボランティアの種別として、ボランティアリーダー、会場運営、ガイドツアー、アーティストサポート、事務局サポートの5種類を設けた。
- ・ボランティアの登録者は、重複登録を含めた延べ人数で2,363人（実人数1,289人）であった。なお、登録した1,289人のうち内覧会を含む会期中に実際に活動に参加したのは1,090人で、延べ7,029回の活動を行った。
- ・ボランティア登録者の平均年齢は37.2歳で、男女別では75.1%が女性であった。20歳代、30歳代の女性の登録が多く、全体の48.5%を占めた。
- ・愛知県内からの参加が最も多く、全体の約9割を占めた。

○登録及び活動の状況

ボランティア種別	登録者数(延べ)	活動実績(延べ)
ボランティアリーダー	96人 (4.1%)	602回 (8.6%)
会場運営	938人 (39.7%)	4,192回 (59.6%)
ガイドツアー	168人 (7.1%)	753回 (10.7%)
アーティストサポート	873人 (36.9%)	1,410回 (20.1%)
事務局サポート	288人 (12.2%)	72回 (1.0%)
計	2,363人 (100.0%)	7,029回 (100.0%)

○年代別比(グラフ)



○登録者の年代別比・男女別比

年代別	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	不明	計
男性	8人 (0.6%)	81人 (6.3%)	54人 (4.2%)	45人 (3.5%)	54人 (4.2%)	51人 (3.9%)	23人 (1.8%)	2人 (0.2%)	3人 (0.2%)	321人 (24.9%)
女性	47人 (3.7%)	411人 (31.9%)	214人 (16.6%)	114人 (8.8%)	88人 (6.8%)	73人 (5.7%)	16人 (1.2%)	0人 (-)	5人 (0.4%)	968人 (75.1%)
合計	55人 (4.3%)	492人 (38.2%)	268人 (20.8%)	159人 (12.3%)	142人 (11.0%)	124人 (9.6%)	39人 (3.0%)	2人 (0.2%)	8人 (0.6%)	1,289人 (100.0%)

■研修

- ・ボランティア登録者にはトリエンナーレの概要や接遇に関する研修を8回実施し、延べ1,489人が参加した。
- ・また、ガイドツアーボランティア登録者については、ガイドツアーに関する研修を17回実施し、延べ699人が参加した。

■待遇

- ・ボランティアとして活動した方全員に交通カード(「ユリカ」)を、また、活動日数に応じて、あいちトリエンナーレ2010公式ライセンスグッズ等を提供した。



【ミーティングの様子】



【活動風景】

IV-(8) 県民参加の状況 ②サポーターズクラブの状況

- ・あいちトリエンナーレ・サポーターズクラブ(愛称:「LOVE トリーズ」)を設置し、クラブに登録したサポーター(会員)が企画・運営にも関わり、楽しみながら参加できるような様々な事業を実施することによって、トリエンナーレを支えていく仕組み作りを行った。次のトリエンナーレに向けた継続的な活動を目指した。
- ・クラブの活動拠点として「AT カフェ」を期間限定(2010/7/17～10/31)で長者町会場にオープンさせ、サポーター同士が交流したり、来場者とアーティストが出会ったりする場とした。
- ・アートイベントの開催やチラシ等による情報発信をクラブとして行うとともに、サポーターが自主的に企画・運営して実施した活動(交流会、勉強会等)を支援した。
- ・閉幕の10月31日までに登録されたサポーター数は、5,373人である。
- ・サポーターズクラブの設置・運営には、緊急雇用創出基金事業を活用し、22人を新規に雇用した。



【AT カフェの店内風景】

○アートイベント

アートイベント名	開催回数	参加者数
トリエンナーレスクール	11回	計 1,139 名
アートイベント	11回	計 737 名

○地図、チラシ、新聞等による情報発信

発行物名	発行部数
地図「長者町アートマップ」	100,000 部
チラシ「イベントインフォメーション」	各 20,000 部×2回
情報誌「LOVE トリーズ新聞」	各 20,000 部×6回



【情報誌「LOVE トリーズ新聞」】

○サポーターが自主的に企画・運営した活動

活動名	内容	開催日	開催回数 参加者数
火曜日活動	ミーティング&交流会	毎週火曜日	11回 計 308 名
火曜日活動 プレゼンツ	トリ勉	毎週水曜日	7回 計 137 名
	夜の長者町探検	毎週金曜日	6回 計 110 名
	スペクトラ[ナゴヤ]マップ	—	1回 259 点参加
	オリジナルタンブラーデザイン	—	1回 20 点参加

IV-(9) 会場運営・会場サイン

①会場運営

- ・会場の運営においては、会場の看視・案内等においてボランティアの協力を得るなどにより、来場者への利便性に配慮した。
- ・緊急雇用創出事業基金を活用し、会場間交通として「ベロタクシー」や「草間の水玉プリウス」を運行するとともに、道案内人をまちなかに配置して会場への誘導を行った。(※73 ページ「IV(15)県・名古屋市によるトリエンナーレ補完事業(緊急雇用創出事業基金事業)」参照)

■インフォメーション

- ・国際美術展の主要 4 会場にインフォメーションを設置し、トリエンナーレに関するチラシやマップを配架したほか、当日のイベント情報を掲出するなど情報発信を行った。また、来場者からの様々な問い合わせにスタッフが対応した。

■チケット販売

- ・国際美術展の主要 4 会場にチケット販売所を設け、国際美術展当日券の販売や前売券の引き換えを実施した。

■バリアフリー対応

- ・点字によるトリエンナーレの広報紙を作成し関係団体に配布するとともに、ホームページ上に会場ごとのバリアフリーの状況を掲載した。
- ・まちなかの会場である長者町会場では、車いす等を利用する来場者に対応するための介助スタッフ(2 名)を配置し、必要に応じスロープの設置や介助等を実施した。
- ・愛知芸術文化センター会場では、聴覚障がい者に対して文字情報(筆記等)によるガイドツアーを、視覚障がい者に対しては、実際に作品に触れることができる美術鑑賞会を実施した。

■その他

- ・10 月以降の入場者の増加に対応するため、授乳室の拡充を図った。
- ・会期終盤の混雑時には、国際美術展会場の入場列の整理を行うなどの対応を行った。特に長者町会場においては、会場施設の構造や収容力を考慮し、入場規制を行って来場者の安全確保を図った。



【混雑時の長者町会場】

②会場サイン

- ・まちなかに分散している会場へスムーズに来場者を誘導するため、会場誘導看板を設置した。
- ・また、あいちトリエンナーレ 2010 を PR し、「都市の祝祭」感を盛り上げるため、目抜き通りにバナー掲出を行ったほか、一般の店舗等に壁掛けバナー掲出による PR を依頼した。

■会場誘導看板

- ・納屋橋会場への誘導のため、広小路通沿いのビル壁面に、所有者の協力を得て看板を設置した。
- ・長者町地区では、錦二丁目の4か所の歩道沿いに、展示ビルの位置を示す地図を掲出した。
- ・会場周辺の地下鉄構内(丸の内、伏見、大須観音、上前津)には、それぞれの会場への行き方を示す看板を複数設置した。

■街路灯バナー

- ・名古屋のメインストリートの広小路通では、久屋西交差点から納屋橋交差点まで約1.4kmの区間にある商店街街路灯134基に、8月17日から10月31日まで、バナーを掲出した。
- ・また、納屋橋会場付近の木挽町通の商店街街路灯8基にも、同じ期間バナーを設置した。
- ・シンボルマークを図案化した白地にマゼンタのデザインのバナーは通行人の目を引いた。



【街路灯バナー】

■壁掛けバナー

- ・会場周辺のまちなかで「都市の祝祭」を演出するため、壁掛け式のバナー(A2サイズ)500枚を作成し、会場周辺の店舗等に掲出を依頼した。
- ・店舗のガラス窓の内側から外に見えるように掲出していただくもので、広小路通、長者町地区などの多くの店舗の協力を得て、来場者を快く迎える雰囲気を醸し出すことができた。

IV-(10) 広報の状況

- ・国内外での記者会見の実施や資料配布などによる最新情報の発信により、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB等のメディアに数多く取り上げられた。
- ・ポスター、チラシ等の広報用印刷物を制作し、全国の美術館や教育機関、芸術関係機関等へ配布して掲出を依頼するとともに、公共交通機関やコンビニエンスストアでの掲出を行った。また、各種メディアへの広告出稿も行った。
- ・ホームページの活用やツイッターによる情報発信など、インターネットを通じた広報も積極的に行った。

■パブリシティの実績・効果

- ・マスメディアを通じて発信された情報は、新聞 873 件、テレビ 176 件、ラジオ 12 件、雑誌等 222 件であった。
- ・構想段階から芸術監督の決定、アーティスト決定、作品制作の様子、開幕、会期中、閉幕、閉幕後のふりかえりと、長期間にわたって新聞、テレビ等のマスメディアを通じて広く情報が発信された。
- ・これらのパブリシティ効果(広告費換算)は 47 億円以上※と見込まれる。

※株式会社日建設計総合研究所名古屋オフィスによる算出。

○情報発信件数

(単位：件)

種 別	総 数	内 訳		
		全 国	地 方	海 外
新 聞	873	22	848	3
テレビ	176	5	171	0
ラジオ	12	1	11	0
雑誌等	222	62	130	30
計	1,283	90	1,160	33

※新聞、雑誌等については、平成 20 年 9 月から平成 22 年 12 月の件数

※テレビ、ラジオについては、平成 22 年 8 月から 11 月の件数

■記者発表

- ・国内では愛知 7 回、東京 2 回、大阪 1 回、海外では北京、台北、ソウルにおいてそれぞれ 1 回の記者発表会を開催した。記者発表会に参加した報道関係者の総数は延べ 600 人以上であった。
- ・記者発表会では、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明のほか、参加アーティストの出演やビデオメッセージの放映などを行った。
- ・記者クラブ等への資料配布及びホームページでのプレス発表を 101 回※行い、最新情報を報道関係者に発信した。(※平成 20 年 6 月～平成 23 年 2 月の発表回数)

■報道関係者用プレス証発行件数

- ・内覧会開催日(8/20)から閉幕日(10/31)の間で、事務局がプレス証を発行した報道関係者は国内外合わせて 505 名であった。
- ・プレス証の発行数が最も多かったのは内覧会開催日の 276 名で、全発行数の 54.7%を占めた。会期中では、池田亮司の《spectra[nagoya]》を実施した 9 月 24 日が最も多く、40 名にプレス証を発行した。(※同一の報道関係者に対して複数回プレス証を発行した場合は、初回の発行のみをカウント)
- ・メディア別の割合は、テレビ、新聞がそれぞれ約 30%であり、雑誌(11.3%)や WEB(6.9%)と続く。

テレビ、新聞は県内の割合が高く、雑誌やWEBは県外や海外の割合が高い。

- ・地域別にみると県内が67.4%と多数を占めるが、県外(27.5%)や海外(5.1%)からも多くの報道関係者が訪れた。
- ・報道関係者が最も多く訪れる内覧会開催日にプレスツアー※を実施し、キュレーターが各会場で作品を解説した。(※愛知芸術文化センター1回、名古屋市美術館1回、長者町会場2回、計77名参加)

○メディア別・地域別プレス証発行件数

種 別	県内(件)	県外(件)	海外(件)	計(件)・割合
テレビ	141	16	0	157 (31.1%)
新 聞	120	22	1	143 (28.3%)
雑 誌	12	33	12	57 (11.3%)
WEB	10	23	2	35 (6.9%)
ラジオ	6	1	0	7 (1.4%)
その他	51	44	11	106 (21.0%)
計	340	139	26	505 (100.0%)

■広報用印刷物

- ・チラシやポスター等の広報用印刷物の種別と制作枚数は以下のとおり。ポスターやチラシは主に全国の美術館や学校、公共機関等に発送し、掲出等を依頼した。

○広報用印刷物の種別・制作数

種 別	制作数
チラシ	合計 6,451,850 枚 (97 種)
プログラム	合計 435,810 部 (32 種)
ポスター	合計 20,337 枚 (15 種)
パンフレット	合計 244,700 部 (10 種)

■広告

○各種メディア広告

- ・マスメディアによる広告を新聞154件、雑誌等55件、テレビ4件、ラジオ16件実施した。

○交通広告

- ・名古屋市営地下鉄駅構内・車内、JR 東海駅構内、名古屋鉄道駅構内、近畿日本鉄道駅構内、東部丘陵線(リニモ)駅構内、名古屋市営バス停、県営名古屋空港、高速道路サービスエリア等にポスター等を掲出した。
- ・鉄道駅におけるポスター掲示は、県内のほとんどの駅で行い、特に、乗降客の多い名古屋駅や栄駅には集中的にポスターを掲出した。

○交通広告の掲示・設置数等

掲示場所	枚 数	掲示駅数等
鉄道駅ポスター	1,180 枚	209 駅
鉄道駅チラシ	23,000 枚	84 駅
車内ポスター	7,278 枚	名古屋市営地下鉄全線車内
その他	58 か所	電照ポスター・LED 看板、大型広告パネル等

○コンビニエンスストアとの連携

- ・県内のコンビニエンスストアの各店舗にポスターやチラシを設置した。ポスターは延べ3,282店舗に1枚ずつ掲示し、チラシは延べ5,026店舗に計111,660部を設置した。

■インターネットを用いた広報展開

○公式ホームページ(URL : <http://aichitriennale.jp/>)

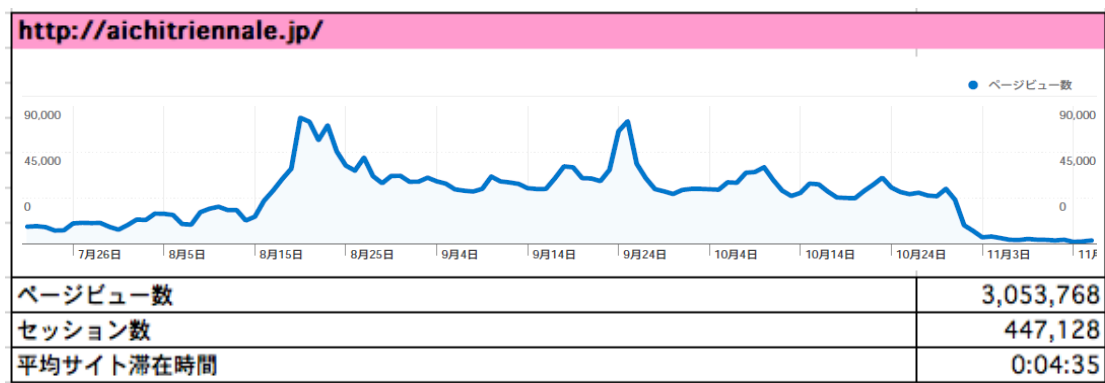
- ・情報へのアクセスを容易とし、使い勝手の良いホームページとするため、トップページからできるだけ各種情報を閲覧できることを目指した。
- ・また、トップページのメインバナーを活用して、会期中に行われる各種イベントの情報をタイムリーに発信した。
- ・スケジュールのページでは、特定の日に開催しているイベントや展覧会、公演などが一目で分かるようなシステムを導入した。

- ・会期中には 105 の国と地域からアクセスがあり、その総数は 3,053,768 ページビュー※ (447,128 セッション※)であった。

※ページビュー数：ページへのアクセス数(クリック単位)、セッション数：サイトへ訪れたユーザー数(人単位)

- ・最もアクセス数が多かった日は、《spectra[nagoya]》を開催した 9 月 25 日(土)で 80,642 ページビュー (13,663 セッション)。次に多かったのは、開幕日の 8 月 21 日(土)で 80,296 ページビュー (9,865 セッション)であった。その他の会期中のアクセス数は、4 万ページビュー (5 千セッション)前後であった。

○公式ホームページのアクセス状況



※Google Analytics によるデータ

○アクセスが多かったコンテンツ

ページタイトル		ページビュー数	割合
1	トップページ	561,375	18.4%
2	アーティスト(現代美術)	261,823	8.6%
3	スケジュール	254,273	8.3%
4	会場・アクセス	172,444	5.6%
5	開催概要・企画概要	149,955	4.9%
6	チケット情報	140,291	4.6%
7	ブログ	117,790	3.9%
8	ニュース	68,485	2.2%
9	アーティスト(現代美術_まちなかアーティスト)	63,473	2.1%
10	会場・アクセス(愛知芸術文化センター)	62,837	2.1%
その他		1,201,022	39.3%
合計		3,053,768	100.0%

※Google Analytics によるデータ

○国・地域別セッション数

国/地域	セッション数	比率
1 日本	437,403	97.8%
2 アメリカ	2,034	0.5%
3 ドイツ	750	0.2%
4 中国	655	0.2%
5 韓国	591	0.1%
6 イギリス	556	0.1%
7 台湾	552	0.1%
8 フランス	522	0.1%
9 香港	439	0.1%
10 イタリア	375	0.1%
その他	3,251	0.7%
合計	447,128	100.0%

※Google Analytics によるデータ

○都道府県別セッション数

都道府県名	セッション数	比率
1 愛知県	235,577	52.7%
2 東京都	85,748	19.2%
3 大阪府	27,506	6.1%
4 岐阜県	14,151	3.2%
5 三重県	10,129	2.3%
6 神奈川県	9,057	2.0%
7 京都府	8,826	2.0%
8 静岡県	7,134	1.6%
9 兵庫県	5,069	1.1%
10 埼玉県	3,674	0.8%
その他	40,257	9.0%
合計	447,128	100.0%

※Google Analytics によるデータ

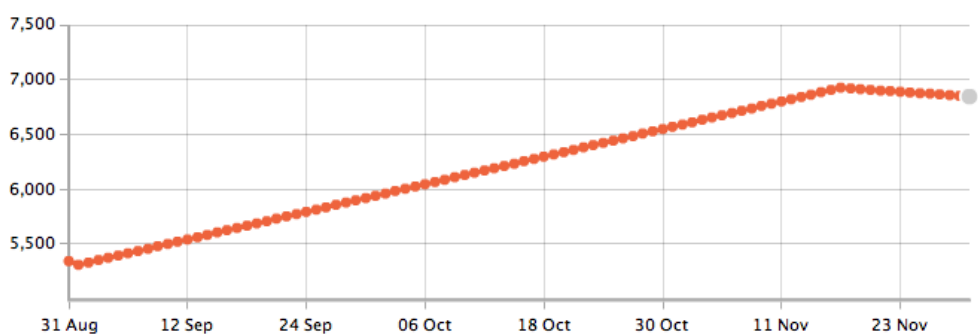
○ツイッター(アカウント名 : Aichi_Triennale)

- ・準備の様子や開幕後のニュース、お知らせや緊急情報、混雑状況などをリアルタイムで配信した。あいちトリエンナーレ公式ホームページのトップページでもつぶやきを確認できるようにし、ニュースのページなどと連動を図りながら緊急的な情報も配信した。
- ・RT(リツイート)機能により、来場者の感想や意見、質問等へダイレクトに反応することができた。そのやりとり自体が広報としての機能を持ち、メディアとして効果的であった。

フォロー数	フォロワー数	つぶやき総数
7,973 件	6,890 人	1,052 件

※2010/11/24 現在

○フォロワー数の推移



✓ Aichi_Triennale

TWITTERcounter POWERED BY **twitter**

<http://twittercounter.com>

IV-(11) グッズの作製・販売

■公式ライセンスグッズ

- ・あいちトリエンナーレ 2010 のロゴマークをモチーフにした「ロゴグッズ」や、出展アーティストとのコラボレーションによる「アーティストグッズ」を「公式ライセンスグッズ」として、トリエンナーレを盛り上げるためにホームページ上で募集した。
- ・26 のメーカーから応募があり、審査の結果、「ロゴグッズ」48 品目と「アーティストグッズ」17 品目の合計 65 品目を作製し、公式ショップなどで販売した。

「公式ライセンスグッズ」一覧

○ロゴグッズ

No.	グッズ名	No.	グッズ名	No.	グッズ名	No.	グッズ名
1	ロゴキャンディー	11	ストラップ	21	真珠ネックレス 2 種	31	エコブロックソーラーチャージャー
2	トリエンナーレロールケーキ	12	スーパーミニアルバム	22	ネクタイ	32	ペンケース※
3	缶入り紅茶	13	メタルチャーム	23	T シャツ 5 種	33	化粧ポーチ※
4	チケットホルダー 2 種	14	キーリング	24	リブマフラー	34	タオル 3 種※
5	ボールペン	15	缶バッジ	25	帽子 5 種	※授産施設の商品	
6	シャープペン	16	ピンバッジ	26	トートバッグ		
7	ノート	17	ピンブローチ	27	アロマオイル		
8	クリップ	18	ラペルピン	28	アロマバンド		
9	クリアファイル	19	カフス 2 種	29	小原和紙うちわ		
10	ウッドスタンド 2 種	20	ネクタイピン	30	ガラス書刻		

○アーティストグッズ

No.	グッズ名	No.	グッズ名	No.	グッズ名	No.	グッズ名
1	草間彌生バッグ 真夜中に咲く花	3	ニブロール ドレスTシャツ	5	ラブちくんバッグ	7	缶入りパン パンカン！※
2	ニブロール トートバッグ	4	タニヤ・シュルツ キーホルダー	6	Tシャツ 11 種 (出展作家デザイン)	※授産施設の商品	



【愛知芸術文化センター公式ショップ】



【名古屋三越栄店公式ショップ】

■グッズ販売実績

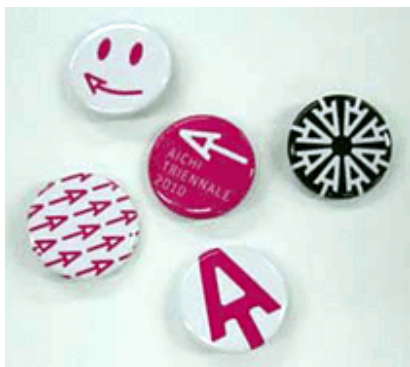
- ・「公式ライセンスグッズ」や現代アート関連の書籍などを、会場内の公式ショップや県内百貨店等で販売した。また、一部商品については、公式ホームページ上でインターネット販売を行い、総売上げは 40,965 千円であった。

○「公式ライセンスグッズ等(※)」の売上金額等の状況

区 分	売上金額(千円)	うち、「ロゴグッズ」 売上金額 (千円)	(参考) 購入者数 (人)
愛知芸術文化センター公式ショップ	33,956	12,540	23,491
名古屋市美術館公式ショップ	3,137	1,708	2,789
スペクトラ・ナゴヤ会場公式ショップ	254	216	—
名古屋三越栄店公式ショップ	1,920	1,762	—
公式ショップ 小 計	39,267	16,226	26,280
小売店への卸販売	1,541	1,519	—
インターネット販売	157	157	—
合 計	40,965	17,902	26,280

※公式ガイドブック等の売上金額を含む。

- ・売上点数が最も多かったのは「缶バッジ」で、5,354 点(1,069 千円)、売上金額が最も多かったのは「草間彌生バッグ - 真夜中に咲く花 -」で、1,446 点(4,262 千円)であった。



【缶バッジ】



【草間彌生バッグ 真夜中に咲く花】

■授産施設との連携

- ・社団法人愛知県セルプセンターを通して県内の授産施設に「公式ライセンスグッズ」の作製を募集。「ロゴグッズ」5品目と「アーティストグッズ」1品目の合計6品目を作製し、会場内の公式ショップで販売した。
- ・売上は1,754千円であった。



【授産施設の商品】

■グッズのPR

- ・名古屋三越栄店公式ショップのオープニングイベントにSKE48のメンバーを招くなど、マスコミに取り上げられる機会を作ることによってグッズを広くPRした。
- ・また、各種雑誌へのグッズ情報の掲載依頼を行ったほか、9月24日、25日の「spectra[nagoya]」の展示に併せて行った作品目撃写真の募集では、遠方から目撃できた上位入賞者へのプレゼントとしてグッズを活用しPRを図った。

IV-(12) 出版物(ガイドブック・カタログ等)

■ガイドブック

あいちトリエンナーレ 2010 公式ガイドブック「アートの街」の歩き方
(美術手帖 2010 年 8 月号増刊)

発行日：2010 年 8 月 5 日

判型等：A5 判、160 ページ(別冊マップ付き)

言語：バイリンガル(日・英)

発行部数：20,000 部 定価：1,260 円(税込)

制作・発行：株式会社美術出版社

内容

- ・会場アクセス、エリア別マップ、アーティスト紹介
- ・モデルコース、キッズトリエンナーレ、公式グッズ
- ・会場周辺ギャラリー紹介、宿泊施設・飲食店情報
- ・愛知&名古屋を知るためのコラム
- ・別冊付録(展示マップ&イベントカレンダー)



■カタログ

あいちトリエンナーレ 2010 カタログ

発行日：2011 年 1 月 25 日

判型等：A4 変型、332 ページ

言語：バイリンガル(日・英)

発行部数：5,000 部 定価：2,500 円(税込)

制作：株式会社アイメックス・ファインアート

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会

内容

- ・国際美術展出品作品
- ・パフォーミング・アーツ公演
- ・映像プログラム出品作品
- ・企画コンペ参加企画



■ドキュメント

あいちトリエンナーレ 2010 記録写真集

発行日：2011 年 3 月 18 日

判型等：A5 変型、248 ページ

発行部数：1,500 部 非売品

制作・発行：あいちトリエンナーレ実行委員会

内容

- ・参加アーティストや来場者、まちなかの会場風景などを中心に、ワークショップ、ライブパフォーマンス、シンポジウム、キッズトリエンナーレ、プリウス、ベロタクシー、道案内人、PR 隊など、イベントとしてのトリエンナーレをビジュアルで紹介

IV-(13) 実行委員会の収支状況

■平成 20 年度（決算）

○収入の部		(単位：千円)
事業収入	普及・教育イベント収入	5 1 2
公的負担金収入	愛知県負担金	5 3, 3 4 7
雑収入	受取利息収入等	2 7
合 計		5 3, 8 8 6

○支出の部		
計画策定費	イベント検討等調査費	5, 1 7 4
	普及・教育イベント開催費	8, 3 9 4
	普及・教育資料作成費	1, 6 3 9
	その他計画策定事務費	6, 5 2 7
事業企画活動費	芸術監督・キュレーター等活動費	7, 8 0 0
	作家招聘費	2 1 4
	書籍等購入・海外調査等	6, 8 2 6
広報関係費	プレイベント開催費	7, 0 8 4
	シンポジウム開催費	1, 3 3 2
	広報戦略策定等業務委託費	5, 0 0 4
	その他広報物等作成費	1, 2 1 1
事業費 計		5 1, 2 0 5
管理費	運営会議開催費	1, 2 2 6
	その他管理費	1, 4 5 5
管理費 計		2, 6 8 1
合 計		5 3, 8 8 6

■平成 21 年度（決算）

○収入の部		(単位：千円)
事業収入	プレイベント事業収入	7, 5 5 2
公的負担金収入	愛知県負担金	1 5 5, 9 7 4
	名古屋市負担金	5 1, 9 9 1
寄付金収入	企業協賛等	2, 4 0 0
雑収入	受取利息収入等	1 8
合 計		2 1 7, 9 3 5

○支出の部		
開催準備費（現代美術）	芸術監督・キュレーター等活動費	3 7, 3 4 2
	美術展制作等準備費	3 3, 8 0 2
	現代美術作品展示等事業費	1 1, 8 3 0
	パフォーミング・アーツ公演準備費	1, 7 5 1
（舞台芸術）	プロデュースオペラ舞台制作等準備費	2 3, 8 7 1
	エドゥケーター等活動費	2, 5 3 6
（普及・教育）	普及教育ワークショップ等開催費	1, 9 5 3
	普及教育資料等作成費	7, 8 5 7
（祝祭的展開）	連携事業準備費	1, 7 2 3
（ボランティア）	ボランティア関連経費	3, 0 0 2
広報・PR費	あいちトリエンナーレプレイベント展実行委員会分担金	4 5, 6 8 1
	広報業務委託費	2 5, 5 4 0
	広報番組制作及び放送業務	2, 3 2 8

	広告出稿料	3, 7 1 9
	その他広報物等作成費	1 1, 7 6 6
事業費 計		2 1 4, 7 0 1
管理費	運営会議開催費	1, 3 9 1
	その他管理費	1, 8 4 3
管理費 計		3, 2 3 4
合 計		2 1 7, 9 3 5

■平成 22 年度（見込）

○収入の部 (単位：千円)

事業収入	国際美術展入場券収入	2 1 2, 0 0 0
	カタログ等販売収入	4, 0 0 0
	舞台芸術入場券収入	5 6, 0 4 4
公的負担金収入	愛知県負担金	5 2 3, 8 9 3
	名古屋市負担金	1 7 6, 5 0 0
広告・協賛金等収入	企業協賛、国及び各種文化財団等の助成金等	4 2, 2 6 3
雑収入	受取利息収入	6 0
合 計		1, 0 1 4, 7 6 0

○支出の部

現代美術	芸術監督・キュレーター等活動費	4 0, 0 0 0
	展示制作経費	2 5 5, 4 0 0
	展覧会会場関係費	1 4 9, 0 0 0
	会場運営関係費	7 8, 5 0 0
	美術展その他開催費	5 5, 0 1 5
舞台芸術	パフォーミング・アーツ(劇場公演)開催費	1 0 3, 5 4 2
	パフォーミング・アーツ(ギャラリーG等公演)開催費	3 2, 0 0 0
	プロデュースオペラ公演開催費	1 1 6, 0 0 0
普及・教育	エデュケーター等活動費	5, 2 0 0
	キッズ・トリエンナーレ開催費	1 2, 5 8 8
	普及教育資料等作成費	1 0, 7 6 6
	その他普及活動費	6 0 0
祝祭的展開	まちなかパフォーマンス開催費	1 2, 0 4 6
	共催事業費	1 0, 5 0 0
	連携事業費	4, 5 0 0
	その他祝祭的展開事業費	6, 0 5 0
ボランティア	ボランティア関連経費	2 4, 2 7 8
広報・PR	広報業務委託費	3 4, 0 0 0
	広報番組制作及び放送業務	7, 9 5 0
	広告出稿料	2 8, 1 0 0
	その他広報物等作成費	1 9, 9 5 0
事業費 計		1, 0 0 5, 9 8 5
管理費	運営会議開催費	9 4 1
	その他管理費	7, 8 3 4
管理費 計		8, 7 7 5
合 計		1, 0 1 4, 7 6 0

※平成 22 年度の収支状況については平成 23 年 1 月末現在の見込であり、最終的な決算額は平成 23 年 6 月頃に確定する予定。

IV-(14) 企業等からの協賛・協力の状況

■協賛等の依頼

- 平成 21 年 12 月から平成 22 年 8 月にかけて、主に県内の企業・団体又は個人に対し、以下のメリットメニューを提示しつつ、「協賛」（寄付又はチケット購入）、「協力」（製品やサービスの無償又は減額提供）、「会場提供」（まちなかの展示場所等の無償又は減額提供）、及び「有償広告掲載」（公式ガイドブック「ポケット・マップ」への広告掲載）の依頼を行った。

【メリットメニュー】

- 寄付等の金額に応じて※、次の広報資材等に企業等の名称又はロゴマークを掲載した。

会場入口パネル、チラシ・パンフレット、チケット、ポスター、プレスリリース資料、公式ガイドブック（「美術手帖 2010 年 8 月増刊号」及び「ポケット・マップ」）、公式カタログ、公式ホームページ

 ※寄付は 5 万円以上、チケット購入は当該金額の 3/4 が 5 万円以上、製品・サービスや会場の提供は当該金額の 1/2 が 5 万円以上の場合にメリットメニューを適用した。
 ※有償広告掲載の場合、メリットメニューは適用しなかったが、企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上の経費として全額課税対象外となるメリットを説明した。また、「ポケット・マップ」の主要会場図上に店舗の場所を明示したり、愛知芸術文化センター会場の公式ショップで商品を取り扱ったりした。
- あいちトリエンナーレ 2010 について特定公益増進法人である（社）企業メセナ協議会の助成対象活動の認定を受け、企業等が同協議会を通じて実行委員会に寄付する場合、通常認められている一般寄付金の損金算入限度額の 2 倍から 3 倍程度の額の範囲内で損金算入ができるようにした。

- 経済界に対しては、平成 21 年 10 月に名古屋商工会議所、また、同年 12 月に（社）中部経済連合会に対し、建畠芸術監督がトリエンナーレの開催概要を説明した。
- 平成 22 年 3 月には、両団体から各会員あてに「「あいちトリエンナーレ 2010 国際美術展」のチケット購入に対するご協力のお願い」と題する依頼文を发出していただいた。

■協賛等の件数

- 下表のとおり、企業・団体・個人から「協賛」、「協力」、「会場提供」、「有償広告掲載」の支援を合計 408 件いただくことができた。

項 目		件数(件)
協 賛	寄 付	60
	チケット購入	286
協 力 （製品やサービスの無償又は減額提供）		13
会場提供 （まちなかの展示場所等の無償又は減額提供）		21
有償広告掲載 （「ポケット・マップ」への有償広告掲載）		28
合計件数		408

■企業等とのその他の連携・協力

- 上記のほか、百貨店でのトリエンナーレ出品作品の展示や公式ショップの開設、ホテル・レストランでのバナー・ポスター掲出やトリエンナーレチケット持参の場合のサービス割引提供、商店街等でのトリエンナーレを応援する美術展やイベントの開催、地元の全国的な祭りでのトリエンナーレ賞の新設など、様々な主体と連携・協力してトリエンナーレの盛上げや集客増を図った。

IV-(15) 県・名古屋市によるトリエンナーレ補完事業(緊急雇用創出事業基金事業)

- ・県又は名古屋市において、緊急雇用創出事業基金を活用した 12 の事業(県 11、市 1)が実施され、会場運営や PR 活動、来場者の会場間移動等で、あいちトリエンナーレの開催を補完した。
- ・これにより合計 396 人(県 338 人、名古屋市 58 人)の雇用が新たに創出された。

○平成 22 年度				
No.	事業名(実施主体)	事業(業務)の概要	雇用人数 (人)	契約金額 (円)
1	あいちトリエンナーレ 2010 ペロタクシー運行事業 【県】	トリエンナーレに相応しい会場間の移動手段の確保を支援するとともに、祝祭感を醸し出すため、ペロタクシーの運行を行った。	51	89,082,840
2	あいちトリエンナーレ 2010 アートカー運行支援事業 【県】	会場周辺において祝祭的で賑やかな雰囲気を醸成するため、「草間の水玉プリウス」を来場者の会場間の移動用に運行させた。	21	21,138,667
3	あいちトリエンナーレ 2010 まちなか会場管理支援事業 【県】	長者町地区等のまちなかで作品展示を行う空きビル等の会場警備、施設管理、清掃業務など、会場を運営する上で必要となる業務の支援を行った。	129	65,569,350
4	あいちトリエンナーレ 2010 キッズトリエンナーレ運営支援事業 【県】	トリエンナーレにおける子どもへの取り組みを支援するため、デンススタジオの運営を補助するとともに、子ども向けトリエンナーレホームページを開発・運営した。	10	6,153,000
5	あいちトリエンナーレ 2010 広報・PR 拡充事業 【県】	トリエンナーレの広報・PR を拡充するため、キャラバン隊、パフォーマンスなどによる PR 活動を実施した。	33	94,200,750
6	あいちトリエンナーレ 2010 サポーターズクラブ設置・運営事業 【県】	トリエンナーレへの県民の主体的な参画の機会を拡充するため、サポーターズクラブの設置・運営、フリーペーパーの発行、たまり場づくりなど、様々な県民参加事業を実施した。	22	49,206,146
7	あいちトリエンナーレ 2013 企画概要検討用基礎資料作成業務 【県】	トリエンナーレ 2013 の企画概要を検討する際の参考とするため、来場者へのアンケート調査や有識者へのヒアリング調査を実施した。	12	17,951,640
8	あいちトリエンナーレ 2010 映像記録業務 【県】	トリエンナーレ 2013 の検討素材・PR 素材として活用するため、展示作品や舞台公演、その他の行事、会場の様子や会場運営等を動画及び静止画で撮影するとともに、映像記録として編集した。	13	17,336,287
9	あいちトリエンナーレ 2010 電話対応業務 【県】	トリエンナーレの会期直前及び会期中に県に寄せられる問い合わせに対応するため、民間の顧客対応のノウハウを活用して一元的な電話対応を行った。	3	1,771,245
10	あいちトリエンナーレ 2010 まちなか展開拡充事業 【名古屋市】	トリエンナーレの PR を行うため、市内中心部 6 か所に PR ブースを設置した。また、祝祭ウィーク期間中には市内中心部 2 か所で市民参加型の文化芸術イベントを実施した。	58	72,823,800
平成 22 年度計(10 事業)			352	435,233,725
○平成 21 年度				
11	あいちトリエンナーレ 2010 広報・PR 拡充事業 【県】	トリエンナーレの広報・PR を拡充するため、キャラバン隊、パフォーマンスなどによる PR 活動を実施した。	32	61,019,700
12	あいちトリエンナーレ 2010 まちなか展開事業 【県】	開催に向けた気運の醸成を図るため、市内中心部 4 か所に PR ブースを設置した。また、開催エリアの飲食店、ギャラリー等の調査を行い、その情報を集約した「まち歩きマップ」を作成した。	12	26,972,400
平成 21 年度計(2 事業)			44	87,992,100
合 計(12 事業)			396	523,225,825

※各事業の実施内容等については次ページ以降 (No.6「サポーターズクラブ設置・運営事業」については 59 ページ) に掲載。

IV-(15) (参考) 県・名古屋市によるトリエンナーレ補完事業の内容

■あいちトリエンナーレ 2010 ペロタクシー運行事業(愛知県・平成 22 年度)

「都市の祝祭」というテーマにふさわしい賑やかな雰囲気と、まち全体がトリエンナーレ会場であるというイメージを作り出すために、会期中 18 台のペロタクシーを主要 4 会場間で運行した。

また、各車両にアート性に溢れたインパクトのあるラッピングを施すことで、動く広告としても PR 効果があった。

会期中の利用者は 19,791 人で、年代別では、20 代、30 代が過半数を占め、男女別では 7 割が女性であった。

マゼンタ色のユニフォームやオリジナルのラッピング車両は、女性や子どもたちから注目を集め、メディアにも多数取り上げられた。

○運行期間 平成 22 年 8 月 21 日～10 月 31 日



■あいちトリエンナーレ 2010 アートカー運行支援事業(愛知県・平成 22 年度)

トヨタ自動車株式会社から貸与されたプリウス(5 台)に出品作家である草間彌生氏がデザインした「草間の水玉プリウス」を、来場者の会場間の移動用として愛知芸術文化センターと長者町会場を結ぶルートで運行し、8,429 人に利用された。

まちなかを運行することで常に注目を集め、その運行自体が会場周辺において祝祭的な雰囲気を醸成した。

○運行期間 平成 22 年 8 月 21 日～10 月 31 日



■あいちトリエンナーレ 2010 まちなか会場管理支援事業(愛知県・平成 22 年度)

トリエンナーレ会期中、まちなか会場周辺の街角(32 か所)に、マゼンタ色のポロシャツ・キャップ姿のスタッフを配置し、来場者への道案内を毎日行った。また、安心・安全な会場運営を保持するため、長者町、納屋橋、オアシス 21 会場に警備員を常駐させ、展示室及び周辺道路の清掃、会場警備、施設管理を行った。

このほか、七ツ寺共同スタジオでの事業開催時やまちなかパフォーマンス開催時においても、会場周辺における道案内を行った。

また、名古屋城で開催された spectra[nagoya](9/24・9/25)では、会場周辺の案内や誘導を行うほか、翌朝には名古屋城内の清掃も行った。

○実施期間 平成 22 年 8 月 20 日～10 月 31 日

○実施期間中の案内件数 103,306 件(道案内 86,022 件、トリエンナーレ全体の案内 17,284 件)



■あいちトリエンナーレ 2010 キッズトリエンナーレ運営支援事業(愛知県・平成 22 年度)

愛知芸術文化センター8階に設けられたデンスタジオ内で、子どもたちが安全に創作活動を行えるように、受付、監視及び退出管理等を行った。

○実施期間 平成 22 年 8 月 21 日～10 月 31 日

○会場利用者数 20,473 人

日々変化するデンスタジオの様子など、キッズトリエンナーレに関する情報を紹介するホームページを開設・運営した。

○ホームページ開設時期 平成 22 年 8 月 2 日～10 月 31 日

○利用アクセス数(ページビュー数) 36,845 件



■あいちトリエンナーレ 2010 広報・PR拡充事業(愛知県・平成 21、22 年度)

トリエンナーレの広報を拡充するため、「あいちトリエンナーレ 2010 PR 隊」を編成し、演出家の指導を受けた約 20 名のパフォーマーが 3 種類のパフォーマンスを行いながら広報活動を展開した。

事業実施期間中に行った PR 活動の実施回数は合計約 1,700 回、PR チラシやグッズ(シール・うちわ等)の配布数は 84 万を超える。愛知県外でも東京、大阪を始めとして 61 回の PR 活動を行うとともに、上海万博でも愛知県ウィークなどでトリエンナーレを PR した。

奇抜な衣装とコミカルなパフォーマンスは、特に若者やファミリー層の関心を引き、トリエンナーレの PR に繋がった。

○実施期間 平成 21 年度:平成 21 年 11 月～平成 22 年 3 月
平成 22 年度:平成 22 年 5 月～平成 22 年 10 月



■あいちトリエンナーレ 2013 企画概要検討用基礎資料作成業務(愛知県・平成 22 年度)

あいちトリエンナーレ 2010 の開催結果を踏まえ、2013 年に開催する予定の第 2 回トリエンナーレの企画概要の検討用基礎資料を作成するため、トリエンナーレの来場者に対する調査、経済波及効果の算出等による分析を行った。

12 名の調査員が会場周辺でアンケート調査用紙を来場者に配布した結果、一般来場者 3,781 人、子ども 1,269 人、キッズトリエンナーレ参加者 604 人などから回答を得ることができた。また、会期終了後は、トリエンナーレに参加したボランティア、県内すべての小・中・高等学校及び特別支援学校等、ギャラリー、芸術系大学等からトリエンナーレに関する意見を収集するとともに、有識者の方からも意見を聴取した。

なお、経済波及効果及びパブリシティ効果についても本業務において算出した。

○実施期間 平成 22 年 8 月 21 日～平成 23 年 1 月 31 日



■あいちトリエンナーレ 2010 映像記録業務(愛知県・平成 22 年度)

あいちトリエンナーレ 2010 の美術作品、公演、普及・教育事業、更には、関連プログラム、会場の様子、運営状況などを会期前後にわたって動画及び静止画で撮影し、記録として残した。

撮影した動画・静止画は、トリエンナーレ 2010 の開催記録資料の作成などに用いるとともに、次回開催時の参考とする。併せて、撮影した動画により 14 分の記録 DVD を作成した。

○撮影期間：平成 22 年 8 月 17 日～平成 22 年 11 月 5 日

○撮影枚数(静止画)：8,957 枚 ○撮影本数(動画)：476 本

■あいちトリエンナーレ 2010 電話対応業務(愛知県・平成 22 年度)

あいちトリエンナーレ 2010 に関して電話(052-971-6111)で寄せられる様々な問い合わせに対して、オペレーター3名を配置して対応した。

約3か月間で4,145件の問い合わせがあったが、内訳としては、国際美術展のチケットに関すること(919件)、キッズトリエンナーレ(477件)、国際美術展の内容(443件)に関するものが特に多かった。

日別では、オープニングイベント前日の8月19日(119件)と、spectra[nagoya]が開催された9月24日(139件)に多数の問い合わせがあった。

業務に従事したオペレーターからは、「職員との情報共有や意思疎通は円滑だった」「会場アクセスに関する質問が多かったため、詳細な道案内があると良かった」等の声が聞かれた。

○実施期間 平成 22 年 8 月 9 日～平成 22 年 10 月 31 日

■あいちトリエンナーレ 2010 まちなか展開拡充事業(名古屋市・平成 22 年度)

トリエンナーレ会場一帯の祝祭感や高揚感をまちなかで醸成し、当地域における文化芸術の振興やまちの魅力づくりを図るため、次の事業を実施した。

○PR ブース

会期中、市内6か所にブースを開設し、トリエンナーレや名古屋開府400年記念イベントの案内、マップ等の配布、エコバッグスタンプラリーを行った。マップ等は合計約10万枚、エコバッグは6,250枚を配布した。各ブースでスタンプを押してオリジナルデザインのバッグを作るアイデアが好評であった。

○特設 WEB サイト

携帯電話でも見られるPRサイトを開設し、リアルな情報を提供した。期間中のアクセス数(ページビュー数)は21万件余りに上った。

○祝祭ウィーク期間中のイベント

10月11日(月・祝)から17日(日)までの祝祭ウィーク期間中、名古屋駅、栄の2会場で「なごや de la フェスティバル」を開催した。公募市民団体20組が参加するステージイベントで、事業PRステージや新能を上演し、延べ7,000名を超す来場者を集めた。

○美術作品の展示

1991年開催の第2回名古屋国際ビエンナーレ・アーテック'91でグランプリを受賞したウェン・イン・ツァイの作品の一部を、9月10日(金)から10月31日(日)まで、長者町地区内で展示した。



■あいちトリエンナーレ 2010 まちなか展開事業(愛知県・平成 21 年度)

会場周辺のまちなかに地元アーティストが手がけた「アートブース」を 4 か所(名古屋テレビ塔下、久屋大通公園愛の広場、錦パークビル公開空地、伏見地下街)に設置した。アート作品であるこのブースを活用して、トリエンナーレの情報発信を行った。

また、このブースを楽しみながら巡る仕組みとしてスタンプラリーを実施し、3,043 名の参加があった。

○実施期間 平成 21 年 11 月～平成 22 年 2 月

トリエンナーレ会場周辺の飲食店・文化施設(美術館、ギャラリー等)・パブリックアート・観光スポット等の調査を行い、トリエンナーレ来場者向けの「まち歩きマップ」を作成し、トリエンナーレ会期中に来場者に約 20 万部配布した。

また、「まち歩きマップ」に掲載された飲食店からは、ポスターの掲出や割引サービス等の協力を得ることができた。



V アンケート結果等

V-(1) アンケート調査の対象

2013 年に開催を予定する第 2 回あいちトリエンナーレをより良いものとするためには、あいちトリエンナーレ 2010 の成果の検証が必要である。

このため緊急雇用創出事業基金事業の中で、会期中に来場者へのアンケートを行い、また会期後に、文化芸術関係機関等へのアンケート、経済波及効果及びパブリシティ効果の算出、有識者へのヒアリングといった調査を行った。そのほか、各種メディアに掲載された評価も別途収集し、抽出した。次ページ以降に、その結果の概要を掲載する。

なお、結果の詳細については、あいちトリエンナーレの公式ホームページに掲載している。

調査対象		該当ページ
来場者アンケート	国際美術展来場者(一般 3,781)	82
	劇場公演、まちなかパフォーマンス鑑賞者(1,199)	88
	国際美術展来場者(子ども 1,269)	91
	キッズトリエンナーレ参加者(604)	92
関係者アンケート	長者町関係者(会場提供者等)(23 / 49)	94
	祝祭ウィーク共催事業参加団体等(10 / 16)	96
	ボランティア(330 / 1,616)	97
	パートナーシップ事業参加団体(124 / 495)	100
文化芸術関係機関等 アンケート	全国の芸術系教育機関(11 / 47)	101
	県内ギャラリー(31 / 92)	103
	中部芸術文化記者クラブ加盟記者(3 / 24)	105
	県内小・中・高等学校、特別支援学校等(1,030 / 1,606)	106
経済波及効果及びパブリシティ効果		109
専門家	国際的な芸術祭の芸術監督等経験者、大学教授等へのヒアリング及びメディア上の記事収集	110

※カッコ内は、「(回収数)」又は「(回収数／調査対象数)」を意味する。

V-(2) 来場者アンケート結果

■一般来場者(国際美術展)

実施時期	8月22日～10月31日
調査対象	国際美術展への来場者(高校生以上)
配布・回収方法	主要4会場(※)において配布し、同4会場とATカフェに設置した回収箱及び郵送により回収。また、同内容をホームページ上に掲載し、ホームページからも回答できるようにした。
回収数	3,781

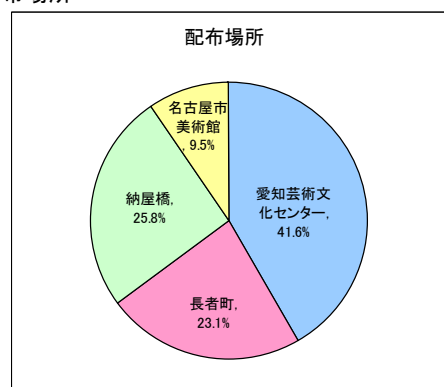
※主要4会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場

○属性

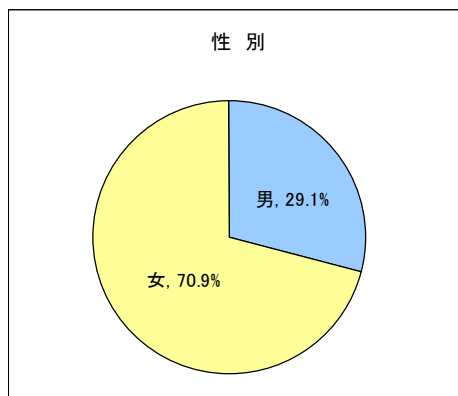
来場者の属性については、42ページにおいても触れているが、性別は、女性が多く、70.9%となった。年代としては、30代以下が60.5%を占め、比較的若い世代の来場が多かったことが分かる。地域別では、名古屋市内、名古屋市を除く県内、県外からの来場者がそれぞれ約3割となっている。県外からの来場者のうち5割は、首都圏及び京阪神からの来場であった。

※グラフ上部のカッコ内は各質問ごとの回答数。以下同じ。

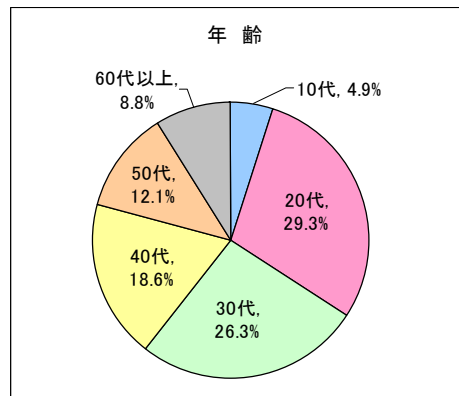
・配布場所



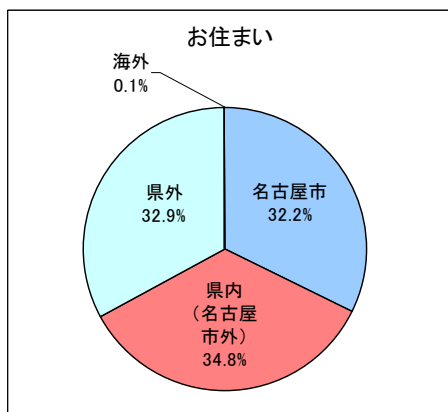
・性別(3,410)



・年齢(3,409)



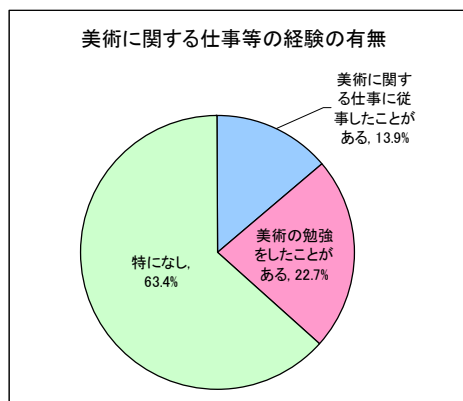
・お住まい(3,308)



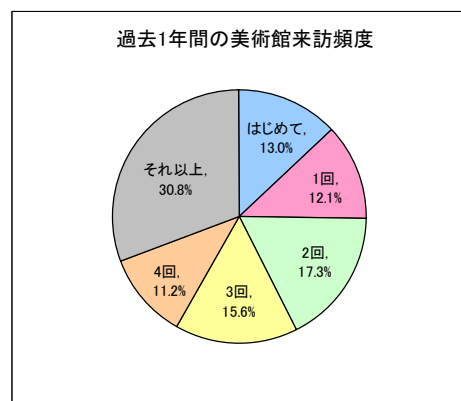
・県外来場者(1,087)

圏域	内訳	割合(%)
首都圏	東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	32.7
京阪神	大阪府 京都府 兵庫県	17.4
東海	岐阜県 三重県 静岡県	33.5
その他		16.4
計		100.0

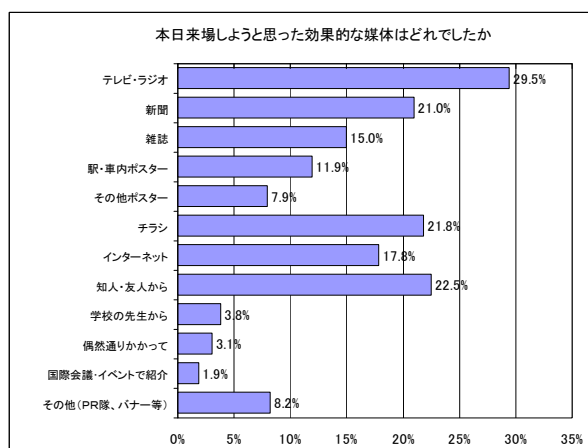
・ 美術に関する仕事等の経験の有無 (3, 368)



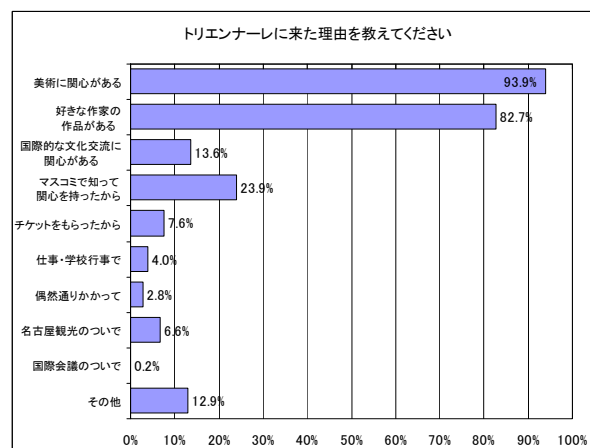
・ 過去 1 年間の美術館来訪頻度 (3, 351)



・ 来場しようと思った効果的な媒体 (5, 889) ※複数回答



・ 来場の理由 (9, 117) ※複数回答



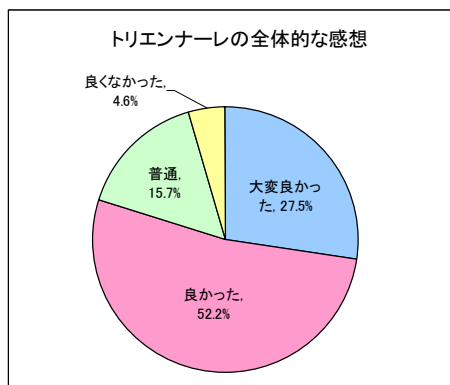
○感想

あいちトリエンナーレ 2010 の全体の感想として、一般来場者のうち **79.7%**が、「大変良かった」又は「良かった」と回答している(以下、「大変良かった」「良かった」の合計をカッコ内に記載)。個別の評価として、美術展の展示作品(**82.4%**)及び美術館や劇場の外で展示や公演があること(**81.2%**)についても、それぞれ高い評価を得た。

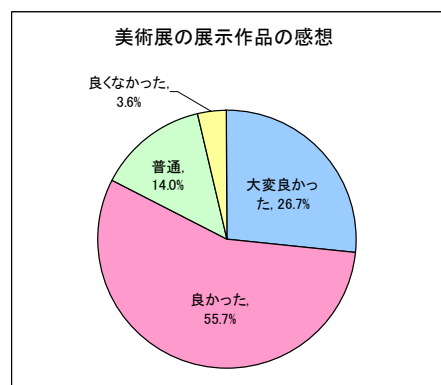
全体的な感想を年代別に見ると、特に **10 代**が「良かった」とする比率(**90.5%**)が高かった。以降、**60 代以上**(**64.3%**)に至るまで、年代が上がるにつれその比率は減っている。

面白かった会場を聞いたところ、展示作品が多く、キッズトリエンナーレや劇場公演も催された愛知芸術文化センター(**58.9%**)が最も多く、長者町会場(**31.4%**)がそれに続いた。

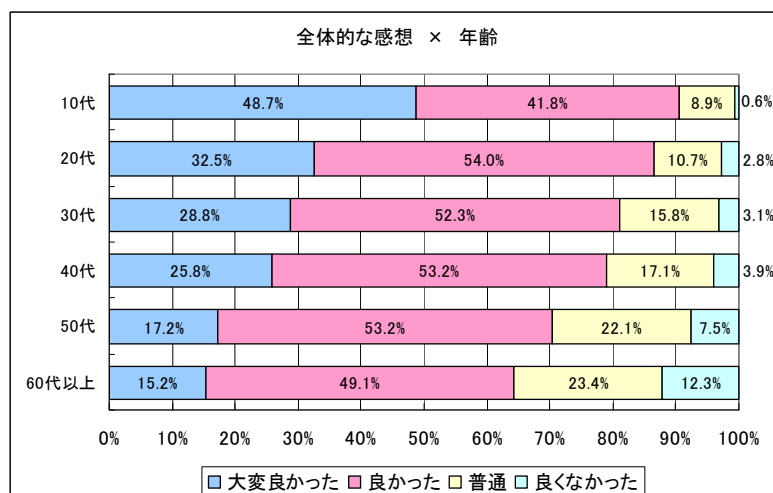
・全体の感想 (3, 581)



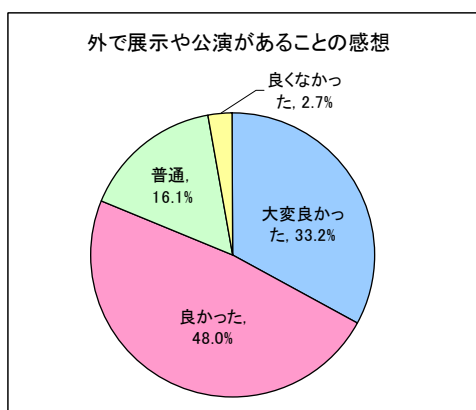
・美術展の展示作品の感想 (3, 680)



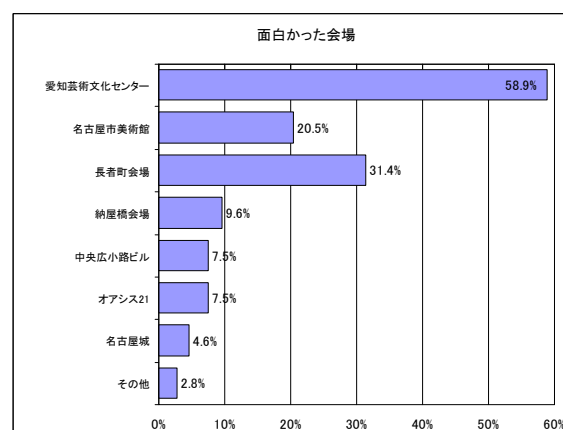
・全体の感想 (年代別)



・美術館や劇場の外で展示や公演があることについて (3, 452)



・面白かった会場 (4, 847) ※複数回答



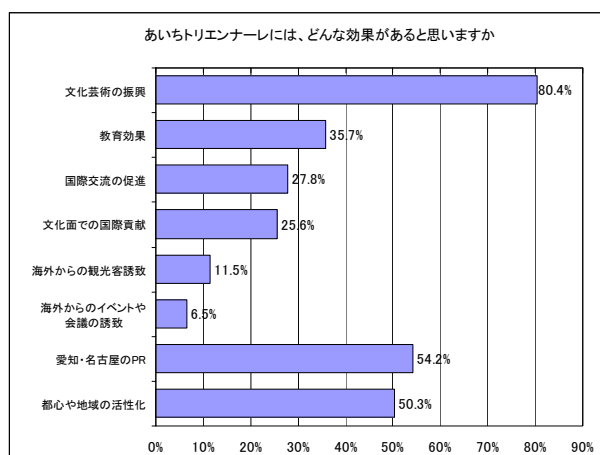
・コメント抜粋

- ・長者町繊維会館等、活気にあふれていたと思われる頃の面影を残す建物や、街の雰囲気につれられたのは良かった。
- ・芸術が特別なものではなく、身近な存在であることが、より多くの人に感じてもらえると思います。
- ・美術に関心がない人でも興味がわくと思います。
- ・あいちトリエンナーレを通して、栄・伏見の魅力を感じるとともにアーティストからエネルギーをもらった。愛知県の人々は皆明るく、ハッピーを分けてもらった気がする。
- ・一緒に来た母親との良い思い出ができた。数年ぶりに二人で美術館に来られて、一緒に感動したり、カフェに入ったり買い物もでき、良い一日でした。
- ・名古屋は観光に乏しいと言われるが、このイベントは自信を持って紹介できる。
- ・今までは作家名で美術展に行っていたが、先入観なしで観た作品の中に、面白い表現が発見できた。「食わず嫌い」はやめようと思った。
- ・愛知に「アート」という雰囲気は合わないと思っていた。しかし、今回行ってみて、意外と合うかもと思った。なぜなら、愛知には空港も有り、外国からのアクセスがいい。色々な新しいものが見られて、かつ「愛知らしさ」の色が合わさるとすごい力が出ると感じた。
- ・伏見の間屋街で働く人々の中にも、アートに対する関心の高い人もいて、協力的であることを知った。「芸どころ」名古屋ならではの、子供のころから、日常的に何らかの芸術に触れることの大切さを感じた。
- ・難しいと思っていた現代アートでしたが、たまたま参加したガイドツアーでよく理解できて、楽しむことが出来て良かったですし、子供も外国の先端のアート作品に接する機会をもらえてとてもいい経験になりました。ぜひ3年後も開催して欲しいです。あいちトリエンナーレありがとう。

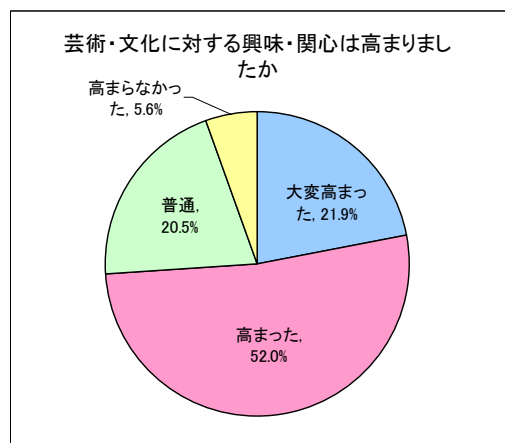
○トリエンナーレの効果等

トリエンナーレにどんな効果があったかを聞いたところ、文化芸術の振興(80.4%)、愛知・名古屋のPR(54.2%)などとなった。また、次回のトリエンナーレに行きたいかどうかという質問については、76.6%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

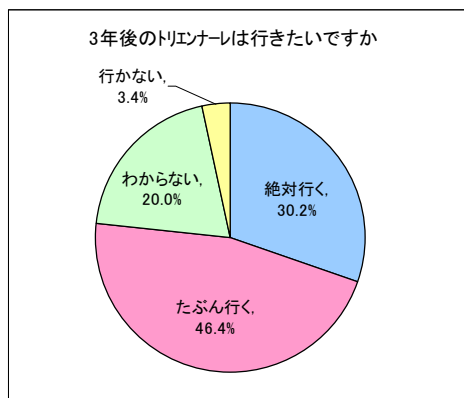
・あいちトリエンナーレの効果(9,654)※複数回答



・芸術・文化に対する興味・関心は高まったか(3,600)



・次回トリエンナーレに行きたいか(3, 458)



・コメント抜粋

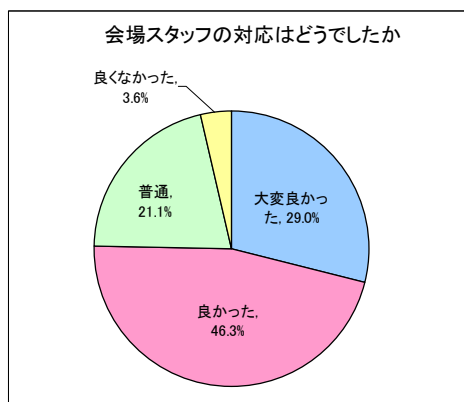
- ・とにかく続けることが大事だと思います。芸術、文化への投資は、真っ先に削られがちですが、それが有効に使われれば非常に大きな効果を生みます。知恵を出し合い、毎回見る人を驚かせる「あいちトリエンナーレ」を開いてください。3回目には都市の文化になります。あとは、より良いサポーターを一人でも育てることでしょうか。
- ・「3年後も愛知にトリエンナーレを」と思い希望を持って毎日を送り、各関係者の方達にありがとうございます。

○運営について(スタッフ、料金)

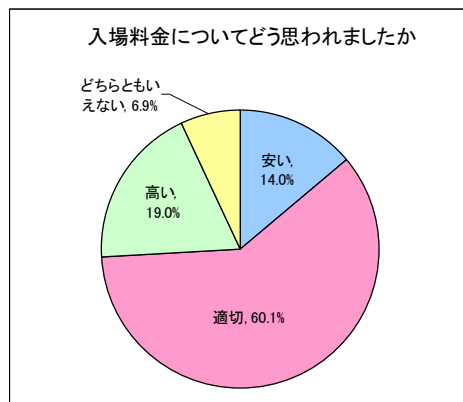
運営面についても、会場スタッフの対応は総じて高い評価(75.3%)が得られ、自由記述欄にも、「スタッフが親切・熱心だった」という記述が、約 170 件見られた。逆に、「スタッフに聞いても知らないということがあり、更に教育が必要である」といった意見も約 160 件あった。スタッフの習熟が進んだ会期後半にはそうした意見は減っている。

入場料金については、「適切」との回答が 60.1%であった。

・会場スタッフの対応(3, 628)



・入場料金(3, 606)



・コメント抜粋

(スタッフについて)

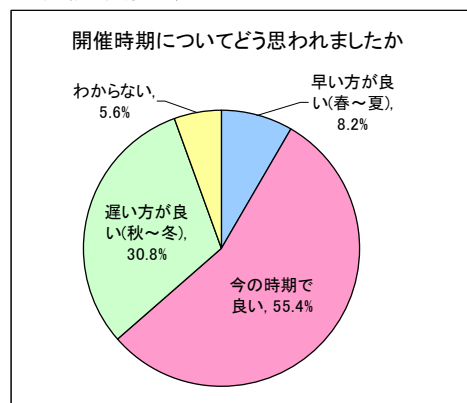
- ・ボランティアで活躍されている方々の素晴らしい対応に、本当に感謝。次回のトリエンナーレでは自分も何か協力してみたい。
- ・スタッフ、ボランティアの対応は良いが、トリエンナーレの事をあまり知ってなくて意外でした。
- ・スタッフや関係者の人が親切で良かった。すごく楽しかったです。ありがとうございました！！
- ・ボランティアさんにしっかりしたマニュアルがあるといい。ボランティアの方でいいかげんな対応の方もいました。一方、大変良くして下さる方もいました。

○運営について(開催時期、会場等)

開催時期については、「今の時期でよい」との回答が 55.4%、次いで、「遅い方がよい(秋～冬)」との回答が 30.8%であった。自由記述欄においては、「暑い、時期を変更してほしい」という意見が約 130 件あった。長者町会場等の屋外を歩く会場があった中で、平成 22 年の夏の平均気温は、統計の存在する 113 年間で最も高く(気象庁発表による)、歴史的な酷暑であったことが影響していると考えられる。これに関連して、自由記述欄には、「会場が分散していて不便、コンパクトにして欲しい」という意見が約 50 件あった。一方で、「あいちトリエンナーレなのだから名古屋以外でも開催すべき」という意見も、約 20 件あった。

その他自由記述欄において多かった意見としては、「認知度が低い、PR にもっと力を入れるべき」(約 220 件)、「会場そのものや、案内表示、地図等が分かりにくい」(約 200 件)という意見もあった。また、会期中途から順次掲示していったが「作品の見方、説明や作者のコメントなどが欲しい」(約 110 件)などがあった。なお、ベロタクシーは好評であり、約 80 件の評価する意見があった。

・開催時期 (3, 597)



・コメント抜粋

(開催時期)

- ・とにかく暑かった。街中のモノは歩いて回ってみるので、今回はあきらめました。軽く歩いて温くなるような季節の方が・・・と思いました。
- ・期間中はできたら休館日をなくして、主要な会場は OPEN して欲しい。

(会場)

- ・会場が数か所に分散していて見て回るのに時間がかかり効率が悪い。会場は一か所かせいぜい二か所にまとめた方が、疲れも少なくて良い。
- ・同じチケットで入場できる会場を名古屋以外にも設定したほうが、あいちトリエンナーレらしいのではないのでしょうか？その地域の活性化にもつながると思います。

(会場の案内、地図)

- ・長者町会場の展示場所がハッキリしない。入口にのぼり等立ててほしい。日曜日に参加したが、閉まっている会場が多くあった。
- ・ガイドブックがなくても、だいたい分かるようにしてほしい。入場のシステム(チケットの有無、有料、無料)や場所も分かりにくい。
- ・ポケットマップでの地図をもう少し詳細にいただけると迷いにくいと思います。(会場以外の建物名をもう少し記入してもらうなど)。公式ホームページで得られる情報が少なかった。来てみないとわからないことが多かった。

(PR)

- ・もっと認知度があがるとよい。TV での PR などをもっとするとか。
- ・もっと PR をした方がよい。もっとたくさんの人に参加してもらいたい。

(作品の説明)

- ・写真撮影ができれば良い。絵画等の説明がキャプションに少しあると良いと思う。
- ・ひとつひとつの作品に解説がほしい。わからない作品が多い。

(ベロタクシー)

- ・ベロタクシーが良かった。もう少し台数を増やせば移動に使いやすくなる。
- ・街中のイベントを増やしてください。ベロタクシーとプリウスに乗りました。楽しかったので、ああいう形のサービス続けて下さい。

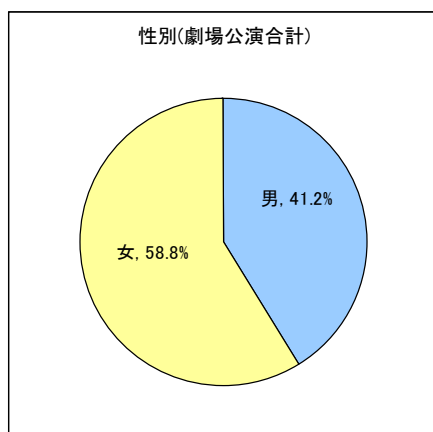
■一般来場者（劇場公演及びまちなかパフォーマンス）

実施時期	8月21日～10月31日（各公演・プログラム開催日）
調査対象	劇場公演及びまちなかパフォーマンスへの来場者
配布・回収方法	各公演・プログラムの来場者に配布し、会場にて回収
回収数	劇場公演計 920、まちなかパフォーマンス計 279

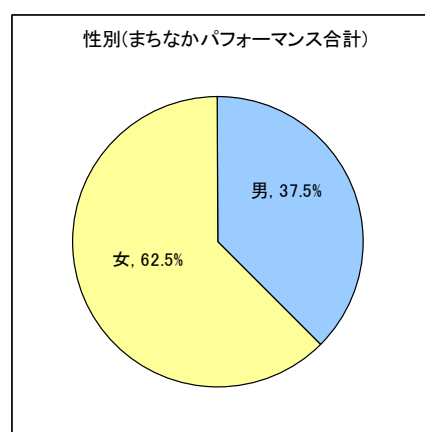
劇場公演及びまちなかパフォーマンスについては、プログラムごとにアンケート調査を行ったが、調査を行った全公演・プログラムの合計によって全体の傾向を見ると、催しについての感想を聞いた質問では、「大変良い」と「良い」を合わせて劇場公演は 90.8%、まちなかパフォーマンスは 95.8% となり、大変好評であった。

鑑賞した動機としては、劇場公演では、「出演者（アーティスト）又は作品に興味・関心があったから」が 80.4% であり、続いて、「現代美術を含めたトリエンナーレの催しに関心があったから」が 35.5% となった。まちなかパフォーマンスでは、「トリエンナーレの催しに関心があったから」が 61.6% であり、続いて、「アーティストに関心があったから」が 41.9%、「作品に関心があったから」が 34.4% となった。

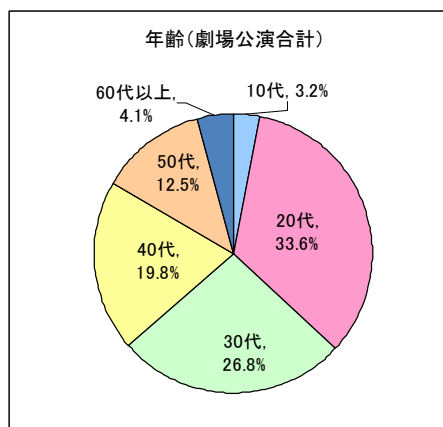
・性別・劇場公演（696）



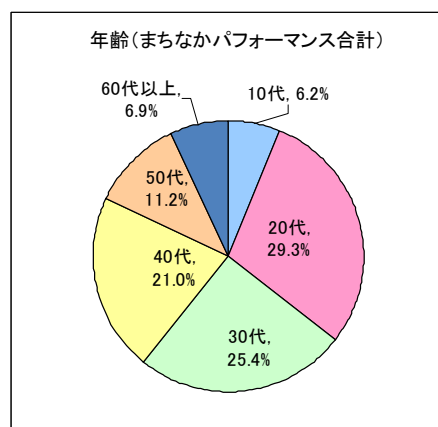
・性別・まちなかパフォーマンス（184）



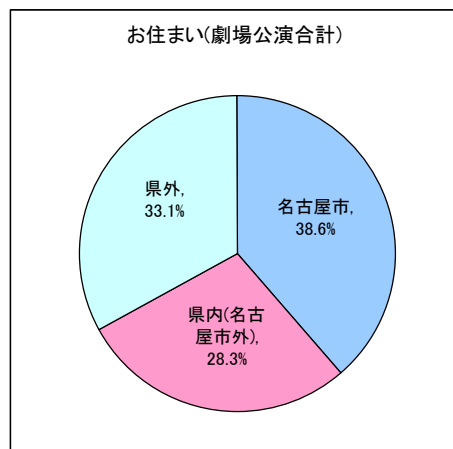
・年齢・劇場公演（881）



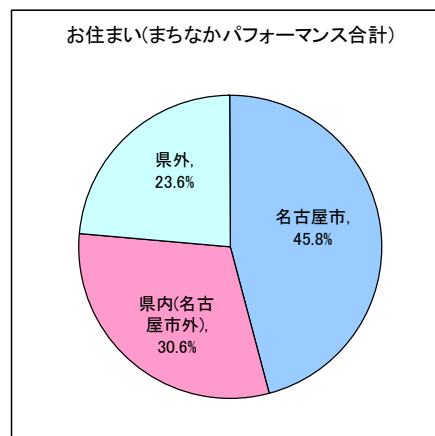
・年齢・まちなかパフォーマンス（276）



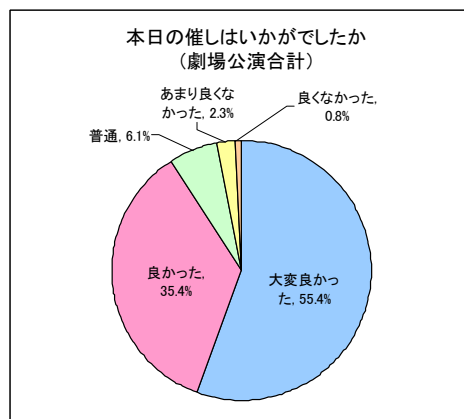
・お住まい・劇場公演(878)



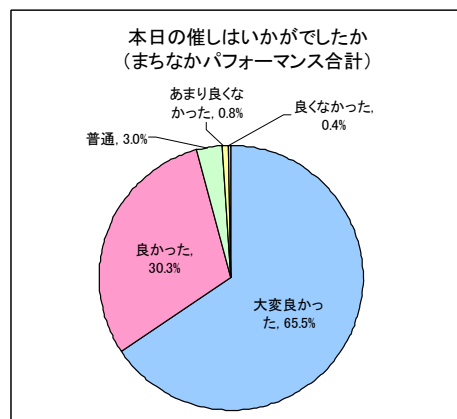
・お住まい・まちなかパフォーマンス(275)



・本日の催しについて・劇場公演(848)

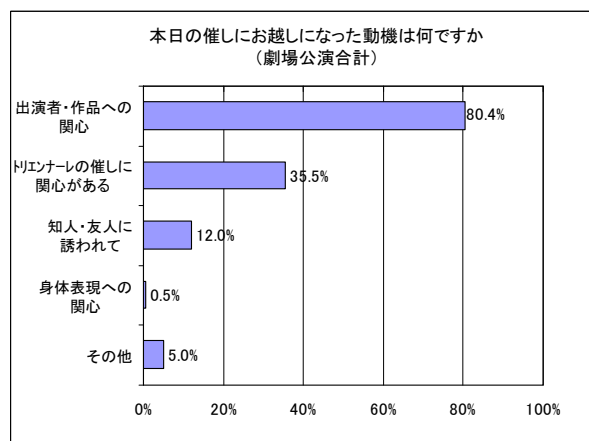


・本日の催しについて・まちなかパフォーマンス(261)



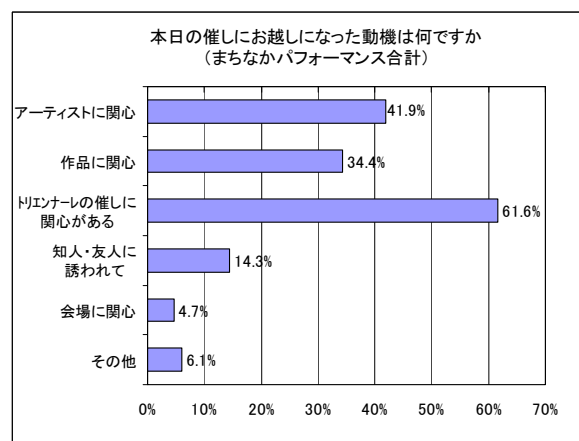
・鑑賞した動機・劇場公演(1,228)

※複数回答



・鑑賞した動機・まちなかパフォーマンス(455)

※複数回答



・コメント抜粋

(劇場公演)

- ・初めて見たのですが、内容難しかったです。でも、見やすいと思いました。ロボットにあまり違和感を感じない気もしましたが、独特の言い回しなどロボットだからこそ笑いが起きるということもあるのだと思いました。(平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)「ロボット版『森の奥』」)
- ・1作目は、映像と動きの錯覚がスゴイ！！と思いました。2作目は、動きがすごく早くてびっくりしました。(梅田宏明「Adapting for Distortion / Haptic」)
- ・遠方からでは日帰りか1泊が限度です。1日に2演目(例えばダンスと演劇)を見られるようなプログラムを組んでもらえるとありがたいです。(ヤン・ファール「Another Sleepy Dusty Delta Day～またもけだるい灰色のデルタデー」)
- ・すごく間が多く、舞台の雰囲気と言葉によって作られるイメージと自分のイメージがぶつかって(いい意味で)色んな事が頭の中で起きました。面白かったです。ありがとうございました。(チェルフィッチュ「わたしたちは無傷な別人である」)
- ・一列目でみさせていただきましたが、アンドロイドがまばたきしてこちらを見ていると本当の人間に見つめられている気がしました。平田さんと石黒先生にはロボット演劇の最先端を走り続けて、また愛知にもってきてほしいです。(平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学&ATR 知能ロボティクス研究所) アンドロイド演劇「さようなら」)
- ・ものすごいエネルギーを感じた。クラシックがルノアールとかだったら、この演技はピカソのようなデフォルメの中に深い何かが潜んでいるような不思議な世界を思わせるものだった。(ニブロール「THIS IS WEATHER NEWS」)
- ・ローザスの公演をあいちトリエンナーレでやって頂いてよかった。今日は見に来る予定ではなかったが、急遽当日券に並んで、見られたのでより楽しめた。ドライアップシートも楽しみです。トリエンナーレ、3年後もいい公演を期待します。(ローザス「ローザス・ダンス・ローザス Rosas danst Rosas」)
- ・作者の身体と言葉に対する考えを伺うことができ、有意義だった。(ヤン・ファール公演関連企画「カンパニーメンバーによるワークショップ」)
- ・やはりマーラーは眠たくなってしまう。しかし、ピアノだけを伴奏にアンヌ・テレサが歌い始めると、目が離せなくなりました。アンサンブル・イクトウスの演奏は贅沢な捨て駒のようで、それがあから最後の一歩が気にならない。(アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトウス「3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)」)

(オペラ「ホフマン物語」)

- ・この大ホールで回転舞台装置をフルに使ったオペラは初めてではないか！！
- ・メトロポリタンオペラで観た時と、優るとも劣らないすばらしい舞台で感動しました。衣裳、装置、合唱、ソロともなかなかそろわず、日本では滅多に上演されない演目だけに希少価値で、新幹線代を使っても来てよかったです。

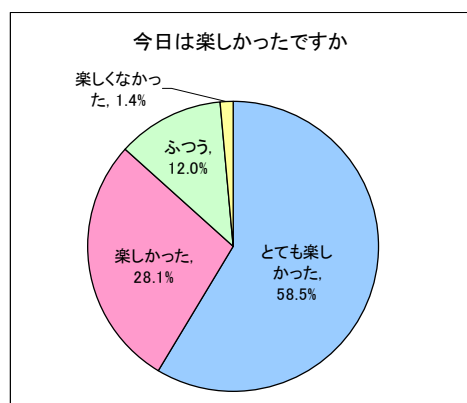
■子ども(国際美術展)

実施時期	8月22日～10月17日
調査対象	学校向け教育プログラムに参加、又は国際美術展に来場した子ども(中学生以下)
配布・回収方法	学校向け教育プログラム参加校を抽出し、参加した児童・生徒に対し配布・回収した。また、主要4会場においてヒアリングを行った
回収数	1,269

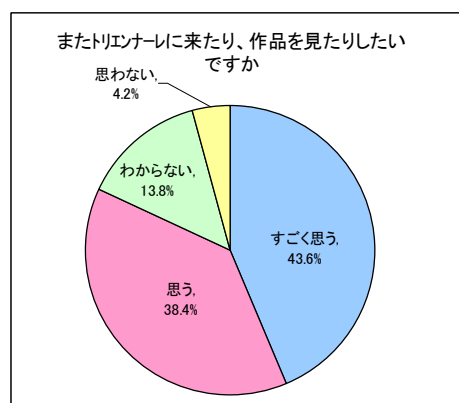
子どもたちの86.6%が「とても楽しかった」又は「楽しかった」と答え、また、82.0%がまたトリエンナーレに来たり作品を見たりしたいと「すごく思う」又は「思う」と答えている。

良かった作品としては、愛知芸術文化センターに展示された三沢厚彦＋豊嶋秀樹の作品(「木でできた動物が面白かった」等)、曾建華(ツァン・キンワ)の作品(「文字が動く床が面白かった。文字が自分に映るのが面白い。」等)などが挙げられた。

・今日は楽しかったか(1,262)



・またトリエンナーレに来たり、作品を見たいか(1,257)



・コメント抜粋

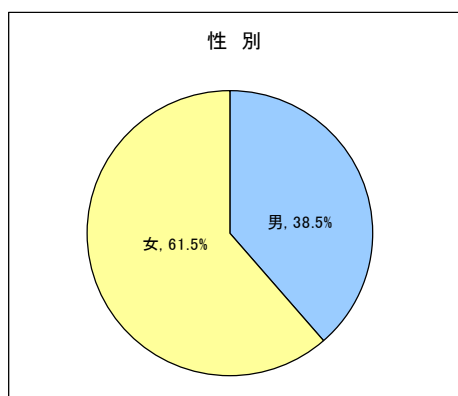
- ・美術館はいつも疲れるけどトリエンナーレは疲れなかった。楽しかった。
- ・木でできた動物が面白かった。
- ・文字が動く床がおもしろかった。文字が自分にうつるのがおもしろい。
- ・自分でも作ってみたいと思った。
- ・よく分からないものが多かった。
- ・芸術に興味はなかったけど、トリエンナーレに来てすごく興味が沸いた。
- ・いつも本で見る作品より、ここで見た作品は迫力があって面白かった。
- ・大人向けのやつがいっぱいあったけど、体験や見れたりして楽しかった。
- ・かぼちゃの作品がよかった。水玉がきれいだった。へちまみたいな大きなもの、ビックリしたよ！
- ・『動物と山』いっぱい動物が出てきて、よかった。いろんな所に隠れていたりして。『ヒーロー』悲しい顔していて、印象的だった。11Fのお花畑は、いっぱいお花があってよかった。
- ・初めて本格的な芸術作品が見られてよかったです。見方を変えてみれば違う絵にもなるとかおもしろい作品などとてもよかったです。
- ・純白のドレスがよかった。

■キッズトリエンナーレ

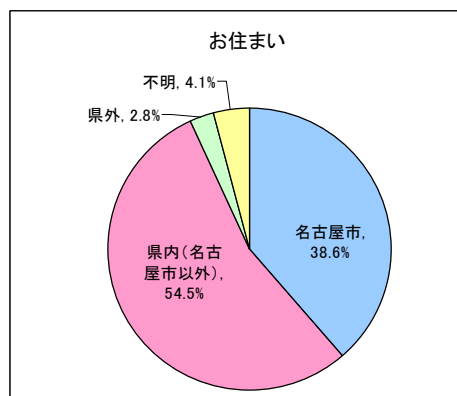
実施時期	8月22日～10月23日
調査対象	キッズトリエンナーレ参加者
配布・回収方法	キッズトリエンナーレ会場において配布し、その場で回収
回収数	604

国内初の取組であるキッズトリエンナーレには、2万人を超える参加者があり盛況だった。アンケートにおいても、参加者の93.8%が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した。また、これからも自分で絵を描いたり、ものを作ったりしようと思うか聞いたところ、91.4%が「すごく思った」「思った」と答えている。

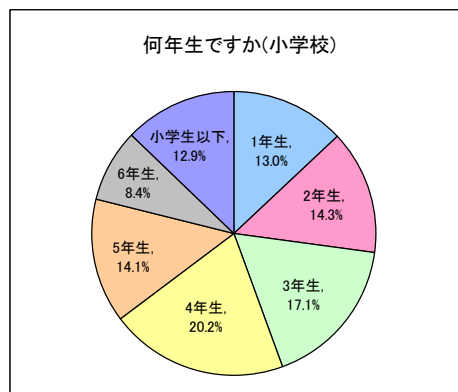
・性別 (603)



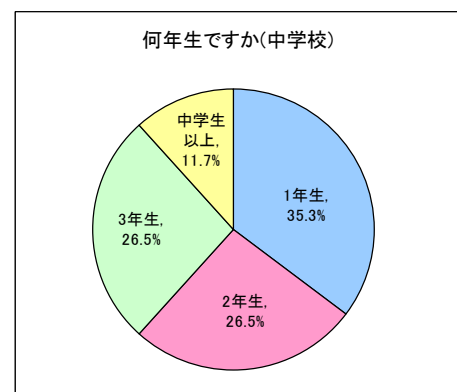
・お住まい (604)



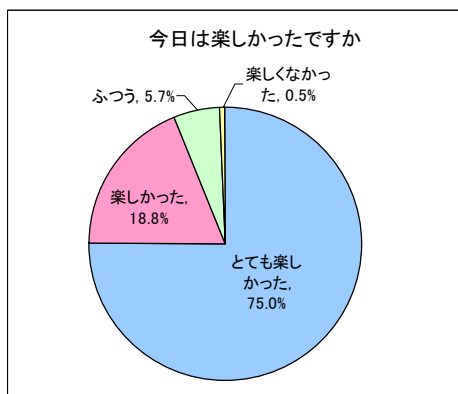
・学年・小学校 (560)



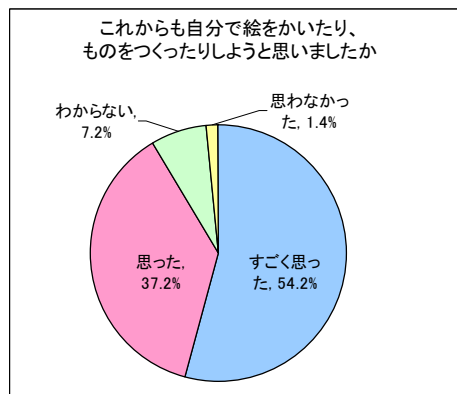
・学年・中学校 (34)



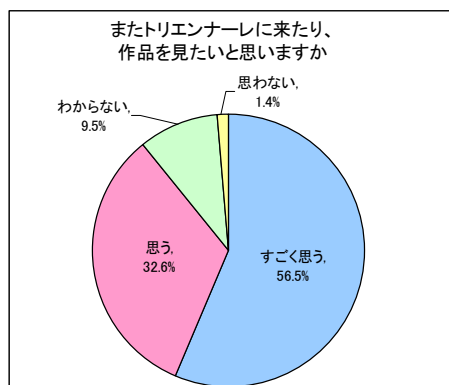
・今日は楽しかったか (595)



・これからも創作しようと思うか (594)



・またトリエンナーレに来たいか (598)



・コメント抜粋

(子どもの意見)

- ・最初はこんなこと本当にやっていいの?と思ったけど、やってみると、すごく楽しかった。
- ・とても楽しかった。お母さんに作品を見せたいです。
- ・とてもきれいな作品ができ、いろいろなアイデアがでて楽しかった。
- ・テープをグルグルするのが楽しかったです。手に絵具を付けて、友達と握手するのが、気持ち悪かったけど、楽しかったです。
- ・人の体を描く時が面白かった。
- ・みんなで協力できた。楽しかった。
- ・友達ができてうれしかった。
- ・色を混ぜると、違う色ができて不思議だった。

(保護者の意見)

- ・スタッフの方に大変お世話になりました。楽しい雰囲気があってよかった。
- ・一人で知らない子どもと時を過ごすのは初めての体験。2時間泣かずに「楽しい」と言って参加できた事が、一番の経験になった。
- ・途中でぐずるかなと心配しましたが、絵具でぬる時はキャーキャーと楽しんでいました。母も楽しく参加でき、良かったです。ありがとうございました！

V-(3) 関係者アンケート結果

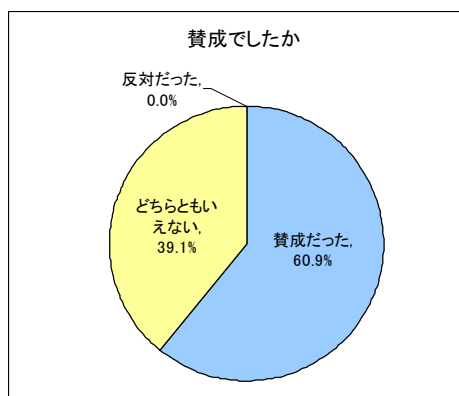
■ 長者町

実施時期	12 月		
調査対象	長者町関係者(会場提供者等)		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	23 (46.9%)	配布数	49

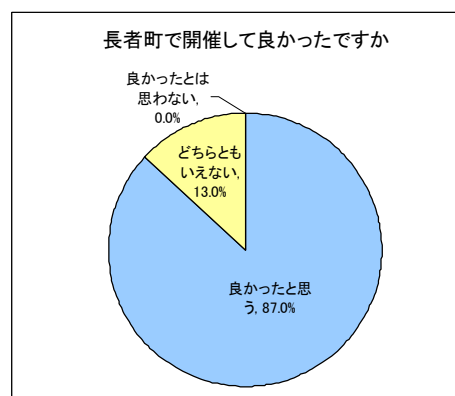
会場提供等で協力して下さった長者町関係者にアンケート調査を行ったところ、開催前にトリエンナーレの開催に賛成だったのは 60.9%だが、開催後に開催して良かったとする回答は 87.0%に向上している。また、トリエンナーレの総合評価(「大変良い」「良い」を合わせて 87.0%。以下カッコ内について同じ)、長者町が賑わったと思う(95.6%)、トリエンナーレは長者町の活性化や好ましい意識の変化に貢献したと思う(82.6%)とも、高い評価となった。長者町関係者から見て、ボランティアスタッフの対応も良かったと見られている (91.3%)ことも分かる。

なお、自由記述欄においては、「長者町の活性化ができ、町の方々が前向きになれた」「長者町と無関係であった人々との出会いや繋がりが生まれた」との意見も見られた。

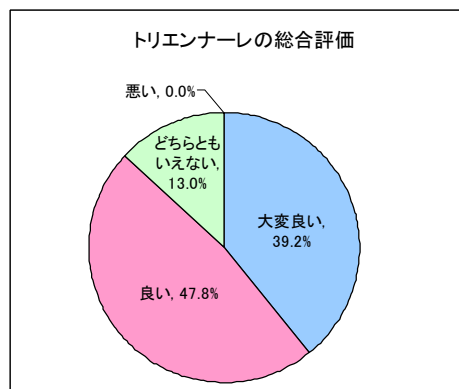
・ 長者町での開催に賛成だったか (23)



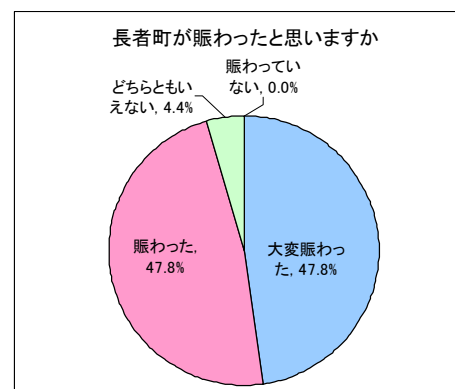
・ 現在、開催して良かったと思うか (23)



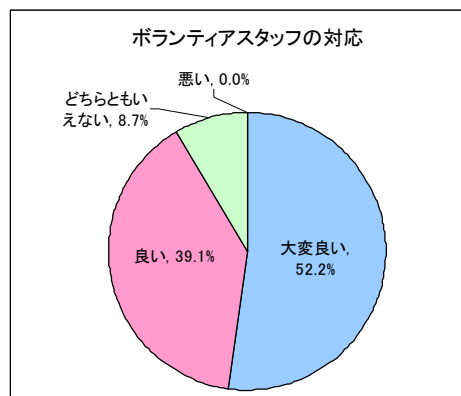
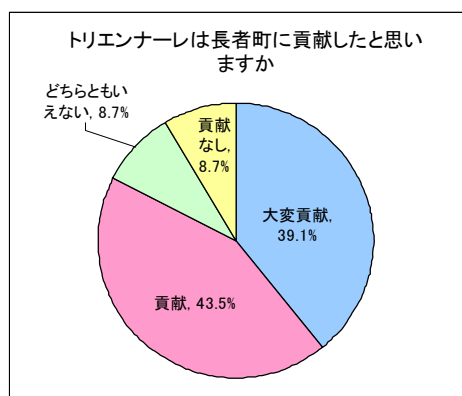
・ トリエンナーレの総合評価 (23)



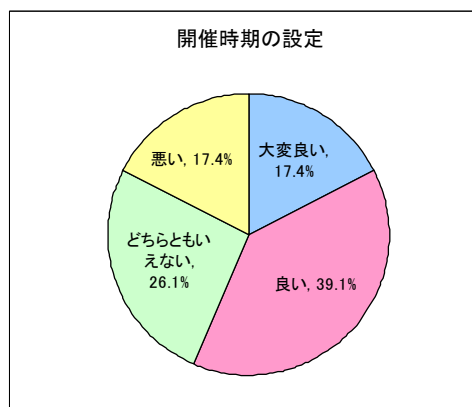
・ 長者町が賑わったと思うか (23)



- ・ 長者町の活性化や、好ましい意識の変化に貢献したか (23)
- ・ ボランティアスタッフの対応 (23)



- ・ 8～10 月という開催時期について (23)



・ コメント抜粋

- ・ アートの気運を高め、長者町の活性化ができた。町の方々が前向きになった。
- ・ 特に 10 月はすごい賑わいだった。商業的な損得ではない、美術、芸術、パフォーマンスの価値と、長者町で行われたこととで、シナジー効果がアップした。
- ・ 芸術を楽しむ人々がたくさんいて、名古屋のインテリジェンスを感じました。アートが好き＝おしゃれということも感じました。
- ・ 街づくりの方向性がわかったのではと思う。
- ・ 日頃来ない客層だった。町自体が賑わっていたが、終わると元通りで残念。
- ・ 1 つの会場ではなく、いくつかの会場に分かれていたことで、街全体で取り組んでいる様子が伝わってきた。
- ・ 長者町地区での展示で、長者町と無関係であった人々との出会いや繋がりが生まれた。町の人々が期間中の来場者の多さに何かを感じ始めた事と、新たな活動に向けて動き始めた事を感じた。
- ・ 8 月は暑すぎます。9～11 月にすべき。
- ・ 予算を 13 億円掛けたというが、それに見合う価値は誰の評価なのか。お金を掛けすぎではないか、と思った。
- ・ 告知の方法。トリエンナーレの存在すら知らない人が多かった。
- ・ 街での展示場所を一層わかりやすくするべき。入場料、日時、入場無料などがわかりにくかった。
- ・ もう少し会場をまとめて小さくして下さい。

■祝祭ウィーク共催事業

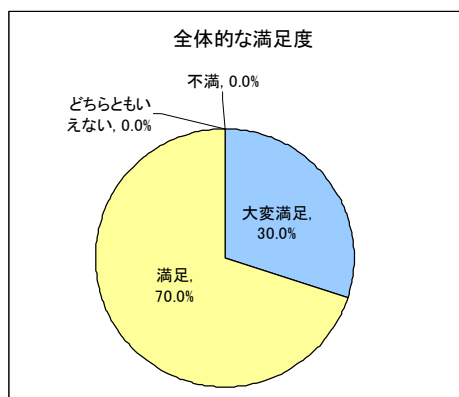
実施時期	12 月		
調査対象	祝祭ウィーク共催事業参加団体等		
配布・回収方法	郵送又はファックス		
回収数(回収率)	10 (62.5%)	配布数	16

祝祭ウィーク(10月11日～17日)における公募共催事業では、約1万8千人の観覧者があったが、その主催者16団体・個人にアンケート調査を行った。「全体的な満足度」は、すべての団体等が「大変満足」又は「満足」とした。また、来場者の反応は良かったかとの質問に対しても、すべての団体等が「大変良かった」又は「良かった」と回答し、「次回のトリエンナーレにおいて公募・選考による共催事業があれば、参加しようと思うか」という質問に対しても、「参加しない」という回答はなかった。

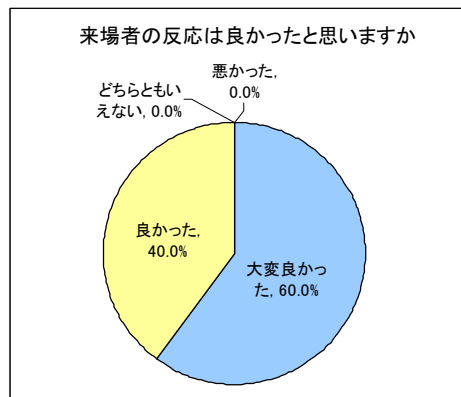
自由記述欄では、「会場、施設の全てを提供していただいたことで、その経費を他の部分に存分にあてることができたので豊かな気持ちで思い切り作品に思いを費やすことができた」、「共催事業となったことで、今まで興味のなかった方も来られた」等の意見があった。

改善すべき点として自由記述欄に記載された意見は、「同じ日に3会場全て同ジャンル(ダンス)の舞台があったりすると、特に関係者はどれを選択すれば良いか、見に行くのが困難だと思う」など、公演スケジュールに関するものが目立った。

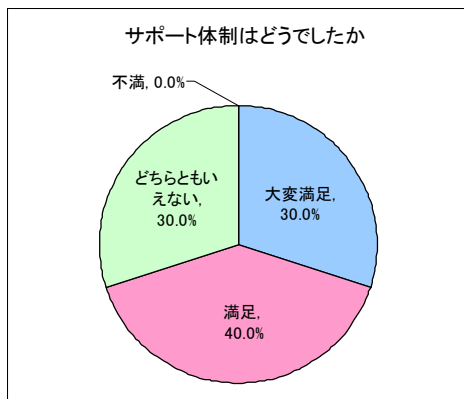
・全体的な満足度(10)



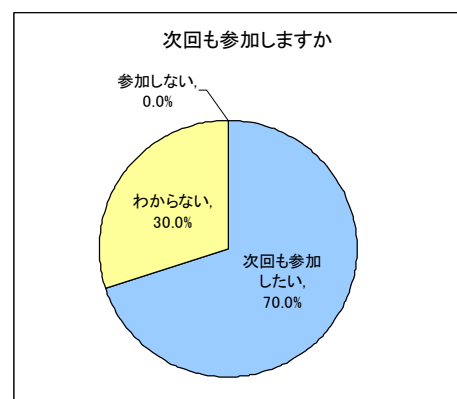
・来場者の反応(10)



・実行委員会のサポート体制(10)



・次回も参加したいか(10)



・コメント抜粋

- ・美術に関心のある人々が、演劇に興味を持つ良いきっかけになったと思います。ヴィジュアル・アーツとパフォーミング・アーツが、同じ芸術分野として繋がり、広がりを感じました。
- ・会場、施設の全てを提供していただいたことで、その経費を他の部分に存分にあてることができたので豊かな気持ちで思い切り作品に思いを費やすことができた。
- ・祝祭ウィーク共催事業となったことで、今まで興味のなかった方も来られました。
- ・演劇に振り分けられたのが2日間しかなかった点。結果1回しか公演ができなかったのも、長く使えるような期間の考慮をお願いします。
- ・なるべく多くの団体を取り上げるという意味では、一週間、芸術文化センターの施設を目一杯使用したことは有意義だったとは思いますが、一晩に2、3公演が同時にある日に当たった団体は、集客に苦勞されたかもしれません。
- ・1週間で3会場での公演開催は、観客にとっては少しきつかったことと思いますし、同じ日に3会場全て同ジャンル(ダンス)の舞台があったりすると、特に関係者はどれを選択すれば良いか、見に行くのが困難だと思うので、公演日を決定する際、内容もきちんと把握して振り分けてほしい。
- ・今回は初めてということで認知度はまだまだ低かったと思います。万博時のような、地下鉄栄駅構内、オアシス等一般の方が集まる場所にポスターなどで「何だ?」と思わせるような工夫が欲しい。

■ボランティア

実施時期	12月		
調査対象	ボランティア（プレイベント含む）		
配布・回収方法	郵送、メール又はファックス		
回収数(回収率)	330 (20.4%)	配布数	1,616

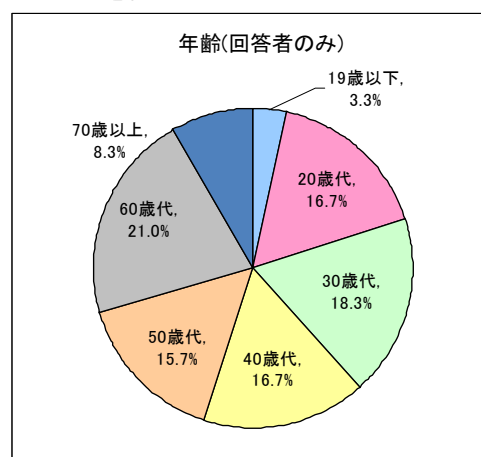
○属性

本芸術祭のボランティアのうち、ボランティア活動経験者が69.8%あり、以前にどのようなボランティア活動に従事したか聞いたところ、2005年の愛・地球博(愛知万博)が49.3%あった。

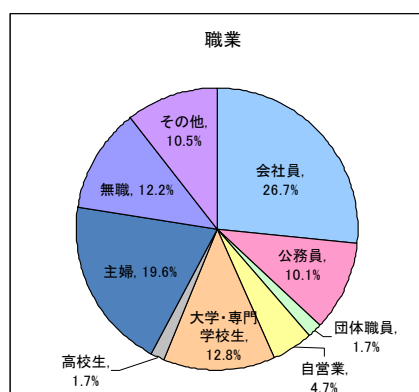
本芸術祭のボランティアに参加した理由としては、「あいちトリエンナーレに興味」(68.0%)、「現代芸術に興味」(56.1%)、「ボランティア活動に興味」(49.4%)の順で多くなっている。

・年齢(300)

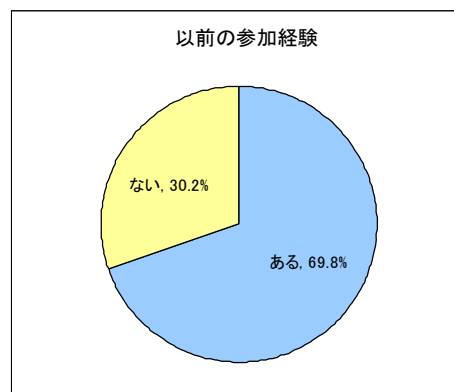
※アンケート回答者のみの年齢。参加者全体の年齢は、58ページを参照



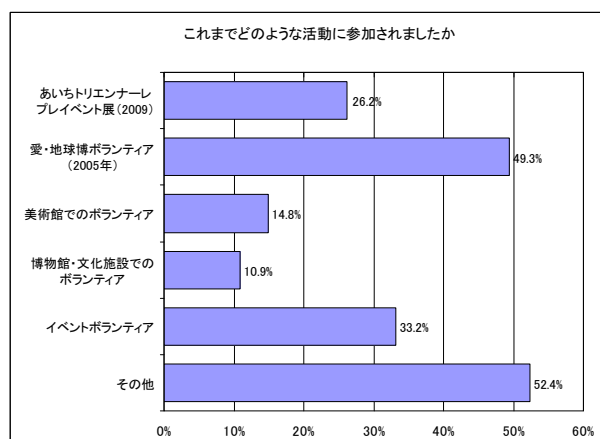
・職業 (296)



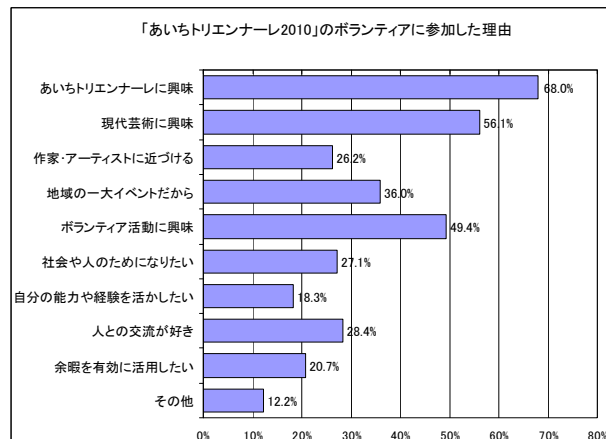
・ボランティア活動参加経験 (328)



・これまでの活動経験 (428)
※複数回答、活動経験者のみ



・参加理由 (1, 123)
※複数回答

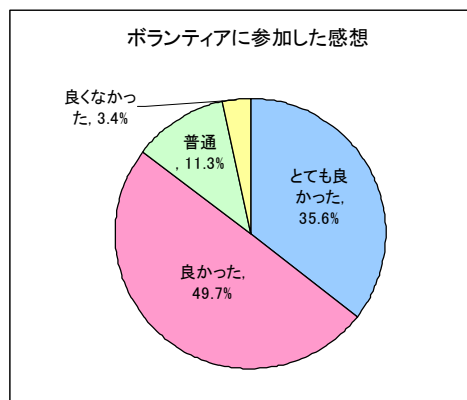


〇感想

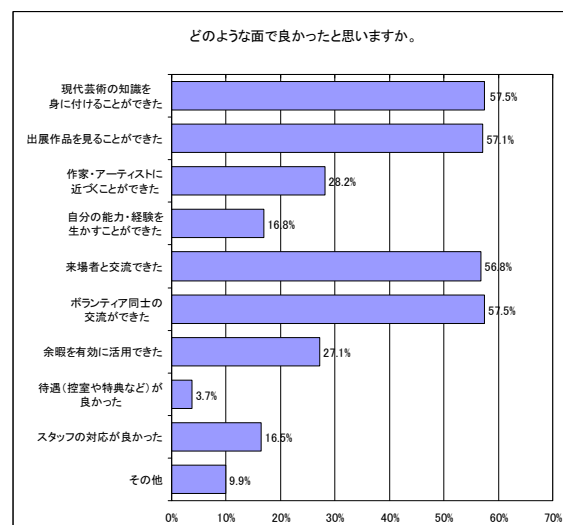
ボランティアに参加して「とても良かった」「良かった」という回答は、85.3%にのぼった。その理由として、「現代芸術の知識を身に付けることができた」(57.5%)「出展作品を見ることができた」(57.1%)という文化芸術の普及啓発面での理由が、それぞれ6割近くとなった。また、「来場者と交流できた」(56.8%)「ボランティア同士の交流ができた」(57.5%)という、地域における人と人とのつながりに関する理由も、やはり6割近くとなった。

次回のあいちトリエンナーレなど、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいか聞いたところ、「参加したい」「参加を検討したい」とを合わせると87.3%となった。

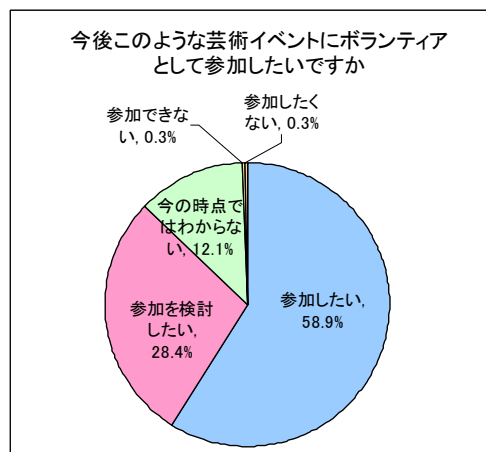
・参加の感想 (320)



・どのような面で良かったか (904) ※複数回答



・今後参加したいか (321)



・コメント抜粋

- ・スタッフ、アーティスト、キュレーター、ボランティア、お客さん等、普段関わることのないたくさんの人たちと交流でき、とても楽しく充実した活動となりました。
- ・楽しく活動させていただき、とてもいい経験になりました。
- ・貴重な経験ができてよかった。仕事の都合もあり、延べ6日間であったが、楽しく参加させていただいた。
- ・ガイドツアーを担当しましたがとても満足しています。人とのコミュニケーションが出来たことと、アートそのものについても、とても楽しむことが出来ました。
- ・3年後のあいちトリエンナーレでも、ボランティア活動にまた申し込もうと思っています。この事業を継続して、もっと、さらにおもしろいものにして欲しいです。
- ・長者町会場ばかりを担当することになり、人員配置に偏りがあるように感じました。
- ・後半は COP10 のボランティアと重なったせいか、ボランティアが少なかったようで残念でした。後半になるほどお客様も増えて、ゆとりがなかった感じがします。ボランティアが自らやりたい場所を選べると、もっと色々勉強できて、内容が充実できたように思います。
- ・活動内容があらかじめ分かる範囲で提示されていて、こちらから活動を選ぶという形をとったほうが、もっと自分の能力を生かしたような気がします。その方がドタキャンをする人も少なかったのではないのでしょうか？ボランティアも責任あるスタッフの一員なので、もう少し研修の機会を設け、有償スタッフを雇うのではなく、ボランティアスタッフに任せて欲しいと思う場面が多々ありました。

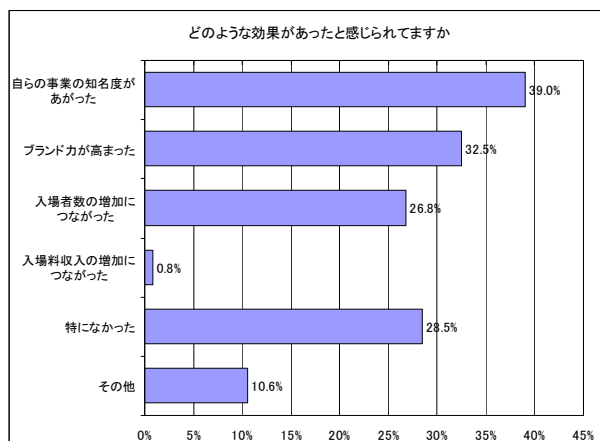
■ パートナースHIP事業

実施時期	12 月		
調査対象	パートナーSHIP事業参加団体		
配布・回収方法	郵送又はファックス		
回収数(回収率)	124 (25.1%)	配布数	495

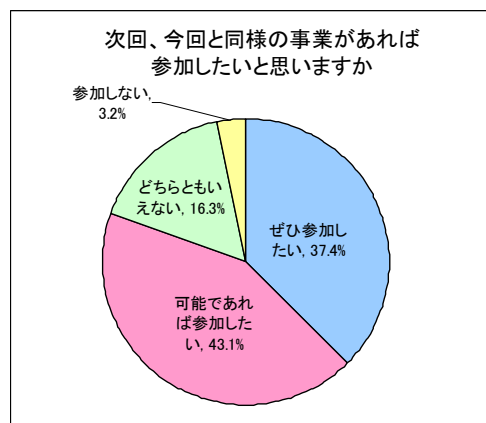
パートナーSHIP事業に参加した団体に対するアンケート調査では、「自らの事業の知名度が上がった」(39.0%)、「ブランド力が高まった」(32.5%)、「入場者数の増加につながった」(26.8%)といった効果があったとの回答があった。一方、効果は「特になかった」という回答も 28.5%あり、効果の認識にはばらつきが見られた。

次回、今回と同様のパートナーSHIP事業があれば参加したいと思うか聞いたところ、80.5%の団体が参加したいと考えていることが分かった。

・ どのような効果があったか(170)※複数回答



・ 次回も参加したいと思うか(123)



・ コメント抜粋

- ・ トリエンナーレですので 2013 年も必ず開催してください。その際にもぜひ参加します。
- ・ アートに関心のある人からは好評だったようだが、そうでない人にとっては「現代アート＝分かりにくい」というイメージを覆すまでには至らなかった。アートの固定観念をひっくり返すような企画があればもっと間口が広がると思う。そういう点からも長者町は面白かった。アートと日常の境をなくすような街の中に溶け込んだ展示や取り組みは作家や取り巻く人たちの息づかいを感じられた。
- ・ 2013 年楽しみにしています。
- ・ 不況といわれる最中に、名古屋発信で何か「動き」を感じることが出来ました。次回も是非よろしく願います。
- ・ 参加団体に共通のフラッグを配布するなど、もっと派手に盛り上がる材料があるといいと思います。
- ・ 国際展としては規模の大きなものではなかったように思いましたが、その大きくないことがあいちトリエンナーレの独自性となったように感じました。具体的には、地域との密着性、いわゆるビッグネームではない作家の多用などです。次回のあいちトリエンナーレ 2013 では、そういった部分をより深め、さらに独自の方向性を持ちながらも排他的にはならないお祭りになることを期待します。

V-(4) 文化芸術関係機関等アンケート結果

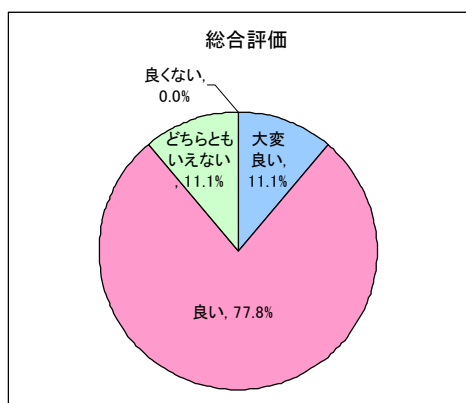
本芸術祭について客観的な意見等を聞くため、全国の芸術系教育機関(美術大学長等)、県内のギャラリー及び中部芸術文化記者クラブ加盟記者に対してアンケート調査を行った。また、現代芸術等の普及・教育が、本芸術祭の開催目的の一つであることから、学校向け教育プログラムに参加したかどうかに関わらず、県内の小・中・高等学校、特別支援学校等にも、アンケート調査を行った。

■ 芸術系教育機関

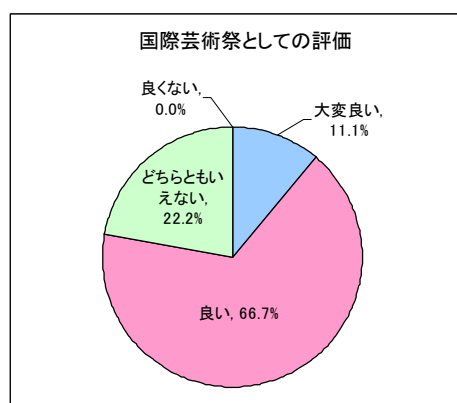
実施時期	12 月		
調査対象	全国の芸術系教育機関(美術大学長等)		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	11 (23.4%)	配布数	47

総合評価(「大変良い」「良い」を合わせて 88.9%)を始めとして、芸術の普及啓発に貢献したかという質問に対しては全員が貢献したと回答するなど、概ね高く評価された。

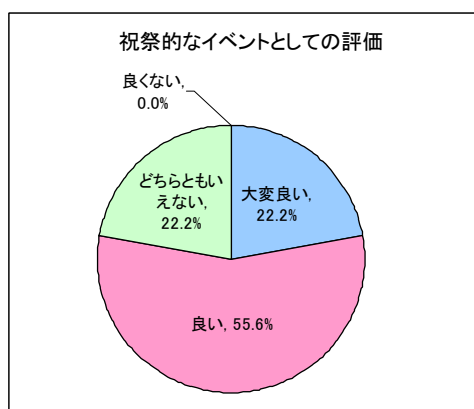
・トリエンナーレの総合評価(9)



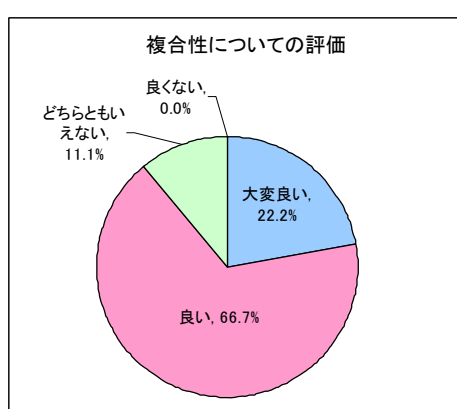
・現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価(9)



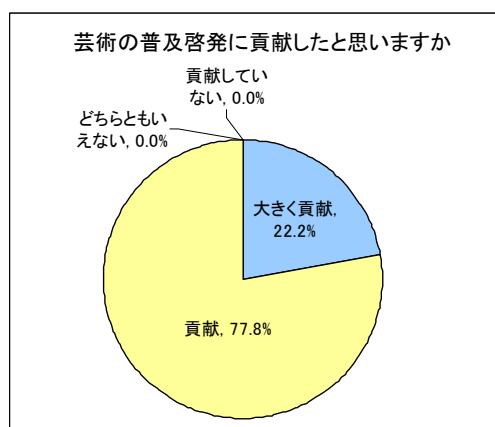
・祝祭的なイベントとしての評価(9)



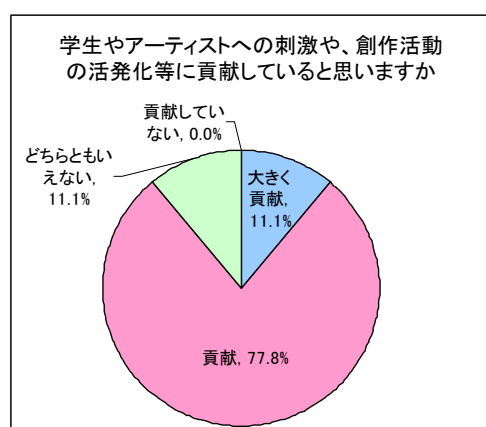
・パフォーミング・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価(9)



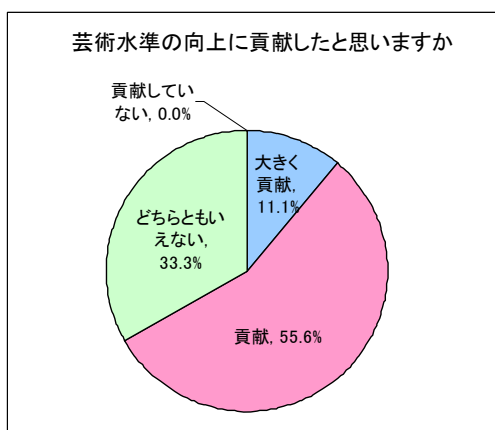
・芸術の普及啓発に貢献したか(9)



・学生やアーティストへの刺激や創作活動の活発化に貢献したか(9)



・わが国の芸術水準の向上に貢献したか(9)



・コメント抜粋

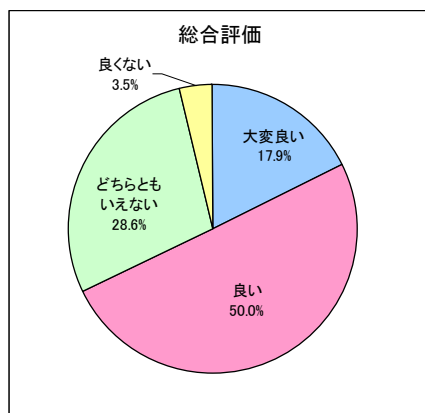
- ・1回だけではなく、継続して企画を充実させていってください。
- ・今回は1回目ということで、非常にわかりやすい内容となっており、広く一般の方も来場するよい祭典となったと思います。今後は地元の作家も掘り下げるなど、コアな見せ方も取り入れていただきたいと思います。
- ・海外からの作家を多く紹介していましたが、「あいち」で行われるイベントとしての特色があまり感じられませんでした。
- ・瀬戸内は直島という強力なコンテンツがあるから成功したともいえる。名古屋市にも県美と市美があるが、両館が常に何か合同企画を行うとすれば、強力な核となりうるかもしれない。
- ・祝祭はやはり都市の中では、その雰囲気が拡散してしまうので難しいかもしれない。
- ・芸術イベントは文化レベル向上に即効性を持たない。費用対効果を求めて次回以降の開催可否を考えるようであるなら、第1回の開催自体を無駄にしてしまう。2010年の第1回に対して県がどのような総括を示すか(具体的には次回以降について)は、行政、政治の水準を示唆すると考えている。

■ギャラリー

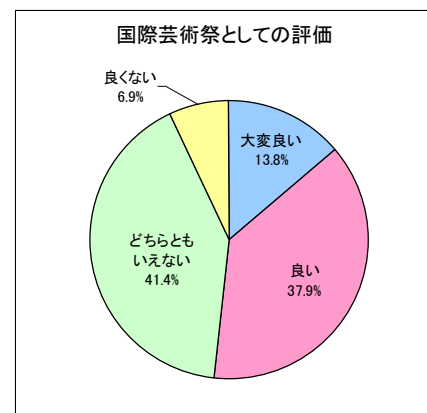
実施時期	12 月		
調査対象	県内ギャラリー		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	31 (33.7%)	配布数	92

総合評価(「大変良い」「良い」とを合わせて 67.9%)、普及啓発への貢献(「大きく貢献」「貢献」を合わせて 68.9%)等が高く評価される一方、わが国の芸術水準の向上に貢献したかという質問に対しては、「大きく貢献」「貢献」を合わせて 38.0%にとどまった。

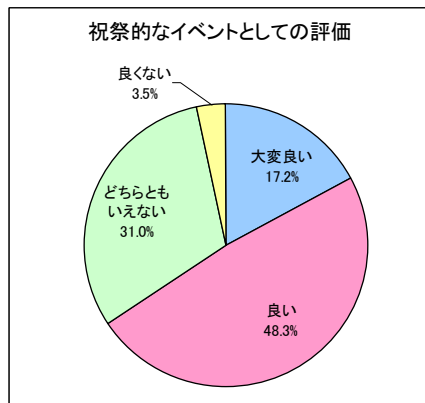
・トリエンナーレの総合評価(28)



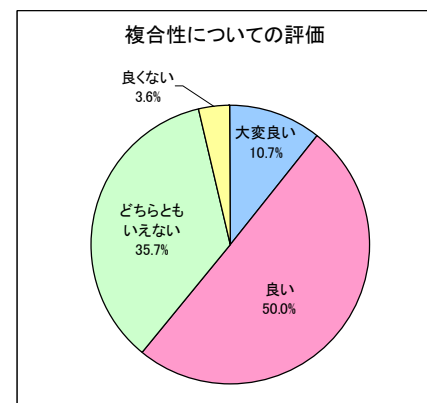
・現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価(29)



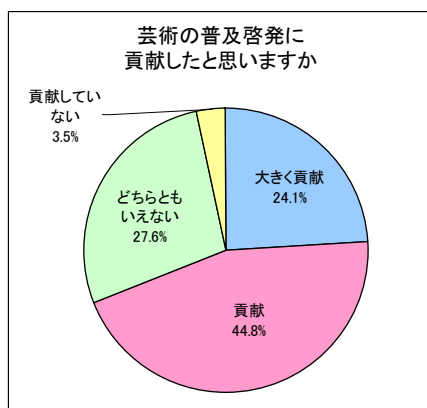
・祝祭的なイベントとしての評価(29)



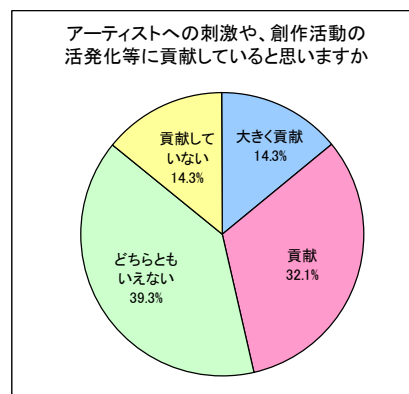
・パフォーミング・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価(28)



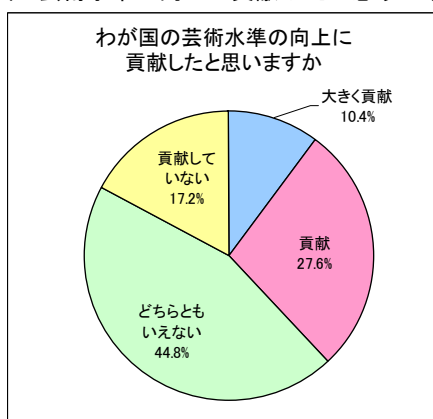
・芸術の普及啓発に貢献したか(29)



・学生やアーティストへの刺激や創作活動の活発化に貢献したか(28)



・わが国の芸術水準の向上に貢献したと思うか(29)



・コメント抜粋

- ・楽しいイベントでした。継続的に成長していくのを楽しみにしています。定着を願っております。
- ・継続は力。ベネチアを越えるよう期待しています。
- ・「あいち」と称する割に私の周りの反応は静かでした。特に一般のお客様(特に年配者)はあまり興味を持っていませんでした。
- ・今回は各会場へのアクセスが良かったので回りやすかったです。
- ・最も大切なことは継続することです。2 番目には、地域の住民、アーティスト、小中高生などの制作への関わりを増やしてほしいです。
- ・長者町のイベントはとても良かったと思います。

■中部芸術文化記者クラブ

実施時期	12月～1月		
調査対象	中部芸術文化記者クラブ加盟記者		
配布・回収方法	郵送、ファックス又はメール		
回収数(回収率)	3 (12.5%)	配布数	24

年末・年始というアンケート実施時期から、中部芸術文化記者クラブへのアンケート調査については回収した絶対数が少なかったが、回答があった中ではすべての記者が、総合評価及び現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価について「良い」と評価した。

質 問	大変良い	良い	どちらとも いえない	良くない
総合評価	0	3	0	0
現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価	0	3	0	0
祝祭的なイベントとしての評価	2	0	1	0
パフォーミング・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価	1	2	0	0
芸術の普及啓発に貢献したと思うか	0	2	1	0
わが国の芸術水準の向上に貢献したと思うか	0	1	2	0
地域の芸術水準の向上に貢献したと思うか	0	1	1	0
横浜・瀬戸内など他の芸術祭と比較した時の本芸術祭のレベル	0	1	1	1

自由記述欄における次回も継承すべき点としては、ヴィジュアル・アーツとパフォーミング・アーツとの2本柱、長者町会場のような「まちなか会場」、ペロタクシーやプリウスなどがあった。また改善すべき点としては、「開幕直前まで作品が完成せず取材がしにくかった」との指摘や、「無料公演の増加や入場料金引き下げ」の提案があった。

・コメント抜粋

- ・ヴィジュアルアーツとパフォーミングアーツを2本柱で定着させて欲しい。長者町会場のような「まちなか会場」も今度も充実・発展すべき。
- ・会場間を結ぶペロタクシー、プリウスは次回も残すべき。あれがあると「もう一箇所回ってみようか」という気持ちにもなるし、街にも「トリエンナーレをやっている」という空気が満ちる。アクセスの面からだけ考えると、会場を県内全域に広げることは大変かもしれないが「あいち」という名前を冠する以上、それも考えるべきではないか。
- ・無料公演を一般公開用に増やす。入場料金をさらに下げしてみる。不景気だからこそ芸術に救いを求める価値観に注目。
- ・アートで街を元気に、住民を仲良く平和にできたら素晴らしい。芸術祭の評価尺度は来場者数だけでなく、経済効果などいろいろ考えられる。芸どころ名古屋のモノサシを作るのも一案。

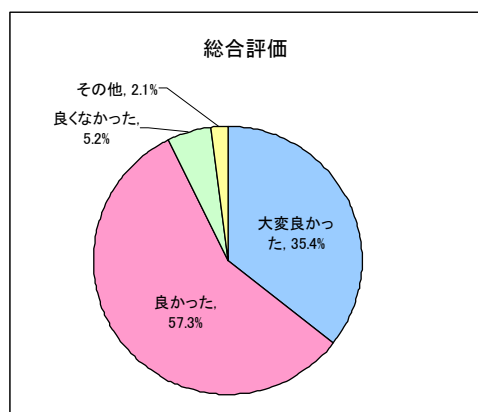
■県内の小・中・高等学校、特別支援学校等

実施時期	12月～1月		
調査対象	県内小・中・高等学校、特別支援学校等		
配布・回収方法	郵送、ファックス又はメール		
回収数(回収率)	1,030 (64.1%)	配布数	1,606

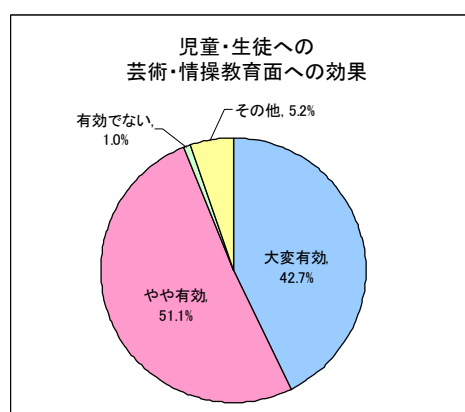
学校向け教育プログラムに参加した学校に総合評価を聞いたところ、**92.7%**の学校が「大変良かった」「良かった」と回答した。また、児童・生徒への芸術・情操教育面への効果についても、**93.8%**の学校が「大変有効」「やや有効」と回答し、どのような効果があったと思うかについては、「美しさ等への感性が育まれる」(62.9%)「ものづくりの喜びを味わうきっかけとなる」(49.4%)といった回答が多かった。

次回学校向け教育プログラムがあれば参加するかどうかについては、「ぜひ参加」「多分参加」が合わせて**66.3%**であり、「参加しない」は**1.1%**となった。

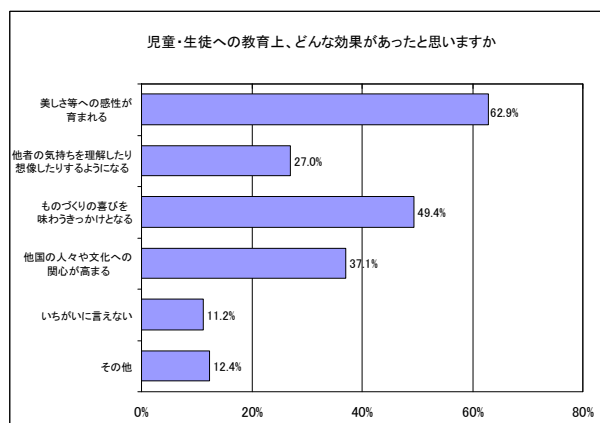
- ・学校向け教育プログラムに参加しての総合評価(96)
※参加校のみ



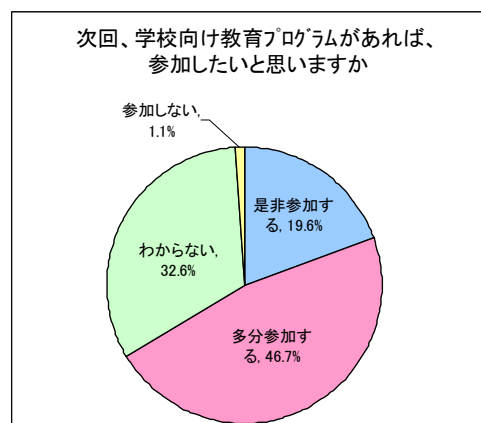
- ・児童・生徒への芸術・情操教育面への効果(96)
※参加校のみ



- ・どんな効果があったと思うか(178)
※複数回答、参加校のみ



- ・次回参加したいか(92)
※参加校のみ



・コメント抜粋

(学校向け教育プログラム参加校の感想)

- ・ガイドの方の説明が大変分かりやすく、生徒たちも真剣に見ていました。ワークシートもあり、鑑賞の視点が定まったので、良かったと思います。
- ・現代アートだっただけに、スタッフによる説明をしていただけて子どもたちにも受けとめやすくありがたかった。
- ・係の方の説明が丁寧で、小学生(4年生)にも分かりやすかった。様々な形の芸術作品に触れ、芸術に対する考え方が広がった。
- ・ボランティアの方々が献身的に対応してくださり、好感が持てた。
- ・街の中での鑑賞はいつもの美術館と違って、のびのびと作品を楽しむことが自然にできていたように感じました。
- ・作品だけでなく、実物をよく観察しないとわからない問題が書かれたワークシートがあったので、生徒の作品を見る目がいつもより真剣でした。
- ・「よくわからないもの」というレッテルを最初から自ら貼って、素通りしていた現代アートの前で立ち止まり、考え思いをめぐらし、改めて自分なりの見解を探させる事を実現できたのが、大きな成果だった。このことは、単にアートとの出会いに限ったことではなく、生徒が対面する様々な日常の出来事や人との出会いにあてはまることだと思う。
- ・生徒の一部でも参加しやすいように、休みの期間をなるべく多く含む開催期間で実施していただけるとありがたい。映像作品が多く、混雑していたので緩和される手立てをとっていただきたい。
- ・開催期間がとても短い。前年度からプログラムがはっきりすれば5月のGWあたりからでも。少なくとも8月1日からは開催して欲しかった。学校から行ってその後刺激を受けて再度見学へ行きたいと思った生徒がいても、開催期間が無かったのは残念。
- ・作品の質にバラつきがあり、トリエンナーレ全体を評価することが難しい。子供にとってまったくわからない作品も多いため、パンフレット等をさらに工夫してほしい。
- ・生徒に芸術の美しさを伝える作品が少ない。
- ・作品の内容に関しては、子どもたちが理解しづらいものもあるが、現代芸術にふれるよい機会であったと思う。また、キッズトリエンナーレでその場で創作活動ができるのもよかった。
- ・美術を志す生徒にはよい経験になったと思うが、現代美術の啓発という意味では参加しにくい。学校教育としてはそこまでの余裕もないし、意義も認められない。
- ・コンピューターを使ったデザイン画を描くときや図画工作の作品作りに、自分の発想を表現しようと頑張っている児童の姿が見られるようになった。
- ・見学後の感想に、自分達も自由な発想で作品を作りたいという内容が多かった。
- ・臨機応変に対応していただき大変助かりました。ありがとうございました。

なお、参加しなかった学校に対し理由を自由記述によって挙げていただいたところ、「他の学校行事等のために時間が取れなかった」「会場が遠かった」という声が多かった。

・コメント抜粋

(学校向け教育プログラムに参加されなかった学校・参加されなかった理由)

- ・行事が立て込んでおり、時間的な余裕がなかった。
- ・本校の年間行事予定と調整がつかなかった。(芸術鑑賞会は春・秋の年2回予定しているが、日程が合わなかった。また、ちょうど学校祭準備などの他の行事が詰まっていた。)
- ・何をしているのかよく分からない事と、どんな学習に役立つのか分からなかった為。また、文化芸術体験については、本校独自に計画、実施している。
- ・生徒一人ひとりの自主的参加を期待した。
- ・校外学習として参加する時間を確保できない。
- ・本校は交通不便地のため、なかなか校外に出られないため。
- ・地理的に距離があり、参加は無理である。

また、子どもたちに現代アートに親しんでもらうため、アーティストと一緒に創作活動ができるよう、アーティストを 7 つの小・中学校、高等学校に派遣した。回答のあった 5 校のうち、「大変良かった」(1 校)、「良かった」(2 校)との評価を得た。

・コメント抜粋

(現代アーティスト派遣校)

- ・ 時間的空間的に厳格に固定された日常生活や日常の思考に新鮮な風を通してくれたのが、今回のプログラムだった。日常的でない事象との出会いや外部の人との交流、共感、生徒に今まで経験したことのない高揚感を実現させた。
- ・ いろいろな表現のしかた、考え方があることを知り、児童自身の見方や考え方が広がった。作品づくりを通じて、みんなでつくり上げる喜びを味わった。児童だけでなく、アーティスト、担当の方たちとの交流を職員も楽しんだ。
- ・ 準備の段階で何度も打合せをしていただき、活動が具体的になった。また、当日の準備(材料等)をしっかりしていただき、計画通りに実施することができた。
- ・ 本校では隔年で学芸会、作品展を行っています。2013 年は学芸会の年にあたるため、授業数との関係で取り組む事は難しいと思います。
- ・ 内容が教育課程と合わない場合は取り組む事はできません。今回も教育活動とのすり合わせという点では苦劳がありました。

V-(5) 経済波及効果及びパブリシティ効果

■経済波及効果

あいちトリエンナーレ 2010 の開催により、愛知県内において約 78 億円の経済波及効果があったと考えられる。

経済波及効果	主催者等総支出	第 1 次波及効果	第 2 次波及効果
78.1 億円	18.1 億円	50.7 億円	9.3 億円

主催者等総支出：あいちトリエンナーレ実行委員会の平成 20 年度から平成 22 年度までの支出及び緊急雇用創出事業基金事業によるあいちトリエンナーレ 2010 関連事業の支出との合計
 第 1 次波及効果：主催者等総支出及び来場者支出(例えば飲食、宿泊、お土産等)による需要発生が、県内のその他産業にもたらす生産誘発額
 第 2 次波及効果：先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

○来場者支出は、会期中に実施した来場者アンケート等を元に、以下のとおり推計した。
 実来場者数・総来場者数(57.2 万人)を、平均来訪回数(2.78 回)によって除し、約 21 万人と想定。
 消費金額等・下表のとおり。

項 目	金 額	1 人当たり平均
飲食	3.5 億円	1,721 円
買い物	7.8 億円	3,767 円
交通費	11.4 億円	5,560 円
宿泊費	3.1 億円	6,721 円
計	25.8 億円	

※宿泊費については、アンケート結果から来場者の約 22%が宿泊者と推計した。

○波及効果は、平成 17 年愛知県産業連関表を用いて算出した。

■パブリシティ効果

あいちトリエンナーレ 2010 のメディア報道におけるパブリシティ効果(広告費換算額)は、47 億円以上と算出される。3 年間の開催準備中の広報・PR 支出額が合計約 1.9 億円であることを考えれば、これだけの換算額となるパブリシティ効果があったことの意義は大きいと考えられる。

種 別	件 数	合計金額(百万円)
新 聞	873 件	1,528
テレビ	176 件	3,073
ラジオ	12 件	11
雑誌等	222 件	116
計	1,283 件	4,728

※各メディアへの掲載又は放映と同じ分量を広告出稿した場合の料金を、1 件ごとに算出し、合計している。

※新聞、雑誌等については、平成 20 年 9 月から平成 22 年 12 月の件数
 ※テレビ、ラジオについては、平成 22 年 8 月から 11 月の件数

V-(6) 専門家意見

あいちトリエンナーレ 2010 について、有識者に対するヒアリングを行うとともに、専門誌等に掲載されている専門家の意見を抽出した。なお掲載にあたって、敬称は略する。

1 有識者ヒアリング結果

9名の有識者※に対し、あいちトリエンナーレ 2010 終了後にヒアリング調査を実施した。

各有識者からは、様々な意見があったが、特に、長者町会場を中心としたまちなか展開及びパフォーミング・アーツを取り込んだ複合性について、評価する意見が多かった。

一方、準備期間が足りなかったのではないかと指摘や、運営面、企画に関し次回に向けた改善点の意見もあった。

また、「長い目で見て、まちの歴史に名を残すことが重要」「最低3回、10年は継続しないと、アイデンティティも獲得できない」など、継続することの重要性に関する意見も数多くあった。

なお、有識者ヒアリングについては、以下に主な意見を記載したが、各有識者の意見全文は、あいちトリエンナーレの公式ホームページに掲載した。

※安住恭子(演劇評論家)、延藤安弘(愛知産業大学大学院教授)、北川フラム(アートディレクター)、篠田正浩(元映画監督)、高北幸矢(名古屋造形大学学長)、南條史生(森美術館館長)、西松典宏(元 NHK 日曜美術館プロデューサー)、藤井知昭(愛知芸術文化協会理事長)、藤江充(愛知教育大学教授) (五十音順)

■成果及び評価できる点

○全体

- ・国際美術展の展示の仕方が大変丁寧、作品レベルが総じて高かった。
- ・多ジャンルにわたり、特にパフォーミング・アーツを積極的に取り入れた点が新機軸だった。

○まちなか展開

- ・長者町の展開は、美術館の枠を超えた印象深いものだった。
- ・まちなかでアートと出会える仕掛けは本当に良かった。若者たちがこんなに集まり、芸術を凝視している姿をみて感動した。
- ・トリエンナーレの開催を通じた人々の交流(プロセス)が、まさにトリエンナーレのアートだったのではないか。
- ・長者町は「アートのロックフェスティバル」となることを期待していたが、長者町はその期待に十分応えてくれた。

○パフォーミング・アーツ

- ・世界水準のダンス「ローザス」「ヤン・ファール」が見られた点が良かった。平田オリザ氏のロボット演劇は、ロボットの先端技術を活用した作品で、パフォーミング・アーツ全体の呼び水になった。
- ・展示空間(ギャラリーG)でパフォーミング・アーツを行ったのが良かった。
- ・劇場のほかに、まちなかでも展開した点が良かった。

■課題

○全体

- ・助走期間が足りない気がした。次回は、もっとアーティストを集める時間を確保すべき。
- ・あいちと称する割には名古屋だけの祭典だった印象。
- ・「愛知と世界をつなぐ」仕掛け、県内市町村の巻き込みなどが弱かった。

○まちなか展開

- ・長者町は評判が良かったようだが、他の会場と比べキュレーションの力が不足している印象を受けた。
- ・まち全体の祝祭的雰囲気が期待していた程伝わってこなかった。

○パフォーミング・アーツ

- ・演劇的視点が弱かったように思う。
- ・ギャラリーGのパフォーミング・アーツは、少しコンセプト倒れで、美術的視点からのみ選ばれた作品という感じがした。
- ・愛知発の創造性のある作品を作り、発信する点で弱かった。

○共催事業

- ・祝祭ウィークの期間が短かった。
- ・祝祭ウィークは、優れた作品もあったものの、公演の寄せ集めに思えた。コンセプトもしっかり立てて取り組んで欲しかった。

■総合評価

- ・第1回目としては大成功と思う。
- ・成功／失敗の判断は最低でも10年後に下すべきだが、それを前提とすると、第1回目としては100点満点で足りないくらいの素晴らしい芸術祭だった。

※点数を答えた有識者は、100点満点で75点～120点という回答

- ・本芸術祭は、県民参加も多く、芸術の視野を高める極めて貴重な機会だった。

2 専門誌等記事

雑誌・新聞等では、あいちトリエンナーレ2010に関し多くの記事が掲載された(掲載件数については、109ページ「パブリシティ効果」参照)。

このうち、美術等の専門誌、新聞の評論、ウェブなどから意見を抽出した。

全体としてみると、「国際芸術祭としてのクオリティ」「独自性(複合性、まちなか展開)」「祝祭性」などに関し、高い評価を得た。以下は、記事の抜粋である。

■国際美術展

- ・(あいちの特色として)一つには参加作家の多様性とバランスの良さにある。(窪田研二・インディペンデントキュレーター・美術手帖)
- ・One characteristic of the Aichi Triennale was its diversity.(あいちトリエンナーレの一つの特色は、「多様性」であった。)(中略)Instead of simply putting their completed artworks on display in galleries, many artists created new works live before the public or gave street performances, generating excitement that enveloped the city.(単にギャラリーに完成した作品を展示するだけでなく、多くのアーティストが新作の制作公開やストリート・パフォーマンスを行うなど、都市全体を包み込むような興奮が沸き起こった。)(高階秀爾・大原美術館館長・Japan Echo Web ※訳は実行委員会事務局)
- ・(渡辺英司「蝶瞰図」に)「ワー、おうちもこんなにしたらおもしろいね」という女の子の声。(中略)この子のような驚きの声に出会えた経験をここに書きとどめることが出来たのも、成果のたしかかな証の一つであると思いたい。(馬場駿吉・名古屋ボストン美術館館長・AAC)
- ・展示内容が両美術館とも本当に見応えがある。(中略)玄人からアート初心者まで楽しめるクオリティの高さがある。／「ここでしかないもの」「初めて挑戦したもの」ってどれだけあるのだろう、そこに若干物足りなさが残った。(宮本初音・アートコーディネーター・西日本新聞)

- ・抜群に面白かった。(中略)地域のしがらみもおもねりもなく、イメージーション全開で好きなことをやっている。まさに祝祭。(村田真・美術ジャーナリスト・北海道新聞)／ぼくの知る限り、これまで日本で開かれた国際展のなかで最良のものだといっておこう。ぜひ見に行くべし。(村田真・artscape レビュー)
- ・国際美術展は一般の人にも楽しめる内容だった。現代美術の敷居を低くしファンを増やしたのではないか。(北川フラム・アートディレクター・朝日新聞)
- ・全体的に難解な作品は少なく、幅広い層に現代美術の面白さを見せようとする意向がうかがえる。(毎日新聞)
- ・実験的な要素はほとんどなかった。(小崎哲哉・京都造形芸術大学客員教授・REALTOKYO)

■パフォーミング・アーツ

- ・ロボット演劇が愛知から世界へ羽ばたく瞬間に立ち会えるのはトリエンナーレの醍醐味である。(毎日新聞)
- ・主催事業のヤン・ファールやローザス、チェルフィッチュの劇場公演は「世界最先端」にふさわしかった。(中略)だが全体的には前衛的で実験的な作品があまりにも多かった。(中日新聞)
- ・複合舞台芸術の元祖ともいえるオペラ「ホフマン物語」は深い味わいだった。古典の魅力に新たな息吹を吹き込み、絶賛を浴びた。(中日新聞)

■キッズトリエンナーレ

- ・国際芸術祭は(中略)参加意識が高まる機能がある。小さな子どもがキッズトリエンナーレなどでアートを体験していた姿もほほえましかった。(中日新聞)

■祝祭性

- ・祝祭と呼ぶにふさわしい雰囲気が醸成されている。(中略)しばしば難解と言われる現代美術の敷居を低くし、多くの市民が気軽に作品に接することのできる機会はやはり貴重だ。(暮沢剛巳・美術評論家・中日新聞)

■あいちの独自性

○複合性

- ・美術と音楽、舞踊など芸術分野が融合もしている。(中略)「あいち」は芸術でその先端にあるのは。(近藤誠一・文化庁長官・中日新聞)
- ・内外に国際美術展がひしめきあう中で「あいち」は、美術とパフォーミング・アーツのジャンル横断という方向性を打ち出した。(朝日新聞)
- ・ヴィジュアル・アーツに加え、パフォーミング・アーツおよび両者の境界線上にある表現も意欲的に紹介される。(窪田研二・インディペンデントキュレーター・美術手帖)
- ・(愛知芸術文化センターの)複合機能が統一テーマを持ってフルに活用されたのは、今回が初めてだ。(中日新聞)
- ・ダンスや演劇の公演も話題作をそろえている。(中略)現代美術だけに限定されない間口の広さが観客から受け入れられていると言えそうだ。(読売新聞)

○まちなか展開

- ・建畠の仕組んだ「まちなかアート」により、日増しにトリエンナーレの認知度は高まっている。(AERA)
- ・長者町会場には、歴史性や環境をうまく取り入れた作品が多かった。(毎日新聞)
- ・あいちトリエンナーレが他の都市型の現代美術の祭典と決定的に異なるのが、既存の街をそのまま展示会場にした長者町会場だ。(中略)街の歴史を追体験できるのは実に楽しい。この意味で本展が

掲げた「都市の祝祭」は成功している。(中日新聞)

■開催場所

- ・会場配置がコンパクトで歩いて回れたのも良かった。(暮沢剛巳・美術評論家・朝日新聞)

■地元との連携

- ・一番変わったのはトリエンナーレにかかわった人たちの意識だろう。(中略)芽生えたこの思いを忘れさせることなく、どう三年後までつないでいくかだ。(中日新聞)
- ・(祝祭ウィークは)枠を打ち破る意欲作がめじろ押しだったが、挑戦自体が目標となった観も。日程も詰め込み過ぎで(中略)客の奪い合いも起きた。(中日新聞)
- ・「あいち」を名乗るなら、名古屋市だけではなくて、県内各地の自治体との連携をもっと進めては。(中日新聞)

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

事務局長

大野明彦(愛知芸術文化センター長)

事務局次長

横山 譲(愛知県国際芸術祭推進室長)

スタッフ

岩田道人、陣内さゆり、菊池 学、川口佐織、米本幸弘、岡田邦裕、加藤祐貴、井上知美、
芦部玲奈、谷口 静、天野真弓、大矢考子、清水早代、
中野充康、権田裕徳、山口智絵子、小柳津彰啓、吉田隆之、山川高英、武田友理、
岡村由佳子、朝比育子、岡谷まりえ、児玉美香、前 道代、
中野文夫、芦沢典幸、曾我浩之、渡辺展仁、石黒弘喜、松村健一、鋤柄宗広、三隅彰子、
永井里沙、大野明美、吉良麻由美、鈴木裕子(以上、愛知県)
梶田富子(名古屋市) 太田枝里(財団法人名古屋市文化振興事業団)
西村知余子(刈谷市) 木下奈美(一色町)
松岡裕佑(国際交流基金)
西山裕子、市川靖子、野田智子、岩佐弘美、市原萌絵(以上、ナンジョウアンドアソシエイツ)

あいちトリエンナーレ 2010 開催報告書

平成 23 年 3 月

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会



あいちトリエンナーレ実行委員会

(愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)

〒461-8525

愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター 6 階

Tel:052-971-6111 Fax:052-971-6115

<http://aichitriennale.jp/>

geijutsusai@pref.aichi.lg.jp